

西藏君主達賴喇嘛ノ條約締結全權委員

グデル、ツアンシブ、カンチェン
ルブサン、アグワン、チョインザン

西藏銀行理事

インチャムツオ

書記

ゲンドウン、ガルサン

事項一六 「バルカン」紛争一件

四六二 五月三十一日

在英国小池臨時代理大使ヨリ
牧野外務大臣宛

英国下院委員会ニ於ケル外交諸問題ニ関スル

外務大臣ノ答弁報告ノ件

公第一五四号

(六月二十四日接受)

大正二年五月三十一日

在英

臨時代理大使 小池 張 造(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

五月二十九日英国下院ニ於ケル外務省予算委員会ニ於ケル種々ノ重要外交問題ニ付キ質問及答弁有之当国外務大臣ハ先ツ英国カ白耳義ノ「コンゴ」併合ヲ承認スルノ件ニ関シ「コンゴ」ニ於ケル行政カ同地白耳義国官憲ノ施政開始以來全ク改善セラレタルコトヲ述ヘ他ノ列国カ已ニ「コンゴ」ヲ白耳義ノ殖民地トシテ承認シタルニ英国ノミカ之ヲ承認セサルハ正当ノコトニモアラス又政略上望マシカラサルコトニシテ英国政府カ白耳義ノ「コンゴ」併合ヲ

承認スヘキ時機ハ已ニ到達セルモノナリト信スト説述致候次ニ本件ニ関スル外務大臣ノ措置ニ対シ二三議員ノ賞賛的演説アリタル後「バルカン」問題「バグダッド」鉄道問題等ニ付キ替ル替ル議員ノ質問有之候因テ外務大臣ハ「バグダッド」鉄道ニ関シ英土兩國間ノ交渉未タ決了セサルモ其取極ニヨレハ鐵道線路ハ英国ノ同意ナシニハ *Basra* ヨリ先ヘハ延長セス英国政府ハ同鐵道ノ營業幹部ニ二名ノ英国人取締役ヲ入ルコトヲ要求シ且差別的賃率ヲ設クルコトナク又此取極中ニハ同鐵道ニ関スル独乙土耳其間ノ取極ニヨリ独乙ノ享有スル權利ト背馳スル規定ナキコトヲ期スル旨ヲ述ヘ又波斯灣問題ニ関シテハ今回英土間ノ取極ニヨリ英国政府ハ *Rowett* ニ於ケル土耳其ノ宗主權ヲ認メ *Koweit-Sheikh* ノ自治權ハ維持セラルヘク又英国政府ト *Sekih* トノ協定ハ承認セラルヘキ旨ヲ演説致候又波斯問題ニ関シ外務大臣ハ英露協約ヲ弁護シ「アルメニヤ」問題ニ就テハ同地改革ノ必要ヲ述ヘ右改革ハ土耳其政府ト列国政府ト協議シテ決定スヘク列国ハ土領重細重ニ於

ケル政權確立ニ助力ヲ与フヘキ旨ヲ述ヘタリ
次ニ統一党首領「ボナー、ロー」氏ハ白耳義ノ「コンゴ」併合承認ニ関シ外務大臣ニ対スル賛辭ヲ述ヘ又「バグダッド」鉄道問題ニ関シテハ英國ハ他國ノ利益ヲモ顧念スルヲ要スト説キ尚同氏ハ「バルカン」問題ニ関スル外務大臣ノ措置ヲ賛シ又「グレー」氏カ政府又ハ自党ノ利益ノ為メニセス真ニ國家ノ為メニ尽瘁シツツアルヲ賞シ世人ヲシテ同氏ヲ政府又ハ政府党ノ代表トシテヨリハ全英國民ノ代表者ト看做スニ至ラシメシコトヲ述ヘテ同大臣ヲ賞揚致候

(後略)

四六三 六月十日

在埃洪國西臨時代理大使ヨリ
牧野外務大臣宛

「アジアトルコ」ニ於ケル列強ノ利權獲得運

動ニ関スル件

埃公第七七号

(六月二十七日接受)

大正二年六月十日

在埃洪國

臨時代理大使 西 源 四 郎 (印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

リ今五月十七日ヲ以テ「タイムス」ノ發表シタル半官的「コンムニケー」並ニ英國外相カ同月二十九日下院ニ於テ言明シタル所ニ徴スルニ右ノ協約ニヨリ英國ノ獲得セントスル利權ハ大要次ノ數項ニ存スルカ如シ

一、波斯灣問題

波斯灣南方沿岸ハ名義上依然土耳其領ニ属スルモ實際ハ各地方獨立ノ姿ニテ英國ハ早クヨリ地方土侯ト条約ヲ結ビテ通商航海上種々ナル利權ヲ獲得セルニ拘ラス土耳其ハ其主權ヲ楯トシテ是等既成ノ狀態ヲ認容スルコトヲ拒ミ為メニ從來英國トノ爭議絶ユルコトナカリシカ今回右ニ関シテ次ノ如キ協定ヲ為シ因リテ双方ノ地位ヲ確定セントセリ

(一) 英國ハ「コワイト」(Koweit)ニ於ケル土耳其古ノ宗主權ヲ承認ス但シ同地ハ土耳其古ノ「カザ」(サンジャックニ次ク行政区画)トシテ自治ヲ保有スヘキモノトス

(二) 土耳其ハ「コワイト」ノ内治並ニ繼承問題ニ干涉セス且ツ同地土侯 (Sheikh) ト英國政府トノ間ニ存スル條約ヲ確認ス

(三) 土耳其ハ「エル、カッル」半島、「バレイン」諸島、一六「バルカン」紛争一件 四六三

亜細亞土耳其ニ於ケル列強間ノ勢力競争ハ過去ニ於テ頗ル著シキモノ有之候処今ヤ土耳其古カ敗余ノ國運ヲ此土ノ開發ニヨリテ支持セントスルニ及ヒ彼等ノ競争ハ益其度ヲ加ヘ來レル様相見エ申候現ニ今回土耳其古カ戰後財政整理ノ手段トシテ多年ノ宿題タル關稅ノ増率ヲ提議シタルヲ機トシ列強ハ之カ認容ノ條件トシテ各種利權ノ讓与ヲ要求シ英國ハ波斯灣並ニ「バグダッド」鉄道ニ関シテ有利ノ地歩ヲ占メントシ仏國ハ「アナトリ」並ニ「シリ」ニ於テ鐵道港灣ニ関スル利權ヲ獲ントシ露獨兩國亦「アナトリ」ニ於テ同様ノ利權ヲ要求セル等亞細亞土耳其ハ邦土開發ノ形ニ於テ全然列強角逐ノ舞台タラントスルノ感有之候以下列強要求ノ内容其他ニ関シ考察ノ一斑御參考マテニ貴覽ニ供シ候

英土協約

土耳其政府ハ本年二月中旬前宰相「ハッキ、パシャ」ヲ倫敦ニ派シ前記關稅増率ニ関シ英國政府ノ認容ヲ求メシメタルカ同政府ハ右認容ノ條件トシテ波斯灣並ニ「バグダッド」鉄道ニ関スル懸案ヲ解決センコトヲ要求シ双方交渉ヲ果ネタル結果右ニ関スル一協約既ニ具體的ノ成立ヲ見ルニ至レ

「ムスカット」其他英國ニ親善ナル諸土侯ノ領土上ニ於ケル宗主權ニ関スル主張ヲ放棄ス

(四) 土耳其ハ英國カ從來ノ通り波斯灣ニ於ケル点燈浮標並ニ警備ノ任務ヲ執行スルノ權利ヲ承認ス

「コワイト」ハ波斯灣ノ西北隅ニ位シ人口一万五千ヲ超エサル一小港ナルモ亞刺比亞北方物資ノ發出口トシテ早クヨリ其価値ヲ認メラレ近ク「バグダッド」鐵道終點ノ一ニ數ヘラレタル程ニテ英國ハ夙ニ此地世襲ノ土侯ト結ビテ自家ノ地位ヲ樹立シ千八百九十九年以来土侯ヲ全ク其保護下ニ置クニ至レリ又「バレイン」諸島ハ波斯灣ノ南岸ニ位シ眞珠產地トシテ名アリ「エル、カッル」ハ同島ニ近接セル一半島地「ムスカット」ハ所謂「オマン」國ノ首府タリ而シテ此等ノ諸地点ヲ始メトシ「エル、カチフ」、「アブダビ」、「シャルガ」、「バサルケイマ」等同灣沿岸ノ各地ハ何レモ英國多年ノ努力ノ下ニ等シク事實上ノ被保護者トナレルモノ今次ノ協約ヲ以テ土耳其古カ全ク其宗主權ニ関スル主張ヲ擲ツニ及ヒ波斯灣ニ於ケル英國ノ優越的地位ハ更ニ一層ノ鞏固ヲ加フルモノト謂フヘシ

一、「バグダッド」鐵道問題

「バグダッド」鉄道ノ尖端愈波斯灣頭ニ現ハルル眺ニハ同湾ノ形勢ヲ一変セシムヘク英國既往ノ地位ニモ至大ノ影響ヲ及ボスヘキコト明カナルヲ以テ同国ハ右鉄道計画ノ成立以來常ニ自衛の警戒ヲ怠ラス其千九百〇四年ヲ以テ「バグダッド」市ニ至ル敷設契約成ルノ後モ少クトモ同市以南ノ最終線ニ於テ自家防護ヲ全ウセンコトヲ努メタリ之ヲ以テ同鉄道会社カ千九百十一年「アレキサンドラッタ」(地中海岸)ニ至ル支線ノ敷設権ヲ獲タルニ当リ英國ニ向テ前記最終線ノ敷設ニ関シテ参加ヲ求メ或ハ之ヲ國際的資力ニ成レル新会社ニ委スノ案サヘ提起シタルモ英國ハ直ニ之ニ応スルコトナク以テ今日ニ至レルモノナリ而シテ今回ノ協約ニヨリ英國ハ先ツ「コワイト」ノ自治ヲ安固ナラシムルヲ理由トシテ同地ヲ「バグダッド」鉄道ノ終点トスルヲ拒ミ且ツ「バスラ」港カ其終点タルニ異議ヲ挾マサルモ英國ノ同意ナキ限り更ニ之ヲ延長スルコトヲ許ササルモノナリトセリ「バスラ」ハ「チグリリス」、「ユーフラーツ」両河ノ合流「シャッテル、アラブ」ノ右岸ニアル一港ニシテ湾ヲ隔ツルコト五十五哩ナルモ外洋汽船航行ノ便アリ而シテ英國ハ此間ノ航行ニ関シ既ニ久シク優越ノ地位ヲ有セルヨリ以テ

巴里ニ於テ其他ノモノハ土京ニ於テ何レモ交渉継続シツツアリ以下「エコー、ド、パリ」紙ノ發表スル所ニ拠リ右要求ノ大要ヲ示サントス

(一) 鉄道

「アナトリー」(小亜細亞)ニ於テ黒海岸ノ一港「サムスン」(Samsoun) ヲリ「シウナス」(Sivas) カルプット(Kharput)、「ディアルベキル」(Diarbekir) 及ヒ「ヘルズルム」(Erzeroun) ヲ経テ黒海岸ノ「ツレブゾンズ」(Trebzond) ニ至ル鉄道敷設経営権ヲ要求シ「シリ」ニ於テ既成「ダマス」、「ハマー」(Damas-Hamah) 線ヲ「レイヤック」ヨリ「ゼルサレム」方面ニ延長センコトヲ要求セリ右ノ内「アナトリー」ニ於ケルモノハ千八百九十年中一度仏人ニ於テ其特許ヲ得タルモ一方工事ノ困難ナルト一方露国ヨリノ抗議アリシトニヨリ起工ヲ中止シタルモノナリ實際右ノ一線ハ露国ノ勢力範圍タル北方「アルメニー」ヲ貫通シ殊ニ露領「コーカサス」並ニ波斯ノ境界ニ近接セルヲ以テ何等カノ取極ナキ限り露国カ之ヲ他国人ノ手ニ委センコト不可能ト云フヘシ随テ仏国ハ今回右ノ要求ヲナスニ当リ起工ノ時期ハ土耳其露国兩

独逸ノ勢力ニ当リ得ヘシトナスモノナリ
右最終線(「バグダッド」、「バスラ」間)ノ敷設経営ニ関シテハ英國ハ表向キ参加ヲ要求セサルモ實際上独、仏、露諸国ト同一ノ程度ニ於テ資本上ノ關係ヲ保チ且ツ自國通商防護ノタメ同國貨物ニ対スル一切ノ差別的課徵待遇ヲ排シ且ツ之ヲ達スルノ手段トシテ鉄道会社幹部ニ二名ノ英國資本代表者ヲ加ヘンコトヲ主張セリ

三、「チグリリス」、「ユーフラーツ」航行権

英國ハ又其貿易ヲ「チグリリス」、「ユーフラーツ」両河ノ流域即チ「メソポタミー」平原ノ市場ニ伸展セシムルカタメ両河ノ航行ヲ重要視シ從來右ニ関シテ幾多ノ特権ヲ有セルモノ殊ニ「シャッテル、アラブ」ニ於テハ浚渫、点燈、浮標、測量並ニ警備ノ任ヲ遂行シ來レル次第ナルヲ以テ今回ノ協約ニヨリ更ニ此等ノ既得権ヲ確定シ「シャッテル、アラブ」航路維持上ノ諸任務ニ関シテハ英國ノ分子ヲ主トスル一委員團ヲ組織シ之カ遂行ノ任ニ当ラシメントセリ

仏國ノ要求

仏國モ亦土耳其關稅増率ノ認容ニ対スル条件トシテ本年二月鉄道港灣其他ニ関スル利権ヲ要求シ鉄道ニ関スルモノハ

國政府間ノ協定ニ從フヘキモノトナシ以テ關係國ノ利害背馳ヲ避ケントセリ

(二) 港灣

港灣ニ関シテハ仏國ハ黒海岸ノ「イネボリ」(Ineboli)、「エングリ」(Eregli) 及「シリ」沿岸ノ「ハイファ」(Haifa)、「ジャファ」(Jaffa) ニ於ケル港灣經營ニ関スル特権ヲ要求セリ

(三) 仏國民ノ待遇問題

土耳其ニ於ケル治外法權制度中裁判手續ニ関シテ頗ル明確ヲ欠ケル所アリ之カタメニ土耳其法廷ニ於テ裁判ヲ受クル外國人ハ往々必要以外ニ拘禁セラルル等不利ヲ蒙ル點黜カラサルヨリ仏國ハ將來紛議ノ因ヲ除クタメ土耳其法廷ニ裁判ヲ受クル仏國民ハ仏國領事監獄以外ニ拘禁セラレサルモノトシ同時ニ「チュニジー」人並ニ「マロツク」人ニモ仏國民同様ノ裁判上ノ資格ヲ与ヘンコトヲ要求セリ

(四) 學校其他ノ公共的設物ニ關スル特権

仏國ハ「シリ」地方ヲ始メ亜細亞土耳其ノ全部ニ亘リ多年宗教上並ニ教育上ノ勢力ヲ張ルニ努メ從來之ニ関シ

テ享有セル特権頗ル多シ現ニ仏国人ノ経営セル教会、施療院其他ノ宗教的設造物四十余个ニ及ヒ大小ノ学校数亦二十七個ヲ算シ普及ノ度ニ於テ列強中其右ニ出ツルモノナシ而シテ仏国政府ハ千九百〇一年ノ協約ヲ以テ土国ヲシテ更ニ若干ノ学校其他公共的設造物ニ関スル特権ヲ仏人ニ許可スヘキコトヲ約セシメタルモ今ニ至ルマテ之カ履行ヲ見サルヨリ今回右ノ許可ヲ始メ前記協約ノ確実ナル履行ヲ要求シ之ト共ニ仏人経営ノ学校ニ対シ卒業証書ノ効力徴税ノ免除等ニ関シ土耳其公立学校ト同等ノ待遇ヲ与ヘンコトヲ要求シタリ

露国並ニ独逸ノ要求

土耳其ハ前記関税増率ニ関シ英仏兩國ニ対スル同様露国並ニ独逸ニ対シテモ交渉ヲ開始シ兩國亦之ニ対シテ各自利権ノ要求ヲ提起セルモ未タ内容ノ全斑ヲ明カニセス唯独逸ハ右関税増率ノ利益ヲ「バグダッド」鉄道ニ対スル保障ニ及ホサンコトヲ主張シ鉄道ニ関シテハ「アナトリー」ニ於ケル既成「アナトリー」鉄道ノ支線終点タル「アングラ」(Angora) ヨリ「ユズガット」(Yuzgat) 「シヴァス」(Sivas) ヲ經テ「サムスン」(Samsoun) 「カルプット」

ス現時ノ波斯ト同様ノ運命ニ陥ルヤモ測ルヘカラサルナリ右及御報告候 敬具

四六四 九月九日

在埃洪国西臨時代理大使ヨリ
牧野外務大臣宛

「バグダッド」鉄道並「アルメニア」及「シ

リア」ニ於ケル利権ニ関スル独仏協定ノ件

埃公第一二二六号 (九月二十六日接受)

大正二年九月九日

埃洪国

臨時代理大使 西 源 四 郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

近來列強カ亞細亞土耳其ニ於ケル利権獲得ニ腐心シ随テ相互間ノ利害ノ背馳漸ク多キヲ加ヘツアル次第ハ六月十日附公信第七七号ヲ以テ及報告置候処今回独仏兩國利害關係者間ニ「バグダッド」鉄道ヲ始メ「シリ」及「アルメニア」ニ於ケル各種ノ利権ニ関シ一種ノ妥協的協定ノ成立ヲ見ルニ至リ候固ヨリ今日ノ処未タ兩國政府ノ交渉ヲ了ヘス殊ニ独逸側ノ報道ハ単ニ兩当事者間ニ於テ意見ヲ交換シタルニ止リ何等ノ拘束力ナキモノトシテ其価値ヲ蔽ハント努

一六「バルカン」紛争一件 四六四

(Kharput) 「ディアルベキル」(Diarbekir) ヲ連結センコトヲ要求セルカ如ク又露国ハ同地方ニ於ケル前記仏国ノ要求線ヲ争ハントスルモノノ如シ

結 論

以上列強ノ土耳其ニ対シテ要求スル所ハ何レモ彼等相互ノ利害ニ背馳スルモノニシテ土耳其ノ承諾ヲ經ルモ更ニ關係國間ニ妥協ノ成立ヲ要シ問題ハ愈出テテ益紛糾ヲ加ヘントス殊ニ「バグダッド」鉄道ニ関スル英國ノ主張ノ如キ独逸ノ利益ニ至大ノ影響ヲ及ホスモノニシテ同國ハ之ヲ承認スルノ条件トシテ「モハメラ」(「シャッテル、アラブ」河左岸) ヲ起点トスル英國ノ鉄道敷設計画ヲ中止セシメ且ツ前記土耳其ノ関税増率ノ利益ヲ「バグダッド」鉄道ノ保障ニ及ホスノ主張ニ対シ其後援ヲ得ンコトヲ要求シツツアリ更ニ仏國ノ「アナトリー」ニ於ケル鉄道ニ関スル要求ハ露國並ニ独逸ノ要求ト重複セルヲ以テ仮令同盟國タル前者トノ妥協ヲ望ミ得ヘシトスルモ後者トノ競争ヲ避クルコト能ハス又黒海岸並ニ「シリ」沿岸ノ港灣経営モ独逸ノ反抗ニ加フルニ英國ノ異議ヲ招クノ虞アリ列強ノ利権爭奪斯ノ如クニシテ底止スル所ナカラシカ敗余ノ土耳其ハ或ハ遠カラ

メツツアルモ實際兩國政府カ右ノ協定ニ関与セルハ事實ニシテ早晚兩國間正式ノ協定トシテ現ハルヘキモノト被認候ニ付其内容並ニ影響ノ範圍等前記公信統報トシテ御參考マテ茲ニ供貴覽候

一、「バグダッド」鉄道ニ関スル協定

独仏間今回ノ協定ハ独逸ノ資本ニ成レル独逸銀行 (Deutsche Bank) ノ支配人カ本年六月中巴里國際財務委員會ニ参列ノ際主トシテ仏國ノ資本ニ成レル土耳其銀行 (Banque Ottomane) 代表者ニ対シ單純ナル意見ノ交換ヲ申込ミタル端緒ヲ開ケルモノニシテ爾來伯林及巴里ニ於テ兩銀行当事者間ニ交渉ヲ進メ八月下旬具体的決定ヲ見同二十六日「フランクフルト、ツァイツング」ノ報道ニヨリ始メテ公表セラレタル次第ナリ協定ノ一半ハ仏國力從來「バグダッド」鉄道ニ投下シタル資本ヲ独逸ニ譲リテ事実上同鉄道経営ヨリ撤退スルモノニシテ仏國ハ同鉄道ニ対スル權利ノ代表トシテ前記土耳其銀行ノ手ニ於テ其株券額百四十万磅ヲ引受ケ尚引受額ヲ六百四十万磅マテ増加シ得ル權利ヲ保有シタルカ今回右ノ株券並ニ權利ヲ挙ケテ前記独逸銀行ニ譲渡サントスルモノナリ仏國ノ右ノ讓歩タル「バグダッド」鉄道

ニ対スル同国多年ノ希望ヲ断念シタルモノニシテ同鉄道計画ノ当初少クトモ独逸ト同等ノ地位ヲ占メンコトヲ期シ千九百年独逸ヨリ参加ヲ求メタルニ対シテモ条件ヲ不満足ナリトシテ拒絶シタリ其後多クノ曲折ヲ経テ千九百三年愈参加ヲ実行スルニ至リタルモ当時独逸側ノ資本豊富ニシテ其勢力ニ拮抗スルノ余地ナク単ニ前記ノ如ク土耳其古銀行ニ於テ少部分ノ資本ヲ引受ケタルニ過キス且ツ該引受株券ハ巴里市場ニ現ハルルノ資格ヲ欠キ居ルヲ以テ資本トシテ運轉力ヲ有セス随テ同国ノ参加ハ殆ント有名無実ニ帰セントセリ同国ハ此窮境ヲ脱センカタメ千九百九年英國ト協同シテ「シリ」沿岸「トリポリ」(Tripoli)ヨリ亜刺比亜ヲ經テ波斯灣ニ達スル鐵道ヲ敷設シ以テ北方ニ於ケル独逸ノ經營ニ對抗センコトヲ計画シタルモ結局実行ヲ見スシテ止ミ一方其同盟国タル露国ハ千九百十一年「ポツダム」協約ニヨリ又英國モ最近ノ交渉ニヨリ何レモ同鐵道ニ対スル独逸ノ单独支配權ヲ承認スルニ至リ仏國ハ孤立ノ姿ニ陥リタルヲ以テ遂ニ兩國ノ例ニ倣ヒ今回交換ノ条件ノ下ニ同鐵道ニ対スル權利ヲ放棄スルニ至リタルモノナリ

二、「アルメニー」及「シリ」ニ於ケル

免レテ同方面ノ經營上一大難關ヲ排シタルモノト云フヘク殊ニ同国多年ノ宿望タル「シリ」經營ハタメニ著シキ進捗ヲ見ルニ至ルヘシ畢竟同国ノ輿論力交換利益ノ輕重必スシモ明カナラサルニ拘ラス概シテ満足ノ意向ヲ示セルハ主トシテ之ヲ喜ヘルカタメニ外ナラサルナリ

右及報告候 敬具

四六五 十二月十五日

在独国船越臨時代理大使ヨリ
牧野外務大臣宛

「ドイツ」帝國宰相ノ議會ニ於ケル外交演説

報告ノ件

(附屬書) 右演説訳文

公第二三二二号

(大正三年一月七日接受)

大正二年十二月十五日

在独

臨時代理大使 船越光之丞(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

独逸帝國宰相「ペートマン、ホールウェツヒ」氏ハ本月二日例年ノ如ク本期帝國議會ニ於テ独逸ノ最近外交政策ニ付キ一場ノ報告演舌ヲ為スヘキ予定ナリシ趣ハ世上一般ニ相伝候トコロニ有之候処政府ハ「ツァーベルン」事件ニ関シ

利権ニ関スル協定

独仏間協定ノ他ノ一半ハ独逸カ仏國ノ右ノ如キ讓歩ニ対シ同國カ目下土國ニ対シテ要求セル「アルメニー」及「シリ」ニ於ケル鐵道並ニ港灣ニ関スル利權ヲ承認スルニアルモノニシテ独逸銀行ハ土耳其古銀行ノ讓渡シタル「バグダッド」鐵道株券ノ代償トシテ千九百十一年土國政府ヨリ引受ケタル借款ヲ交付シ右ノ利權実行ニ使用セシメントセリ仏國ノ要求セル利權ハ大要六月十日付公信第七七号ヲ以テ報告セル通りニシテ「アルメニー」ニ於テハ黑海岸「サムスン」ヨリ「シヴァス」「カルプット」ヲ經テ「ディアベクル」ニ至ル鐵道線独逸ノ要求線ト重複シ「シリ」ニ於テハ「ダマス」「ハマー」線ノ延長「ラヤック」(Rayak)「リダ」(Lyda)線ハ独逸勢力ヲ含メル「ベジジャズ」(Hedjaz)鐵道ノ利益ト衝突シ更ニ「トリポリ」「ハイファ」及「ジアフア」ニ於ケル港灣經營モ亦従来独逸ノ努力セル勢力扶植計画ト相容レサルモノナリ而シテ今回ノ協定ニヨリ独逸ハ是等ノ諸点ニ於テ仏國ニ讓歩シタルモノニシテ「バグダッド」鐵道ニ対スル单独支配權ヲ確實ニシタルハ以テ以上ノ不利ヲ補フテ余アリトナセルカ如ク又仏國ハ独逸ノ競争ヲ

(本月十五日付公第二二八号参照)端ナクモ議會ノ激論ヲ買ヒ議會ハ遂ニ宰相ノ責任ヲ問フニ至リ右演舌モ從テ延期セラレ漸ク去九日午後実行ノ運ト相成候次第ニテ其大要ハ既ニ拙電ヲ以テ及御報告候通ニ有之候尤モ今回ハ所謂普通一辺ノ外交演舌ニ止リ何等重要ナル問題ニ亘ル事可無之由ハ曩ニ本官ガ外務次官「チンメルマン」氏又ハ「フランクフルテル」新聞通信員「ウェルトハイマー」氏等ト面晤ノ際同氏等ノ内話セシ処ニ有之候処果シテ何等耳新シキ事項ハ無之又極東問題ニ関シテハ一ノ言及スルトコロ無之様ノ次第ニ候得共兎ニ角御参考迄右電信確認旁々別紙ノ通委細訳出ノ上及御報告候間御査閱相成度此段申進候 敬具

(附屬書)

独逸帝國議會ニ於ケル独逸宰相ノ外交演舌訳文

諸君、客年余ガ此壇上ニ於テ諸君ニ東方問題ニ関スル独逸政府ノ所見ヲ披瀝シテヨリ今日ニ至ル迄茲ニ一星霜其間ニ於テ暗雲久シク結ンデ解ケザリシ巴爾幹ノ天地モ第二次巴爾幹戰爭「ブカレスト」条約並ニ土國對四國ノ媾和結了等ヲ經テ仮令今尚右時局問題ニ関シ一抹ノ余影ヲ止ムルモノアリト雖モ大体ニ於テ積雲一掃、清明ノ時期ヲ見ルニ至リ

タリ、一時交渉行悩ノ為解決困難ナルヤニ観セラレタル彼ノ南北「アルバニヤ」境界確定ノ問題モ適当ノ時期迄ニハ夫レ夫レ係争国間ニ円満ナル協定ヲ見ルニ至ルヘク又特ニ吾人ノ特殊利益ト接触スルコト甚タ深キ欧州土耳其分割ノ結果發生シタル彼ノ土国々債分担ノ難問ニ至リテハ曩ニ之カ解決ヲ企圖シテ今夏巴里ニ集合シタル国際會議ハ吾人ガ多大ノ望ヲ囑シタルニ不拘惜イ哉巴爾幹第二次戦突発ノ為遂ニ其議事ヲ中止スルノ已ムヲ得サルニ至リ同問題ハ為メニ今尚未解決裡ニ彷徨スルノ現状ナリ吾人ハ右會議ノ再開ヲ見ルノ日迄ニハ列強殊ニ仏國ト協力シテ之カ無事解決ヲ期スル為前以テ基礎条件ヲ確定シ置クノ極メテ策ノ得タルモノナルヘキヲ信シ敢テ之ニ向ツテ微力ヲ致サント欲スルモノナリ

「イージアン」諸島問題ノ運命ニ関シテハ之レ固ヨリ吾人ノ濫リニ揣摩スヘキノ限リニ非ズシテ一ニ列強ノ総意ヲ起點トシテ其方向ニ展開スヘキモノナリトハ雖モ余ハ茲ニ其平和ナル解決ヲ敢テトシ得ヘシト思フ奈何トナレハ人若シ過般ノ巴爾幹時局ニ際シ其形勢頗ル險惡ヲ告クルニ至ルヤ列國ノ利害相錯綜シテ甲ノ不利トスル処必シモ乙ノ利トセ

曩ニ「ブカレスト」平和条約ノ締結セラレテ其カ改正問題ノ頻リニ論議セラルルニ至ルヤ茲ニ端ナクモ列國意思ノ扞格ヲ来シタルコトアリタルガ其際吾人ハ当初ヨリ此協約ヲ以テ半島問題ノ確定的解決ヲ為スノ關鍵タリト信シ爾来今日ニ至ル迄吾人ハ此所信ヲ執ツテ動カサリシナリ此貴重ナル協約成立ハ「ルーマニア」政府ノ高尚ナル態度ト其主権者ノ洞察力及其政治家ノ巧妙ナル政策ニ負フ処頗ル大ナルコトハ吾人ノ認識セサルヘカラサル処ナラン若シ當時該協約改正ノ目的並其範圍等ニ付キ何等相互ニ意見ノ歸一スル処ナク而モ意見ノ扞格ヲ纏ムルニ足ルヘキ国際會議ノ準備セラレサリシ状態ニアル列強ガ此協約ノ改正ニ着手シタリト仮定セハ其次ニ現ハレ来ルヘキ結果ヤ如何ナリシナラム蓋シ想像スルニ余リアルヲ思フナリ始メ埃匈國カ此問題ニ付吾人ト異レル見解ヲ把持スルノ事實明白トナルヤ卒直ニ言ヘバ或ハ我同盟關係ハ之カ為好マシカラサル影響ヲ受クルニ至ルヘキヤニ思惟セラレタル処元来二國ノ同盟關係ハ兩帝國ノ生存条件ト深ク契合スルモノナルヲ以テ埃匈國ニ寧ロ利害ノ關係厚クシテ我ニ比較的薄キ巴爾幹ノ一問題ニ関スル多少ノ意見ノ差異ニ依リ我盟友關係ニ何等動搖ヲ

サル処ニ非サルノ状態ナリシニモ不拘彼等ハ常ニ相戒メテ其共同目的タル危機ノ抑制ニ尽力シタルノ顯著ナル事實ニ想ヒ到ラハ何人モ皆余ノ説ニ首肯スルヲ躊躇セサルヘケレハナリ之レ畢竟列國ガ一方巴爾幹半島ニ於テ適當ナル新關係ヲ樹立セシムルノ必要ヲ認ムルト同時ニ他方之カ為列強全体ノ關係ハ些ノ動搖ヲ来サシムヘキモノニ非ストノ共同意識ノ益々彼等ノ間ニ昂マリ来リタルニ由ラズンハアラズ余ハ彼ノ過去ニ於テ世人賛否ノ声頗ル喧シカリシ倫敦協約ノ如キモ今後世人ニ依リ該協約ガ克ク歐洲ノ永久の利益ノ奈辺ニ存スルカヲ探知シ深ク之レト契合シタルモノトシテ感謝ノ意ヲ以テ迎ヘラルルノ日ノ必ス到来スヘキ事ヲ疑ハサルナリ

吾人ハ從來歐洲協調ニ参加スルニ際シテハ常ニ極力我盟邦タル埃伊ノ特殊利益ヲ強硬且有効ニ支持シ来リタルト共ニ英國トハ相互の信頼ヲ以テ共同動作ヲ行ヒ露國トモ又常ニ友好的關係ヲ持續スルコトヲ怠ラサリキ其結果ハ幸ニモ吾人ヲシテ仏國トノ關係ニ於テ正當ニシテ誤ナキヲ期スル事ヲ得タリ吾人今後ノ行動ト雖モ永ク此道程ヲ辿ツテ渝ルコトナカルヘシ

及ホスカ如キ事ハ之ナカリシナリ三国同盟ノ結合ガ如何ニ鞏固ナルカハ今次ノ巴爾幹事端ニ際シ尤モヨク外部ニ表明セラレタルハ諸君ノ知悉セラルル処ナルヘシ

土國將來ノ開發ニ対スル歐洲列強ノ態度如何此問題ニ対スル回答ニ付テハ幸ニモ已ニ列強間ニ全然意思ノ一致ヲ見タリト信ス即三国同盟ノ諸國ノ側ニアリテハ已ニ「ボスニア」「トリポリ」兩問題ノ結末ヲ告ケタル今日土國ノ領土ガ保全セラシ其内部ノ團結ガ益々鞏固ヲ加フル事ハ全然三国ノ利益ニ適合スルモノニシテ從テ之ニ関スル総テノ問題ニ付テハ三国ノ執ルヘキ諸政策相一致シ統一シ而モ其極メテ強固ナルコトハ本年七月「キール」ニ於ケル独伊兩帝会见ノ際予ト伊国外相「サン、ダハイン」侯トノ意見ノ交換ニヨリ一層確認セラレ過去ノ事實ニヨリ剴切ニ証明セラレタルナリ

次ニ英國及露仏同盟二國モ亦土國將來ノ啓発ニ対シ吾人ト同一ノ見解ヲ有スルモノナル事ハ吾人之レヲ明カニスル事ヲ得タリ即世人ノ熟知スルカ如ク本年八月十二日英國外相「グレー」氏ガ東方問題ニ対スル英國政府ノ態度ヲ宣明シタル処ハ克ク独逸對土政策ノ根本觀念ト符合シ共ニ其主眼

トスル処土国威厳ノ維持ト内政改革ヲ条件付トスル欧亞土
 国領ノ保全トニアルヲ知ルナリ而テ英國總理大臣「アスキ
 イス」氏ハ本年十月「ギイルド、ホール」ニ於テ右ノ意味
 ヲ一層敷衍シテ曰ク土国ノ領土保全ノ条件タル其内政ノ改
 革ハ歐洲全体ノ干渉ノ下ニ行ハルヘキモノニ非ズシテ唯小
 亜細亞ノ発達ニ付テ利害ノ關係ヲ有スル列国ノ指導ト鞭撻
 トニ俟ツテ之カ遂行ヲ見サルヘカラズト、更ニ軫シテ露國
 政府ノ意圖ヲ見ルモ其小亜細亞ニ於テ領土獲得ニ意無クシ
 テ吾人ト共ニ専心土国ヲシテ「アルメニア」ノ状態改善ヲ
 遂行セシメントスルニ存スルハ曩ニ露國宰相「コツコフ」
 氏同外相「サゾノフ」氏等ノ来伯ニ際シ予ガ彼等ヨリ親シ
 ク聞ク事ヲ得タル処ナリ最後ニ吾人ノ考察ニシテ大過ナシ
 トセバ仏國ノ対土政策モ之ヲ今日迄ノ時局ノ推移ヨリ帰納
 スレハ又其保守的性質ヲ帶フルモノナル事ヲ推断スルヲ得
 ペシ

斯ク論シ来レハ吾人ハ近東ニ於ケル列国今後ノ競争ハ専ラ
 經濟上ノ企業ノ上ニ存スベクシテ政治上ノ葛藤ノ如キハ茲
 当分其影ヲ潜ムヘキヲ知ルナリサレハ吾人ガ「バクダッド」
 鐵道ヲ中心トシテ小亜細亞ニ占有スル我特殊利益ニ付テハ

錯綜セル利害關係ヲ公平ニ裁斷シ互ニ将来ニ於テ無益ナル
 經濟上ノ争ヲ為サン事ヲ避ケント期シツツアリ固ヨリ之ニ
 ヨリ独逸側ノ片面的權利ノ拋棄ヲ承諾セントスルニ非サル
 ハ勿論往々我新紙上飛説ノ伝フルカ如ク今回ノ商議ノ目的
 ヲ以テ独逸カ中央亞弗利加ニ於テ利益ヲ新ニ得ンカ為小亜
 細亞ニ於ケル我已得ノ利權ヲ拋棄シ若シクハ之レト反對ニ
 小亜細亞ニ於テ我カ利益ヲ得ンカ為メ中央亞弗利加ニ於ケ
 ル我利益ヲ拋棄セントスルニアリト為スカ如キ無稽ノ説ヲ
 流布スルハ我ヲ誣ユルモ又甚シト謂フヘシ

余ハ未ダ独英二国間ニ進行シツツアル右協商ノ内容ニ立入
 リ茲ニ之ヲ説明スルノ自由ヲ有セズト雖モ右交渉ニシテ現
 在兩國政府ノ維持シツツアル方針ニ從ツテ今後其歩ヲ進メ
 ンカ其協商成立ノ咍ニ於テ世人ハ之ヲ以テ良ク二国将来ノ
 紛争ヲ根絶シタルモノトシテ多大ノ賛辭ヲ呈スルニ至ラン
 事ハ余ノ深ク信シテ疑ハサル処ナリ

余ハ切ニ独英二政府ノ間ニ現存シツツアルト同様ノ友好的
 感情ノ速カニ兩國々民ノ全階級ニ拡充スルニ至ラン事ヲ期
 望シテ已マサル者ナリ云々

特ニ深甚ナル注意ヲ払ヒ苟モ之カ保護ニ付遺憾ナキヲ期セ
 サルヘカラズ茲ヲ以テ余ハ小亜細亞ニ於テ一面将来好マシ
 カラサル經濟上ノ葛藤ノ發生ヲ予防シ他面我「バクダッド」
 鐵道ノ施設ヲ政治上將經濟上永久不拔ノモノタラシムルノ
 現下ノ事情ノ下ニ於テ頗ル緊要ナル事ヲ認メ已ニ此目的ヲ
 以テ英國政府ト商議ヲ開始シタル事ハ曩ニ余ガ前会期中諸
 君ニ報告シタル処ニシテ又其後吾人ハ更ニ仏國トモ同様商
 議ヲ開キ同方面中独仏兩國ノ經濟的活動ガ互ニ參差接触ス
 ル地方ニ於テ将来兩國衝突ノ種トモナルヘキモノヲ芟除ス
 ヘキ事ヲ企テタリ尤モ該商議ハ未ダ尚交渉ノ初期ニ属スト
 雖モ英國トノ交渉ハ目下著シク進捗ヲ告ケツツアル事ハ余
 ガ窃ニ諸君ノ留意ヲ乞ハント欲スル所ナリ

尚其外吾人ハ英独二国ノ間ニ蟠マレル經濟的將植民政策的
 施設ニ関スル各個ノ問題ニ付キ個別的ニ親シク意見ヲ交換
 シ予メ二者ノ意思ノ疎通ヲ計リ置ク事ハ兩國ノ終始渝ラサ
 ル親交ヲ維持増進スル上ニ不尠裨益スヘキモノナルヲ信シ
 是程更ニ亞弗利加問題ニ関シ英國トノ間ニ別箇ノ商議ヲ開
 始シ何等同地方ニ於ケル第三国ノ利益ヲ害スル事ナクシテ
 ——余ハ此点ヲ力強く言ハント欲ス——独英二国間ニ互ニ

四六六 十二月十八日

在奧洪國西臨時代理大使ヨリ
牧野外務大臣宛

第二「バルカン」戦争後ニ於ケル「ブルガリ

ア」ノ国情ニ関シ報告ノ件

附記一

大正元年十二月二日附内田外務大臣宛在中國
伊集院公使宛送第六七号

「巴爾幹事件概要」(一)及(二)送付ノ件

二 「巴爾幹事件概要」(三)乃至(七)

奧公第一六四号 (大正三年一月六日接受)

大正二年十二月十八日

在奧洪國

臨時代理大使 西源四郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

巴爾幹ノ形勢ハ「ブカレスト」ニ於ケル媾和条約ヲ一段落
 トシテ一応ノ解決ヲ告ゲタルモ尚ホ其ノ裏面ニ於テ一種ノ
 暗影ノ潜在セルアルハ争フベカラザル事實ニシテ其内最モ
 注目スベキハ蓋シ勃牙利國ノ態度ナルベシ同國ニ於テハ第
 二巴爾幹戦争ノ勃発ニ依リ親露「ダネフ」内閣ノ瓦解トナ
 リ之ニ代レル反動内閣ハ排露主義ヲ執リテ漸ク奧洪國ニ親
 近セントスルノ色アリ是ニ於テカ親露、親奧兩派ノ政党間

ニ激烈ナル政争ヲ醸起シ其ノ勝敗如何ハ直ニ埃露両強間ニ介在セル勃国ノ向背ヲ決セントスルノ形勢ニ在リ若シ親埃派ノ現政府党ニシテ克タンカ親露派ハ閉息シ埃洪国ノ親勃政策ハ彼此相響応シテ成功ヲ遂グベク若シ之ニ反シ「ダネフ」一派ノ親露派ニシテ捷タンカ勃国ハ再ヒ露国ニ接近シテ「スラブ」圈内ニ入り或ハ塞国トノ国交ヲ温メテ第二巴爾幹同盟ノ建立ニ努ムルニ至ルナキヲ保セズ這般ノ消息ハ巴爾幹將來ノ形勢ヲ窺フ一端ノ資トシテ極メテ必要ナルモノアルヲ以テ左ニ全局ノ近情ヲ略述セントス

勃牙利ハ客年首相「ゲシヨウ」ノ時ニ於テ巴爾幹諸邦ト同盟条約ヲ締結シ終ニ土耳其古ト開戦シテ之ニ大打撃ヲ加ヘ其ノ歐洲領ノ大部分ヲ同盟諸邦ノ手ニ略取スルヲ得タルモ次テ塞、希兩國トノ確執ヲ生シ首相「ゲシヨウ」及後任首相「ダネフ」等ノ極端ナル親露主義者カ露国ノ後援ヲ過信シテ頑強ナル態度ヲ執レル結果終ニ其ノ国是ヲ誤リ第二巴爾幹戦争ノ爆發トナリ予定新領土ノ大部分ヲ喪失シテ国威一時ニ失墜スルノ苦境ニ陥リシカバ国王「フェルゼナンド」一世ハ各自自由派ノ領袖ヲシテ新内閣ヲ組織セシメ「ラドスラヴォフ」(旧自由派)首相ニ、「トンチェフ」(新自由派)

ノ埃勃兩國君主ノ会見ニ依リ兩國將來ノ政策上充分ノ打合せヲ了セルコトハ明カナルモ「フェルゼナンド」王ノ維納挽留ハ会々勃国親露派ノ利用スルトコロトナリ或ハ同王禪讓ノ意アリト伝ヘ或ハ革命勃発ノ徵アルヲ惧レテ外遊セルナリト称シ人ヲシテ頗ル勃国国情ノ紛糾セルモノアルヲ想ハシメシガ勃国内閣ハ選挙前同王ノ還幸ヲ有利ナリトスルコトヲ議決シタル結果同王ハ急遽埃帝ニ告別シ十一月二十八日維納ヲ發シテ故ラニ塞国領ヲ避ケ「ドナウ」河ヲ航下シテ「ソフキア」ニ還幸セリ而シテ一方親露派ノ運動ハ頗ル激烈ニシテ自派ノ機關紙及露僑兩國ノ新聞ヲ利用シテ種々ノ風評ヲ伝ヘシメ国論ヲ動かシテ現内閣ノ施政ヲ妨ゲント試ミ現二十一月下旬仏紙「タン」ガ戦前ノ巴爾幹同盟条約(埃洪国ニ対スル攻守同盟)ノ正文ヲ公表シタル如キ其ノ出所不明ナルモ「ダネフ」等ノ企テタル埃勃離間策ノ一端ナリトハ埃国輿論ノ認ムルトコロニシテ蓋シ真ニ近キモノアルガ如シ

斯クテ列強殊ニ埃露兩國ノ深ク注意シタル勃国下院議員ノ選挙ハ予定ノ如ク十二月七日ヲ以テ行ハレタルカ「ダネフ」、「ゲシヨウ」等ノ率ユル親露派候補者ハ各地方ニ利ヲ

蔵相ニ、「ゲナデキエフ」(国民自由派即チ「スタンブロウキスト」派)外相ニ就任シ茲ニ聯合自由派内閣ノ成立ヲ見タリ而シテ首相「ラドスラヴォフ」ハ排露の国論ニ応シテ其ノ政策ヲ一変スルノ態度ヲ執リ下院ヲ解散シテ新国論ヲ確立スルノ素地ヲ作り鋭意戦後ノ経営ニ従ハントセリ是ニ於テカ「ゲシヨウ」「ダネフ」一派ノ親露前内閣派ハ頗ル「ラドスラヴォフ」内閣ノ態度ニ嫌焉タルモノアリ来ルベキ下院議員ノ選挙場裡ニ於テ大ニ政府党ト争ヒ再ヒ政權ヲ掌握シテ親露主義ヲ確立セント企図シ爰ニ両派間ニ激烈ナル政争ノ發生ヲ見ルニ至レリ、現政府派ハ前内閣失敗ノ跡ヲ許キテ大ニ排露の国論ヲ喚起セント努ムルト同時ニ軍人派ト提携シテ前内閣派ヲ圧迫セントシ「ゲシヨウ」、「ダネフ」等ノ親露派ハ第二巴爾幹戦争破裂ノ原因ヲ以テ国王及軍人派ノ決意ニ依ルトナシ自派ノ失政ヲ糊塗スルト共ニ「ブカレスト」媾和条約及君府条約ノ締結ヲ以テ現政府ノ罪過ナリト主張シ両派ノ紛争時ヲ趁ウテ激甚ナリスル事情ノ間ニ「フェルゼナンド」王ハ首都ヲ去リテ洪牙利ニ遊ヒ次テ維納ニ微行シテ埃帝ニ会見シ日ヲ重ヌルモ維納ヲ去ラス徐ロニ勃国政界ノ紛争ヲ觀望シツツアリタリ此

失ヒ極メテ僅少ナル投票ヲ得タルニ止リ多数ノ現政府党議員選出セラレ勃国ノ対外政策ハ爰ニ当分揺撼セサル地盤ヲ下院ニ有スルニ至レリ蓋シ親露派今次ノ失敗ハ同派ノ大規模ナル運動アリシニ拘ラス排露ノ思想意外ニ深く各選挙区民ノ腦裏ニ浸潤シ現政府ノ対外方針ヲ是認セント欲スルニ基因セルモノニシテ勃国内ノ親露派又ハ外国ノ汎「スラブ」主義者ノ失望ハ之ヲ推知スルニ難カラズ今後又々何等カノ形様ヲ以テ其ノ運動ヲ継続セント試ムヘキハ明カナルモ兎ニ角今次ノ選挙戦ニ依リ当分拯フベカラサル大打撃ヲ被リタルハ事実ナリ斯ノ如ク政府党ハ反对親露派ニ対シ絶対ノ克捷ヲ博スルヲ得タルモ今次ノ選挙ニ初メテ比例投票ノ制ヲ採レル結果各自自由派議員ノ選出ハ政府ノ予想セル如ク多数ナルヲ得ス農民派及社会民主党ノ所属議員意外ニ多数ニ選出セラレ政府党ハ最早絶対ノ多数ヲ下院ニ占ムルヲ得ザルニ至レルヲ以テ内政關係ニ於テハ是等多數ノ異分子ヲ操縦セザルベカラザルノ地位ニ陥リ少カラサル打撃ヲ蒙リタルヤノ感アリ

斯ノ如キ政界ノ新形勢ニ応ゼンガ為メ現政府ハ目下焦慮シツツアルガ新ニ確乎タル勢力ヲ樹立シタル農民派及社会民

主派ハ對外政策ニ関シテハ大体現政府ノ方針ヲ是認スルモノナルヲ以テ之ト妥協スルニ妨ゲナキモ内政關係ニ於テハ其政見未ダ全然自由派ト相同ジカラザルモノアリ、故ニ政府ハ是等諸派ト克ク妥協シテ下院ニ絶對多數ヲ占ムルノ工夫ヲ講ズルカ又ハ進シテ内閣ノ一部ヲ改造シテ各派ノ聯合内閣ヲ造ルノ外ナキモ各派政見ノ異同ト農民派ノ政治ニ熟習セザルコトハ頗ル聯合内閣ノ成立ニ支障ヲ来スベキヲ以テ政府前途ノ方針ニ関シテハ未タ何等確固タル決定ヲ見ズ刻下熱心其ノ善後策ヲ講ジツアルモノノ如シ

右及報告候 敬具

(附記一)

大正元年十二月二日附内田外務大臣発在中国

伊集院公使宛公信

「巴爾幹事件概要」(一)及(二)送付ノ件

送第六七号

巴爾幹事件ニ関シ政務局第二課ニ於テ本年十一月十九日ニ至ル迄ノ在外公館ノ情報ヲ綜合シ別冊ノ通概要編纂致候ニ付為御參考右及送附候間御査閱相成度此段申進候也

註 「巴爾幹事件概要」ノ他ノ送付先ハ不明ナルモ右ハ單リ伊

ト

三、右任意撤兵ニ對シ伊國ハ土耳其ニ若干ノ償金ヲ支払フコト

四、伊國ニ對シテ「トリポリ」ノ占有ヲ保障スルコト

右ノ提議ハ仏独墮ノ賛成ヲ博シ又英國政府モ主義ニ於テハ之ニ同意セシモ實際之ヲ強制スルトキハ半島ノ形勢ニ意外ノ變態ヲ生シ独逸ノ為メニ乘セラレンコトヲ危メル色アリシカ事情漸ク疏通セル際突然「ボールート」砲撃事件起リ土國ノ人心激昂シテ平和ニ耳ヲ傾ケシムル望ナカリシカ故ニ此ノ提議ハ時機尚早ナリトシテ遂ニ兩交戰國ニ申入ル、コトナクシテ止メリ

本年四月「アルバニヤ」州「イペク」地方ノ住民道路工事ニ從事セル技師人足ヲ襲撃シ軍隊ノ出動ニ依リ漸ク之ヲ鎮定シタレトモ是ヨリシテ同地方ノ物情ハ著シク動搖ノ徵候ヲ呈シ踰テ六月末ニ至リ果シテ列強予期ノ如ク北部「アルバニヤ」ニ暴動起リ漸次蔓延ノ徵アリテ形勢頗ル不穩トナリ到ル処中央政府ノ政策ヲ批難シ「アルバニヤ」压制ノ不當ヲ鳴ラシ民族の運動続々トシテ起リ各所ニ官兵ト衝突スルニ至レリ

集院公使ノミナラズ一般在外大公使へ送付セラレタルモノト看做シ差支ナカルベシ

(別紙)

巴爾幹事件概要(一)(二)

(一)

伊土兩國間ノ交戰ハ客秋以來固ク結ンテ解ケス然モ土耳其ニ於ケル國情ハ本年春季ニ入ルニ及ンテ漸ク不穩ノ形勢ヲ示シ若四月頃則チ土國山谷地方ニ於ケル雪解ケノ時期ニ至ル迄伊國トノ講和成ラサルトキハ連年頻發スル「アルバニア」地方ニ於ケル争乱必ス再發スヘク從テ土國ノ内政ニ容易ナラサル危機ヲ誘致シ引テ歐洲全般ニ亘リテ平和ノ基礎ヲ危フスル恐アリシヲ以テ列強ニ於テハ深ク之ヲ憂慮スル模様アリシカ殊ニ巴爾幹半島ニ極メテ痛切ナル利害ノ關係ヲ有スル露國ニ於テハ最早ヤ之ヲ默過スヘキ時ニアラスト見テ本年一月外務大臣「サザノフ」氏ハ伊土兩國間ノ調停ニ関シ英仏独墮四國ニ向テ左ノ条件ヲ具シテ提議ヲ試ミタリ

一、兩交戰國ノ間ニ休戰ヲ約セシムルコト

二、「トリポリ」ヨリ悉ク土耳其ノ軍隊ヲ撤退セシムルコ

歐洲土耳其ニ於ケル紛擾ノ中心ハ從來常ニ「マセドニア」州ニ存セリ同州ニ於テハ土耳其人勃利人塞爾比亞人希臘人等人種宗教ヲ異ニスル各種ノ民族雜居シ其風俗慣習及信念ノ差異ヨリシテ絶エス反目疾視シテ鬭争止ムトキナカリシカ上ニ土國政府ノ異教徒ニ對スル政道苛酷ヲ極メ慘狀甚シカリシカ故ニ遂ニ列國ノ干涉ヲ招キ露土戰爭トナリ伯林條約ノ締結ヲ見同地方内政ノ改革ニ関シテ幾多ノ交渉ヲ重ネタル結果千九百〇三年「ミユルステック」協約ニ依リテ巴爾幹半島ニ尤モ密接ナル利害關係ヲ有スル露墮兩國ノ監督下ニ該地方ノ内政改革ヲ行フコトトナリシモ素ヨリ根本的ニ其利害ヲ異ニスル各種民族ノ満足ヲ買フニ至ラス然ルニ其後露國ハ日露戰爭ノ結果トシテ此方面ニ力ヲ伸ハス余裕ナク次テ墮國カ「ボ」へ「兩州ヲ併合スルニ及ヒ兩國ノ諸調円滑ヲ欠キ其責任ニ属スル「マ」州内政改革ノ監督モ自カラ往日ノ如クナルコト能ハサリシカ恰モ善シ土耳其ニ於テハ當時既ニ青年土耳其黨權力ヲ得テ廢止セラレ居タル憲法ヲ復活シ統一國家主義ノ下ニ西欧文明ノ範ニ則トリ内政ノ改革ヲ企テタルカ故ニ列強ニ於テハ之ヲ歡迎シ之ニ信賴シ「マ」州改革ノ如キモ暫ク其為スカ儘ニ任カスル姿ト

ナリ又同州在住ノスラブ民族及其保護者ヲ以テ自任スル勃塞諸邦モ等シク好意ヲ以テ其為ス所ヲ傍觀スルコト、ナリ同州ニ於ケル紛擾ハ一時小康ヲ得ルニ至レリ

然ルニ青年土耳其党ノ新政策ハ意外ニモ「アルバニヤ」人ノ反感ヲ買ヒ同地方ニ於ケル諸民族間ニ不穩ノ徵候ヲ示シ來レリ元來「アルバニヤ」人ハ慄慄ノ民ナレトモ性忠良ニシテ信義ヲ重スル種族ナルカ故ニ猜疑深シトノ稱アリタル廢帝「アブドル、ハミッド」ノ如キハ常ニ「アルバニヤ」人ヲ以テ其護衛兵ニ充テ之ニ信賴セリ且ツ同種族ハ古來土帝室ニ尽セル功績ニ依リ種々ノ特權殊遇ヲ享ケ居タルカ青年土耳其党カ其統一政策ノ下ニ一律ニ諸種ノ新稅ヲ課シ徵兵制度ヲ施キ教育組織ヲ一定セントスルニ及ヒ忽チ其特權ニ抵触シ其民族的思想ト支吾セシカ故ニ「アルバニヤ」人ノ新政府ニ對スル洋々タル囑望ハ一變シテ憤激嫌忌トナリ所在不穩ノ徵ヲ呈シ遂ニ客年春季ニ至リテ一大爭亂發生シ全歐洲ヲシテ危懼ノ念ヲ抱カシムルニ至リシカ秋季ニ入りテ氣候其他ノ障礙ノ為メニ一時鎮定ノ姿トナレリ然レトモ政府ハ此際毫モ緩撫ノ道ヲ講セサリシカ故ニ上述ノ通り本年六月ニ至リテ再ヒ騒亂勃發シ新政府ニ對シテ其特權恢復ニ

ルバニヤ」人ノ批難ヲ招キ議會解散ノ声ヲ高ムルニ至リ内閣ハ七月十七日總辭職ヲ決行シ同廿一日軍人派ヲ後援トスル「アーメット、ムクタールパシヤ」ノ新内閣組織ヲ見ルニ至レリ

新内閣ハ国歩艱難ノ際ニ処シテ慎重事ヲ視ルヲ可トセシモ急進軍人派ハ飽ク迄青年土耳其党ノ撲滅ヲ主張シ又青年土耳其党ハ下院ニ拠テ鼎足ノ勢ヲ維持シタレハ新政府ハ八月十五日斷然下院ニ閉会ヲ命セリ斯ノ如ク土耳其ノ国狀ハ外ハ外患ヲ控ヘ内ハ内憂頻發シ頗ル危機ニ迫レリ於是乎其虛ニ乘シテ宿望ヲ果サント機ヲ窺ヘル勃塞希孟ノ諸國ハ食指遽カニ動ケルノ觀アリ四國ノ態度ハ常ニ土耳其ノ危懼スル所ニシテ前内閣ニ於テモ之ニ備ヘンカ為メニ伊國ト講和ノ急ヲ感シ七月初旬ヨリ密カニ參議院議長「サイドハリム」公ヲシテ瑞西國「ウーシー」ニ於テ伊國ノ代表者タル「フジナト」氏ト会见セシメ非公式ニ講和ノ談判ヲ開始シタレトモ上述ノ如ク国情急轉シ何等ノ決定ヲ見ルニ至ラサル儘内閣ハ顛覆セリ而シテ新内閣ニ於テモ又伊國ト講和ノ必要ヲ認メ此談判ヲ繼續セシムルコト、ナレリ

然ルニ八月初旬ニ至リ勃牙利ノ國境ニ接セル「マセドニア」

関スル十數ヶ条ノ要求ヲナセリ政府ニ於テハ武力鎮壓ノ策ヲ固守シテ之ヲ顧ミス其措置頗ル慘酷ヲ極メ「アルバニヤ」ノ慘狀ハ名狀ス可ラサルモノアリ一般ノ同情漸ク「アルバニヤ」人ニ傾キ遂ニ同地出身將校ノ反抗トナリ其所屬部隊ヲ脱走シテ郷土ノ難ニ赴クモノ少ナカラス引テ多數將校ノ非政府運動ヲ誘起シ「アルバニヤ」討伐ヲ命セラレタル軍隊ニシテ却テ「ア」人ニ同情ヲ寄せ忠良ニシテ勇敢ナル「アルバニヤ」ノ同僚ニ對シ徒ニ青年土耳其党ノ爪牙トナリテ砲火ヲ加フルニ忍ヒスト稱シテ其命令ヲ拒ムモノアルニ至リ非政府、青年土耳其党撲滅ノ声盛ニ起レリ而シテ政府ハ之ニ對シテ強圧ヲ加ヘタレハ非政府軍人等ハ團結シテ陸軍大臣ニ庄迫ヲ加ヘ七月九日陸軍大臣「マームード、シエフケット」ハ之ニ耐ヘスシテ其任ヲ辭セリ然ルニ近來專ラ武力ニ依リテ其地位ヲ維持シ來レル政府ニ取リテハ此際一刻モ陸軍大臣ノ空位ヲ許サス百方其後任者ヲ求メタレトモ孰レモ言ヲ左右ニ托シテ之ニ応セス首相「サイドパシヤ」ハ止ムナク七月十五日議會ニ向テ其信任ヲ問ヒシカ議會ハ選舉干渉ニ依テ得タル政府黨員ヲ以テ充タサレタレハ直チニ信任ノ決議ヲナセリ然ルニ此ノ措置ハ痛ク軍人團及「ア

州「コッシヤナ」ニ於テ一勃牙利人ノ投シタル爆裂彈ノ為メ土耳其人十數名ノ死傷ヲ出ダシタレハ土耳其人ハ之カ報復トシテ同地ニ於ケル勃牙利人百八十余名ヲ殺害シタル椿事起リ之レカ為メニ勃牙利ノ人心大ニ激昂シ土國ニ對シテ開戦ヲ要請スルモノアルニ至レリ之ト前後シテ土國政府ハ「サロニカ」ヲ經テ輸入セントスル塞爾比亞ノ軍器ヲ押収シテ同國ノ不滿ヲ招キ又希臘ノ一汽船土國砲台ヨリ砲撃セラレタル椿事起リ是等諸國ノ人心モ甚シク沸騰シ盛ニ勃牙利ニ声援ヲ与ヘタルノミナラス三國間ニハ既ニ何等カノ密約成立セリトノ報アリ孟的涅具路ニ於テモ同シク立テ三國ニ声援ノ態度ヲ示セリ

土國內部ニ於テハ「アルバニヤ」ノ人心毫モ鎮靜セス新政府ニ對シ其要求ノ承認ヲ迫リ若シ容レラレスンハ再ヒ不穩ノ行動ニ出テント声言シ危機愈々切迫セシカ故ニ政府ハ終ニ其要求ノ大部分ヲ容レテ人心ヲ緩撫スルコト、ナレリ而シテ「マセドニア」人ハ「アルバニヤ」人ニ對シテ其特權殊遇ヲ容認スルコトハ畢竟「マセドニア」人ニ對スル區別の待遇タルニ歸スヘシ之レ伯林條約ノ精神ニ反シ四民平等タルヘキ憲法ノ基礎ヲ覆ヘスモノナリトシテ勃牙利ニ向テ

訴フル所アリシカハ同国ニ於テ既ニ「コッシャナ」事件ノ為メ人心激昂セル際更ニ此ノ報ニ接シ土国ニ対スル反感益々激烈トナレリ

奥洪国ニ於テハ此形勢ニ鑑ミ土国政府ニ勸メテ速カニ内政ノ改革ヲ断行セシメ以テ危機ヲ未済ニ防カントノ考量ニ基キ八月十四日外相「ベルヒトルド」伯ハ率先シテ土国政府ニ対スル勸告案ヲ作成シ之ヲ列強ニ提議セリ此提案ハ伯林条約第廿三条ヲ基礎トシテ非劃一的ニ内政改革ヲ実行セシメントノ趣意ナリト云ヘリ而シテ露国ニ於テハ奥国ノボヘ両州併合以来巴爾幹半島ニ対スル奥国ノ態度ヲ疑惧スル傾キアリ右提議ニ対シ深ク奥国ノ真意ヲ疑ヘルノミナラス奥国カ率先シテ斯カル提議ヲ試ミ恰モ半島ニ於ケル主人公タル振舞ヲ為スヲ嫌焉タラストシテ之ニ同意ヲ与ヘス又勃牙利ニ於テハ此ノ提案ヲ手緩シテ信頼ノ色ナカリシカ故ニ遂ニ懸案不進ノ姿トナレリ

斯クテ四国ノ人心ハ益々興奮セシカ故ニ土国政府ハ密カニ之ニ備フル所アリ九月下旬「アドリヤノープル」附近ニ於テ大演習ヲ執行シタルニ勃牙利国政府ハ土国カ其国境ニ大兵ヲ集中スルヲ不穩ナリトシテ九月三十日突然動員令ヲ発

ルコト

此提案ハ露国カ主トシテ仏英二国ト協議シテ作成シタルモノナレトモ奥国ハ曩キニ其提議ノ容レヲレサリシ關係アレハ明カニ露国ノ後塵ヲ拝セシムルカ如キ形式ヲ取ルトキハ其同意ヲ得ルコト能ハサル恐アリトシ仏国外相「ポアンカレ」氏案トシテ其同意ヲ求メタルモノ、如シ然ルニ奥国ハ此ノ提案ニ対シ種々ノ修正ヲ提起シ議容易ニ纏マラサリシカ半島ニ於ケル事局ノ形勢ニ鑑ミ独仏両国ノ斡旋ニ依リ左ノ条件ノ下ニ同意スルコト、ナレリ

一、土国ノ領土保全及土帝ノ主權ヲ侵害セサル限度ニ於テ改革ヲ行ハシムルコト

二、改革ハ奥国外相予テノ提議ノ根本的性質ヲ没却セサルコト

三、土国ニ交付スヘキ公文ハ列国各別ニ君府駐劄代表者ヲシテ適宜提出ノ措置ヲ取ラシムルコト

右ノ提案ハ斯ノ如クニシテ列強ノ同意ヲ得タレハ先以テ之ヲ巴爾幹四国政府ニ示シ其同意ヲ得タル上ニテ土国政府ニ送致スルコト、シ十月八日露奥兩國政府ハ列強ヲ代表シテ之ヲ「ソフキヤ」「ベルグレード」「アゼンス」及「セツチ

セリ塞爾比亞ニ於テモ同日其軍隊ニ動員ヲ命シ十月四日議會ヲ招集スル旨ノ命令ヲ発シ同時ニ土国政府ニ対シテ四十八時間ヲ期シテ塞國ノ軍器彈藥押収ニ関スル説明ヲ求メタリ次テ希臘モ又翌十月一日動員令ヲ公布セリ而シテ土耳其ニ於テハ同日八時間ニ亘ル内閣會議ノ結果全軍ノ動員ヲ決議シ直チニ之レカ裁可ヲ得テ既ニ軍隊ニ通知シタレトモ未タ之ヲ公布セストノ報アリ半島ノ形勢ハ刻々不穩ノ歩ヲ進メ十月二日夜半ニ至リ「バンカ」及「ヴロンジヤ」附近ニ在ル約三百ノ土耳其兵力塞爾比亞領内ニ侵入シタルコトヲ塞國兵ニ発見セラレ約一時間ニ亘レル激烈ナル戦闘ヲ交ヘタリトノ報アリ

此時ニ當リ露国政府ハ左ノ旨趣ヲ以テ一ノ提案ヲ作り列強ニ提議シテ之レカ同意ヲ求メタリ

一、土耳其古ラシテ列強監督ノ下ニ速カニ伯林条約第二十三條ノ内政改革ヲ実行セシムルコト

二、露奥兩國ハ列強ノ委任ニ依リ巴爾幹四国政府ヲシテ戦争ヲ差控ヘシムルコト

三、列強ハ巴爾幹四国ニ対シ万一開戦ノ曉ニ於テハ其勝敗ノ如何ニ拘ハラス領土ノ変更ヲ許サ、ル旨ヲ戒告ス

ニエ」ニ駐劄スル其使臣ヲシテ任国政府ニ交付セシメタリ十月八日在君府孟の涅具路国代理公使ハ本国政府ノ命ニ依リ土国政府ニ左ノ意味ノ覚書ヲ交付セリ

土国ハ孟國ノ希望ヲ容レテ兩國間ノ繫争問題就中国境問題ヲ解決スルノ意ナキヲ以テ孟國ハ兵力ニ依リテ其權利ヲ主張スルノ止ムナキニ至レリ

即日孟國政府ハ「セツチニエ」駐劄土国公使ニ旅券ヲ交付セリ間モナク兩國軍隊ハ「スクタリー」方面ニ於テ戦闘ヲ開始セリトノ報アリ孟國カスノ如ク唐突ニ国交ヲ断絶セシ真意ニ付テハ勃牙利、塞爾比亞及希臘ハ土耳其古カ若シ列強ノ勸告ヲ容レテ其内政改革ノ実行ヲ誓言シ列強之ニ裏書ヲスルトキハ差当リ開戦ノ口実ヲ失フヘキニ付該改革問題ヲ離レテ別ニ幾多ノ懸案ヲ有スル孟の涅具路ヲシテ先ツ立タシメ土耳其古國ノ兵力ヲ「アルバニヤ」方面ニ牽制セシメ然ル後同盟國ヲ助クルヲ名トシテ共ニ立タントスル魂胆ナラントノ臆說專ラ行ハレタルカ如シ而シテ土孟國交断絶ノ報アルヤ巴里取引所ニ於ケル仏國公債ハ忽チ八十九ニ下落セリ之レ廿年来未曾有ノ事ニシテ日露戦争ノ際モ九十三、九十四ヲ下ラサリシト云フ又列強ハ今ヤ其提案ニ対スル四国

ノ回答ヲ待チ合ハス余裕ナシトシテ直チニ之ヲ土国政府ニ交付セリ

十月十三日勃牙利国政府ハ土国内政改革ニ関シ「ソフキヤ」駐劄土耳其古公使ニ一ノ覚書ヲ交付シ土国政府ニ対シテ一、欧洲土耳其諸州ノ自治ヲ許スコト、二、白耳義人又ハ瑞西人ヲ以テ其総督ニ任スルコト、三、選挙ニ依ル州議會ヲ開設スルコト、四、地方的憲兵制度ヲ設クルコト、五、教育ノ自由ヲ容認スルコト、六、右改革ノ実行ハ同教ノ基督教徒及回教徒ヲ以テ組織セル最高参事会ニ依托シ在君府列強大使及巴爾幹四国公使ノ監督ノ下ニ六ヶ月ヲ期シテ実施スルコト、七、右承認ノ保証トシテ土耳其古国政府ハ其動員令ヲ撤回スヘキコト等ヲ要求シ然ル後露奥兩國公使ニ対シ公文ヲ以テ兩國政府ノ忠告ニ対スル好意ヲ感謝シ土国政府ニ対スル如上ノ措置ハ全ク止ムヲ得サルニ出テタルモノナリト弁明セリ同日塞爾比亞及希臘モ又勃国ト同様ノ措置ヲ取レリ

十月十四日土国政府モ又列強ニ回答シテ其好意ヲ謝スルト同時ニ内政ノ改革ニ関シテハ断然外間ノ干渉ヲ許サ、ル旨ヲ声明シ翌十五日勃塞希三国ノ通牒ニ対シ断然其要求ヲ拒

事茲ニ至リテ半島ニ於ケル平和維持ニ関スル列強ノ尽力ハ全然失敗ニ帰シタルヲ以テ列強ニ於テハ最早ヤ交戦国力戦闘ニ疲レテ自カラ平和ヲ思フノ時機ヲ待ツ外策ノ施コスヘキナシトシテ暫ク之ヲ傍觀スルコトト決シタルモノ、如シ蓋シ列強ノ中若シ此ノ争乱ニ干与スル者ヲ生スルトキハ自余ノ諸国モ之ヲ默視スルコト能ハサル状態ニ陥リ引テ欧洲全局ノ禍乱ヲ醸成センコトヲ恐レ此際列強ノ態度ヲ一定シ置ク必要ヲ認め戦局限定ノ目的ヲ以テ更ニ列強間ノ交渉ヲ開始シタルニ塊露ノ間再ヒ意思ノ疏通セサルモノアルヲ発見シ多少ノ困難アリタレトモ独仏兩國幹旋ノ結果塊露ハ露国ニ対シ其自国ノ勢力範圍ト認メ居ル「ノヴィ、バザール」州ニ巴爾幹同盟軍力侵入スルコトアルトモ交戦中ハ之ニ干渉セサルコトニ付キ充分ノ保障ヲ与ヘタレハ列強ニ於テハ現戦争ヲ半島諸国間ノミニ局限スルコトニ決定セリト云フ

此間ニ在リテ伊土ノ講和談判ハ着々其歩武ヲ進メ本月廿一日在本邦伊国大使ハ本国政府ノ命ニ依リ伊土兩國間ニ講和条約締結セラレ交戦状態終了セル旨ヲ帝國政府ニ通告シ同時ニ右条約ニ於テ土国政府ハ「トリポリテース」及「シレ

絶スル旨ノ回答ヲ發シ十月十七日ニ至リ三国ニ於ケル土国ノ使臣ヲ招還シ君府駐劄ノ三国使臣ニ旅券ヲ交付セリ同日三国政府ハ各々土国政府ニ対シテ宣戦ヲ通告シ三国駐劄列強代表者ニ左ノ旨趣ノ通牒ヲナセリ

- 一、三国政府ハ欧洲土耳其古地方ニ在ル同胞基督教徒ノ悲惨ナル運命ヲ改善シ将来巴爾幹地方ノ安寧ヲ謀ルヘキ根本的改革ヲ実施シ秩序自由及進歩ヲ基礎トスル政治ノ下ニ一般外人ノ安寧利益ヲ保護セントスルニ在リ
- 二、土国政府ハ「マセドニア」地方ニ改革ヲ実施スヘキコトヲ宣言スルト同時ニ之ニ関シ外国ノ援助ヲ避ケントスルハ改革実施ニ誠意ナキモノト認メサルヲ得ス
- 三、土国政府ハ曩キニ巴爾幹国境ニ動員ヲ開始シ三国ニ対シ挑発的態度ヲ示セシニ因リ三国政府ノ対土耳其古穩和的態度ハ遂ニ水泡ニ帰セリ且ツ土国政府ハ今ヤ既ニ三国ニ対シ其外交關係ヲ断絶セシカ故ニ三国政府ハ遺憾ナカラ武力ニ訴フルノ已ムナキニ至レリ
- 四、三国政府ハ親交国民ノ同情ヲ期待シ且ツ此ノ重任ヲ遂行スルニ際シ好意的中立ヲ守ランコトヲ各国政府ニ対シ痛切ニ警告ス

ナイク」ヨリ直チニ土国軍隊ヲ撤退セシムルコトヲ約シタルヲ以テ帝國政府ニ於テ右二州ニ於ケル伊国ノ主權ヲ承認センコトヲ要求シタレハ帝國政府ハ英仏独塊露諸国力既ニ其承認ヲ与ヘタルニ顧ミ本月廿五日伊国大使ニ承認ノ旨ヲ回答セリ

伊土ノ講和談判ハ一時行悩ミノ姿ナリトノ説アリシニ拘ハラス此際斯ク急速ニ決着シタルハ土国ニ於テ緊切ニ之カ必要ヲ感シタルハ勿論伊国ニ於テモ既ニ巴爾幹四国力土国ニ対シテ戦ヲ開始シタル今日伊国力依然トシテ其戦争ヲ繼續スルカ為メ土国ハ四面ニ敵ヲ引受クル結果挽回シ難キ窮境ニ陥ルコトアラハ半島ノ現状ハ到底之ヲ維持スルコト能ハサル有様トナルヘク半島ノ現状破壊スルトキハ伊国ハ痛激ナル危害ヲ蒙ムルノ恐アリシカ故ニ好意ヲ以テ右談判ノ進捗ヲ計リタルカ為メナリトノ説アリ

十月廿一日瑞西国政府ハ巴爾幹戦争ニ関シ局外中立ヲ宣言シ十月廿五日瑞典諸威及丁抹ノ三国モ亦局外中立ヲ宣言セリ

(二)

同盟四国就中勃牙利国ハ土耳其古ト親善關係ヲ有スル羅馬尼

国力開戦ニ際シ如何ナル態度ヲ執ルヘキカヲ深く憂慮シタレトモ羅國ハ由来「マセドニア」問題ニ関シテハ利害ノ關係比較的痛切ナラサルカ上ニ埃洪國ノ勸告ニ依リ此際之ニ干渉スルコトヲ避ケ局外中立ノ態度ヲ執ルコトニ決シタルカ如シ蓋シ羅馬尼國王カ勃牙利國ノ其勢力ヲ「マセドニア」地方ニ扶植スルトキハ巴爾幹半島ニ於ケル平衡ヲ破壞セラハルコトナルカ故ニ羅國ノ地位ニ於テハ之ヲ忍フコト能ハスト明言セルニ徴スレハ若シ聯合軍カ終局ノ勝利ヲ得テ各自ノ版圖若シクハ其勢力範圍ヲ拡張シテ半島ノ現狀ヲ一變スルカ如キ形勢ヲ顯出スル曉ニ於テハ同國ハ列強ト共ニ何等カ主張スル所アルヘシト期待セラル

十月二十一日英國政府ハ巴爾幹戰爭ニ對シテ局外中立ヲ宣言シ同二十三日仏國政府モ又其中立ヲ宣言セリ

十月十七日開戦以來戰況ノ情報ヲ綜合スルニ土耳其ニ於テハ「アブヅラ、パシヤ」ハ第一軍司令官トシテ總數二十余万ヲ指揮シテ「アドリアノーブル」市防禦ノ任ニ當リ「マームード、チェフケット、パシヤ」ハ第二軍ヲ統率シテ「ウスクブ」方面ヲ守リ「ニシ」「ウラニア」「クステンジナル」ヨリ侵入スヘキ敵軍ノ防禦ニ備ヘタリ又勃牙利ニ於テ

ハ「サヴォフ」將軍第一軍ヲ率キテ其司令部ヲ「スタラ、ザゴラ」ニ置キ土國第一軍ノ根拠地タル「アドリアノーブル」ヲ衝カントシ既ニ國境ヲ越エテ「ムスタフハ、パシヤ」ヲ攻メ長驅シテ「アドリアノーブル」市ニ迫リ二十二日午後ヨリ兩軍衝突ヲ始メ踰テ二十四日午前「キルクキリッセ」ハ勃軍ノ占領ニ歸シ土軍ハ後方ニ潰走セリ

勃國第二軍ハ塞爾比亞軍ト合シテ「クステンジル」ニ集中シ司令官「クテンチーフ」將軍ノ下ニ土國第一軍ト第二軍トノ連絡ヲ妨クル目的ヲ以テ「エグリパランカ」ヲ占領シ「カラタウワ」ニ向テ進軍セリ而シテ塞爾比亞軍ハ「パトニック」將軍ノ指揮下ニ「ニシ」ニ集中シ國境「ウラニア」ヲ越エテ土軍ト戦ヒ「ルジャン」高地ヲ占領シ十月二十四日更に進テ「クマノワ」ヲ攻略セリ又塞爾比亞ノ一小部隊ハ「ノヴィ、パザール」ニ侵入シ「ノヴハ、ヴァロス」ヲ占領シテ孟の涅具路軍ト連絡ヲ取ラント計リ南方ニ於ケル孟軍ハ「ダニコ」公指揮ノ下ニ「ツヂ」ヲ占領シ「スクタリ」ニ前進セントシ北方ノ國境ニ於テハ「ペラン」「ビエロポリエ」「プラヴハ」等ヲ略取シ「グイシニエ」ニ於テ土軍ト對陣セリ

希臘軍司令官「アリ、リザ」將軍ハ一個師団ノ兵ヲ率キテ土國國境「エラヅカ」ニ侵入シ「サロニカ」ニ向テ其軍ヲ進メ皇太子「デアドック」殿下ヲ司令官トスル三師団ト予後備三個師団ヨリ成ル一軍ハ「アルタチモ」ヲ警戒シ「エピラス」地方ヨリ土軍ノ來襲シテ其前軍トノ間ヲ中断スルノ患ニ備フ而シテ希臘國海軍ハ「アルタ」灣口「プレバザ」ニ於テ示威運動ヲナスト共ニ「クンヅリオティス」提督ノ率キル艦隊ハ「レムノス」島ヲ占領シテ其旨ヲ島民ニ布告セリ此時土國艦隊ハ黒海ニ在リテ勃牙利ノ海軍ヲ封鎖シ「バルナ、カナルナ」ノ砲撃中ナリシカ希臘艦隊出動ノ報ニ接シ之ニ對抗センカ為メ「ダーダネル」ヲ下ラントストノ報アリ

十月二十六日「パトニック」將軍ノ指揮ニ属スル塞爾比亞軍ハ中部「マセドニア」ノ要衝トシテ土國第二軍ノ防禦目的地タル「ウスクブ」ヲ占領セリ

聯合軍ハ着々トシテ各所ニ捷利ヲ博シ勃國第一軍ハ十月十六日「アドリアノーブル」ヲ攻撃スルト共ニ同日午後「ハバエスキ」ヲ占領シ「リュールブルカス」ニ前進セリ又同國第二軍ハ二十四日「コッチャナ」ヲ占領シ「イス

テップ」ニ向テ其軍ヲ進メ塞爾比亞軍ノ主力縱隊ハ「ウスクブ」ヨリ南進シテ二十八日「コプリュリユ」ヲ占領シ其西方部隊ハ「ノヴィバザール」「ミトロヴィツァ」ヲ占領セリ又孟の涅具路軍ハ北方ニ於テ「イペック」ヲ攻撃シ南方ニ於ケル主隊ハ二十七日ヨリ「スクタリ」ノ包圍攻撃ヲ開始シ「マルタ」方面ニ於ケル希臘軍ハ土軍ヲ追フテ北進シ既ニ「ジャニア」ニ達シ北方主隊ハ「ゴザン」ヲ占領シ「ヴェリヤ」附近ニ土軍ヲ撃破セリ

土軍ハ陸軍大臣「ナジムパシヤ」ヲ司令官トシテ二十余万ヲ「リュールブルガス」ニ集中シ居タルカ勃牙利第一軍ハ二十九日夜同地ヲ陥レタレハ土軍ハ「コルリュウ」ニ向テ退却ス「リュールブルガス」ヨリ君府要塞迄約百五十「キロメートル」ニシテ其間僅カニ「チャタルジャ」ノ要塞ヲ余マスノミナリト云フ

巴爾幹同盟軍ハ開戦以來頗ル優勢ニシテ若シ此儘ニ進歩スルトキハ戦局ハ遂ニ同盟軍ノ大捷ヲ以テ終リ現狀維持ノ如キハ到底之ヲ支持シ難キニ立至ルヘキ徵候ヲ呈シタレハ列強間ニハ十月二十六、七日頃ヨリ既ニ調停問題ニ付キ多少ノ交渉ヲ開始シタルモノノ如シ殊ニ露國政府ハ自國ノ立場

ヨリシテ同盟軍ノ君府ニ入ルヲ好マサルヲ以テ戦争終局前適當ノ時機ニ於テ列国ノ干涉ヲ必要ナリトシテ英仏兩國政府ト内協議ノ為メ「マセドニア」改革ニ関シ具体的ノ提案ヲ起草中ニシテ一兩日内ニハ之ヲ兩國政府ニ内示スヘキコトヲ約セリトノ報アリ

埃特諸国ニ於テハ土国連敗ノ醜態ニ喫驚シ之レ全ク青年土耳古党カ軍人ノ勢力ヲ援用シテ政權ヲ掌握シタルカ為メ遂ニ軍人ヲシテ政務ニ干与セシメ之カ為メニ軍紀ヲ紊タシ士氣ヲ萎靡セシメタル結果ニシテ文武ヲ敵別セル旧制ヲ墨守セシ魔帝ノ治下ニ在リテハ斯カル失態ヲ演スルコト断シテ之レナカルヘシトテ土国政界ノ腐敗ヲ慨歎スルモノ少ナカラス又列強ノ調停ニ関シテモ自ラ露仏諸国ト其見解ヲ異ニシ「アドリアノーブル」戦争ノ結果ヲ待チテ徐ロニ事ヲ処スルモ敢テ遅キニ失スルコトナシトシ窃カニ時局ノ開展ヲ待ツモノ、如シ

斯ノ如ク調停ノ時機ニ関シ露埃諸国間ニ其見解一致セサルモノアルハ前者ハ四国同盟軍カ差当リ戦勝者タルノ地位ヲ認メ其戦域ヲ拡大シテ時局ノ紛糾ヲ増加セサルニ先タチ取急キ相当ノ限度ニ於テ四国ニ有利ナル媾和ヲ為サシメント

此ノ親交ハ聽テ近東事件満足ノ解決ヲ囑望スヘキ最好ノ理由ナリ

十月二十九日埃国首相ハ下院ニ於ケル外交質問ニ対シ我カ外交ノ方針ハ同盟国トハ勿論自余ノ列国トモ意思ノ疏通ヲ計リ適當ノ時機ニ於テ急速ニ戦争ヲ終了セシムルコトニ協力スルコトヲ努ムルニ在リ今日迄列国ト意見交換ノ結果ハ必ス好果ヲ奏スヘシ但シ如何ナル事情ノ下ニ於テモ平和ヲ固執スルハ歐洲大國ニ伍スル埃洪国ノ政策方針ニアラサルハ勿論ナリト云ヘリ

斯クテ列強間ノ諧調未タ全ク一致セサルニ拘ハラス戦局ハ極メテ急速ニ進歩シ連勝ノ同盟軍ハ深ク土国ノ内地ニ侵入シテ到ル処要害ノ地点ヲ占領シ勃国第一軍ノ如キハ既ニ「チャタルジャ」ノ要塞ニ肉薄シ君府ヲ距ルコト僅カニ三十基米ノ地点ニ達セリトノ報アリ從テ土国ニ於テ其敗勢ヲ挽回スルノ希望ハ日ニ減少スルカ故ニ埃独諸国ニ於テモ最早ヤ其現状維持ノ主張ヲ墨守スルコト能ハス既成ノ事実ヲ基礎トシテ事務局ヲ解決スルノ止ムヲ得サルコトヲ認識シタルモノ、如シ然ルニ此新事実ニ基キ戦勝者間ニ領土ノ分割ヲ行フコト、ナルトキハ直接ニ埃洪国ノ利害ニ接触スル最

欲スルモノ、如ク反之後者ハ土耳其ハ結局其敗勢ヲ挽回スルニ至ルヘキヲ信シ其曉ニ至リ土耳其ニ多少ノ抑圧ヲ加ヘテ以テ現状維持ニ同意セシムルコトハ敢テ難事ニアラサルヘケレハ此際早急ノ措置ヲ取ランヨリハ寧ロ徐ロニ事局ノ變転ヲ待ツニ如カストナシ容易ニ露国ノ希望ニ応スル色ナキカ如シ

十月二十七日仏国首相兼外相「ポアンカレ」氏ハ「ナン」トニ於テ巴爾幹事件ニ関スル意見ヲ述ヘテ曰ク近東ノ危機切迫スルニ当リ仏国ハ歐洲共同ノ動作ニ依リテ戦争ヲ予防セシムルヲ努メ愈々開戦ニ際シテハ其戦域ノ局限ニ尽力セリ思フニ近キ将来ニ於テ起ルヘキ複雑ナル問題ニ対シテハ益々列国ノ共同動作ヲ要スルコト切ナルヘシ幸ニシテ仏國カ盟邦及友邦ト協議ノ上採レル方針ハ好意ヲ以テ各國政府ニ迎ヘラレ日々意見ノ交換中ナレハ好機到達セハ列強共同ノ調停ヲ試ミルノ日蓋シ遠キニアラサルヘシト雖モ仏國從來ノ外交方針ハ毫モ外間ノ意向ニヨリテ之ヲ變更スルヲ許サス英露諸国ハ仏國カ歐洲均勢ヲ支持スルノ必要ニ鑑ミテ尽セシ誠意ヲ諒トシテ各衷情ノ誠ヲ致スカ故ニ何者ト雖モ其間ノ諧調ヲ妨害スルコトヲ得サルナリ三國間ニ於ケル

要ノ問題ハ對塞爾比亞關係ナルカ埃塞兩國ハ往年「ボ」ハ「ヘ」兩州併合以來其關係頗ル円満ヲ欠ケルカ故ニ其間ノ意思疏通セサルトキハ或ハ意外ノ危機ヲ惹起スル恐れアリトシ兩國政府ノ間ニハ既ニ何等カノ交渉開始セラレタリトノ風聞伝ハリ之ニ関スル種々ノ臆説盛行ハレタレトモ未タ何等真情ヲ鑿テルモノアルヲ聞カス又露國政府ニ於テ兼テ起草中ナリトノ報アリタル「マ」州改革ニ関スル提案ハ遂ニ列強ニ提議セラル、ニ至ラス要スルニ戦局發展ノ結果既ニ現狀維持ノ不可行ヲ認識セラレタル以上ハ単ニ「マ」州改革ニ関スル提案ノ如キハ頗ル姑息ニ失スル嫌アリトシテ之ヲ差控ヘ新成ノ事実ニ基ク露國政府ノ見解ハ一ト先ツ之ヲ仏國政府ニ伝ヘ同國政府ヲシテ何等カノ措置ヲ取ラシメントスルモノ、如シ

十月三十一日仏國政府ハ列國政府ニ向テ巴爾幹戦争ニ對シ既ニ列強調停ヲ試ムヘキ時機到達セル旨ヲ序シ右仲裁ヲ為スニ先タチ列國ハ此機ニ於テ自己ノ利益ヲ図ラサル旨ヲ宣言シテ然ル後仲裁案ヲ協議スヘシト提議セリ仏國政府カ右ノ提議ヲ為スニ至リタルハ戦争ノ發展列國ノ意表ニ出テ巴爾幹同盟國ハ領土擴張ヲ以テ平和談判必須ノ条件トナス形

勢アルヲ以テ此際列国政府ニシテ若シ機ニ乗シテ自己ノ利益ヲ図ラントスルモノアルトキハ結局列国間ノ紛争ヲ誘致スル虞アルカ故ニ予メ之ヲ防止セントスルモノナルハ勿論ナレトモ右ノ提議ハ本来露国ノ首唱ニ基キ仏国政府ハ英国政府トモ協議ノ上之ヲ提起シタルモノナリトノ報アリ

埃洪国政府ハ右ノ提議ニ接シテ頗ル喜ハサルノ色アリ殊ニ輿論ノ激昂甚シク斯カル不当ノ提議ハ固ヨリ同意スヘキ限リニアラサルノミナラス一顧ノ価値タモ有セサルモノナリト痛論スルモノアリ遂ニ政府ハ之ニ対シ埃洪国ハ巴爾幹半島ニ於テ単ニ經濟上ノ利益ノミナラス政治上ノ利益ヲ有スルニ依リ同盟諸国ト協議ノ上ニアラサレハ確答ヲ与ヘ難シトノ理由ヲ以テ其回答ヲ留保セリ又勃牙利ニ於テハ「アドリアノーブル」陥落迄ハ断シテ列国ノ仲裁ニ応セスト主張シ頗ル強固ナル態度ヲ示セリ反之土耳其ハ十一月三日列国政府ニ平和談判ノ準備トシテ休戦ノ尽力ヲ申込ミタレハ独逸国政府ハ之ニ対シ土国ノ希望ヲ同盟四国政府ニ申入ルヘキ旨ヲ回答シ埃洪国政府ハ土耳其ノ希望ハ列強ト協議シ且ツ交戦諸国ノ意向ヲ確メタル上ニアラサレハ何分ノ回答ヲ与ヘ難シト答ヘ仏国政府ハ土耳其カ自国讓歩ノ程度ヲ示サ

独逸国政府ハ半官報北独日報ニ於テ一ノ通報ヲ發表シテ独国外相カ伊国外相ト巴爾幹問題ニ関スル意見ヲ交換スルニ当リテハ埃国大使モ之ニ参加シ充分ニ同盟各国間ノ意思ノ一致ヲ見タレハ此ノ一致ノ態度ニ依リ他列強トノ關係モ一層良好トナルヘシト云ヘリ独逸ハ此機ニ於テ近東問題ニ対スル埃伊兩國間意見ノ交換ヲ斡旋シ特ニ「アルバニア」問題ニ関シ三国ノ態度ヲ一決シタルモノ、如シ

十一月五日土耳其国政府ハ再び列強ニ対シ其共同ノ調停ニ依リテ同盟四国ノ平和条件ヲ承知シタキ旨ノ要求ヲナシタルヲ以テ列国政府ハ如何ナル時期及ヒ形式ニ於テ同盟四国政府ニ交渉スヘキカニ関シ既ニ交渉ヲ開始セリトノ報アリ然ルニ勃牙利ハ連戦連勝ノ勢ヲ恃ンテ其氣勢益々強ク勃軍ハ既ニ君府ヲ距ルコト僅カニ三十基米ノ地ニ到リテ足ヲ止ムルコト能ハス平和ノ談判ハ宜シク君府ニ於テスルヲ要スト唱ヘテ容易ニ之ニ応スル模様ナケレハ土耳其政府ハ益々憂懼措ク能ハス同国外相ハ在君府仏国大使ニ対シ此際列強カ速カニ仲裁ヲ試ミ勃軍ノ君府ニ侵入スルヲ防止スルニアラサレハ土国ハ直接敵軍ト談判ヲ試ミ君府不侵入ヲ条件トシテ悉ク敵国ノ要求ヲ容ル、ノ外ナシト云ヘリ

スシテ濫リニ休戦ヲ求メントスルハ戦局ノ現状ニ照ラシテ不可能ノコトナリトシテ之ヲ拒絶シ土国ノ希望ハ遂ニ列国ノ容ル、所トナラスシテ止メリ

十一月四日独逸伊三国政府ハ十月三十一日仏国政府ノ提議ニ対シ同文ノ回答ヲナセリ右回答中ニハ単ニ列強共同ノ調停ニ同意スル旨ヲ述ヘテ自己ノ利益ヲ計ラストノ宣言ニ関シテハ何等言及スル所ナシ但埃洪国外相ハ仏国大使ニ右回答書ヲ手交スル際口頭ヲ以テ埃洪国ノ国情ヲ披瀝シ巴爾幹ニ対スル歴史的因縁即チ「サロニカ」ニ達スル商業通路ニ言及シテ埃洪国ハ此際領土上ノ野望ヲ有スルモノニアラサレトモ其政治上及經濟上ノ利益ニ顧ミテ仏国ノ提議ニ係ル宣言ヲナスコト能ハサル旨ヲ説明セリ仏国ニ於テハ同盟政府ノ提議セル宣言ハ全然領土ニ関スル義ニシテ英仏露政府ハ巴爾幹半島ニ於ケル埃洪国ノ經濟的利益ヲ認識スルニ吝ナラサル旨既ニ反覆聲明セシ所ナレハ埃洪国政府カ殊更ニ蛇足ノ説明ヲ以テ其宣言ヲ拒ムノ非理ナルヲ難セリ

十一月四日伊国外務大臣ハ本年一月独国外務大臣ノ伊国訪問ニ対スル答礼ノ為メ伯林ニ赴キ皇帝ニ謁見シ当路者及埃国大使ト数回ノ会見ヲ遂ケ十一月七日独都ヲ去レリ翌八日

同五日仏国政府ハ更ニ列国政府ニ左ノ提議ヲナセリ

- 一、列強ハ巴爾幹同盟国ノ軍隊ニ依リテ占領セラレタル地方ニ於ケル政治上及行政上ノ變更ヲ承認スルコト
- 二、君府及其附近ニ於テ土帝ノ主權ヲ保留スルコト
- 三、欧洲列国會議ヲ開キ巴爾幹諸邦モ之ニ参加セシムルコト

露国ニ於テハ勃軍カ既ニ君府ニ迫ラントスルヲ見テ若シ君府陥落スル暁ニ於テハ回教徒ノ間ニ必ス排外心及宗教的反感勃興シテ在留列国臣民ニ対シ恐ルヘキ慘害ヲ加フルコト必定ナレハ其陥落前ニ調停ヲ試ミテ慘禍ヲ予防スルノ要アリトシテ頗ル焦慮ノ模様アルニ徴シ此案モ又露国ノ首唱ニ出テタルモノト推測セラレ独逸諸国ノ輿論ハ之ヲ以テ「パンスラブ」主義者ノ主張ニ基ク極端ナル方案ナリトシテ歡迎ノ意ヲ表セス然レトモ此等諸国ニ於テモ君府危急ニ迫レルカ為メ在留外国人ノ境遇漸ク危険ニ瀕スルヲ感知シ万一ニ備ヘンカ為メ警備艦ヲ派遣セントスノ報アリ

十一月九日希臘軍ハ「サロニカ」ヲ占領セリ

十一月十日西班牙国ハ敵正局外中立ヲ宣言セリ

十一月十一日米国政府ハ土耳其ニ於ケル混乱ノ状態ニ顧ミ

同国ニ於ケル多数米国宣教師及教育家ノ危惧ニ備フトノ理由ヲ以テ巡洋艦「テンネシー」及「モンタナ」ノ二艦ヲ土耳其ニ派遣セリ

共同調停ニ関シ列国間ノ一致ヲ妨クル重大ナル難関ハ主トシテ「アルバニア」ニ対スル埃塞兩國間ノ關係ニ存スルヲ以テ列強ノ間ニハ既ニ此ノ問題ニ関シテ交渉ヲ重ネ居ルモノ、如シ十一月十一日露国外務大臣ハ埃国カ塞爾比亞ヲシテ全然「アドリアチック」海ニ出テサラシメントスルハ頗ル無理ナレトモ塞国經濟上ノ利益ヲ保護スル為メニハ必スシモ同海ニ面スル一二ノ港湾ヲ取得スルヲ要セサルカ故ニ露国ハ塞爾比亞ヲシテ埃国カ「エジアン」海ニ対シ希望スル經濟上ノ地位ト同様ノ地位ヲ「アドリアチック」海ニ於テ取得セシメンコトニ専ラ尽力中ナリト云ヘルニ拘ハラス間モナク埃露兩國ニ於テハ動員ノ準備中ナリトノ風評伝ハリ本問題ニ関スル其後ノ経過益々不良ノ徴候ヲ呈シ埃洪国ハ伊国ト協議ノ上他日歐洲土耳其ヲ巴爾幹聯合諸国間ニ分割スルニ際シ「アルバニア」ノミハ之ヲ独立自治国トシテ埃伊兩國共同保護ノ下ニ置キ塞爾比亞ヲシテ「アドリアチック」海方面ニ吞吐港ヲ獲得セシム可ラスト主張シ独逸ハ

ニ陪從中ナリシ前勃国首相現国会議長カ遽カニ「ブダペスト」ニ来リテ皇帝ニ謁見シ外務大臣ト会見ヲ重ヌル等風雲極メテ急調ヲ呈セルニ際シ土国政府ハ列強カ同国ノ請求ニ係ル仲裁ノ斡旋ヲ拒ミシカ為メ直接交戦国ト開談スルコトニ決シ「ナジムパシヤ」ハ既ニ軍使ヲ勃国大本營ニ派遣シ休戦ヲ議セシメ居ルト云ヒ或ハ勃国外交官君府ニ来リテ休戦条件ノ協議中ナリトノ風聞アリシカ列強ニ於テハ兼テ土国ノ要求セル媾和ニ際シ同盟四国カ要求セントスル条件ノ問合ハセ方ニ関シ其依頼ニ応スルノ議纏マリ十一月十三日四国ニ向テ右ノ問合ハセヲ為セリ

又「アルバニア」問題ニ関シテハ露国ハ仏国ノ勸告ニ顧ミ主義上埃伊ノ主張ヲ認メ北部「アルバニア」一帯ノ地方ヲ塞爾比亞国ニ附与シ其他ヲ自治国ト為スコトニ異存ナキ旨ノ内意ヲ洩ラシ塞国ニ対シテハ若シ同国カ露国ノ期待以上ノ要求ヲ為シ之カ為メ万一埃洪国ト不和ヲ生スルカ如キコトアラハ塞国ハ決シテ露国ノ援助ヲ期待ス可ラサル旨ヲ声明シ埃洪国ニ於テモ塞国軍隊ノ「アルバニア」侵入ヲ単ニ軍事の行動ト解スル旨及同国ハ塞国カ「アドリアチック」海ニ於テ港湾ヲ得ルコトハ絶体的ニ反対ナレトモ同方面ニ

暗ニ之ニ声援ヲ与ヘ居リ一方ニ於テハ戰勝国タル半島四国ハ勿論露国モ共ニ之ニ反対ノ態度ヲ執リ何レモ万一ノ変ニ応スヘキ準備ニ着手シタルカ為メ危機切迫ノ状態ニ陥リタレハ仏国ニ於テハ多少ノ準備ヲ為スト共ニ露国ヲシテ可成強固ノ態度ヲ避ケ「アルバニア」ノ自治国タルヲ承認セシメテ無事ニ事局ヲ解決セシムルコトヲ勧誘中ナリトノ報アリ

塞爾比亞ハ列強ニ対シ其「アドリアチック」海岸ニ於テ取得セントスル所ハ「サン、ギラヴァン」ニ「アレッシヲ」「デニラツ」ノ三港及其附近一帯ノ地方ナル旨ヲ通告シタルニ埃洪国ニ於テハ之ニ不同意ノ意向ヲ示セルニ拘ハラス塞国ハ之ヲ意トセスシテ該地方ニ向ツテ其軍ヲ進ムルノミナラス塞国内ニ於テハ新聞紙及知名ノ人士等ニシテ埃国ニ対シ挑発的ノ言辞ヲ弄スルモノアリシヲ以テ埃国ノ態度ハ益々頑強トナリシカ上ニ若シ塞国ノ版図「アドリアチック」海ニ達シタル咄ニ於テ露国カ其勢力ヲ同国内ニ扶植スルトキハ埃国ニ取リテ殆ント死活問題タルヘキ大事ナリトシテ容易ニ其主張ヲ曲クル色ナク昨今「ブダペスト」ニ滞留セラル、老帝ハ急ニ皇太子ヲ同地ニ呼寄せラレ又勃王ノ陣中

於テ塞国ニ商業上充分ノ便宜ヲ得セシムルコトニ付テハ毫モ異存ナキ旨ヲ明カニシ最近ニ至リ露埃ノ間ニ意思疏通ノ曙光ヲ示シ危機稍々緩和ノ姿トナレリ

(附記二)

巴爾幹事件概要(三)乃至(七)

(三)

(一九二二年十一月乃至同年十二月)

斯ノ如ク埃洪国ノ態度稍々温和ノ傾向ヲ示スニ至リタルハ独逸ノ尽力又渺ナカラサリシカ如シ此際英國政府ハ交戦ノ状態弥久シテ時局益々紛糾セントスルヲ憂ヒ先以テ戦争ヲ終了セシメ係争ノ難件ハ列国会議ニ依リテ解決スヘシトノ意向ヲ洩ラシタルニ独逸ハ之ヲ以テ一種ノ政略ナラントノ疑問ヲ抱キ容易ニ同意ヲ表スル模様ナカリシカ故ニ英國政府ハ未タ正式ニ提議ヲ試ムルニ至ラスシテ前途尚混沌タルヲ免カレス且又埃洪国ハ先是羅馬尼ニ対シ勃牙利ヲシテ同国ニ土地ノ割譲ヲ為サシムヘシト約シタルニ独逸ハ之ニ同意ナルカ如キモ勃国ハ未タ之ヲ応諾セサルノミナラス露国ノ態度明瞭ヲ欠ケルカ故ニ埃洪国ノ立場ハ頗ル困難ノ境遇ニ在リシカ十一月十八日ニ至リ同盟四国ハ漸ク土耳其國政府ニ休戦条件ノ大要ヲ示シ其回答ヲ待チ合ハセ中ナリトノ

報アリ然ルニ「アドリアチック」海ニ於ケル港灣問題ニ関シテハ既に埃洪国ニ於テハ絶對ニ之ヲ拒絶シタレトモ勃牙利国ハ同盟ノ關係上塞爾比亞ノ要求ヲ支持スヘキ義務アルカ故ニ同国ハ頻リニ埃洪国ニ向テ条件ヲ付ストモ必ス塞国ニ一港ヲ得セシムヘシト要求シ露国モ亦同様ノ方針ヲ以テ埃国ト交渉ヲ開始シ暗雲未タ全ク去ラサルニ当リ塞国ノ軍隊ハ「プリズレンド」ヲ占領セシカ右占領ノ際ニ於ケル同地駐在埃国領事ノ行動ヲ不当ナリトシテ塞国政府ハ同領事カ本国政府トノ直接通信ヲ差止メタル上埃国政府ニ向テ同領事ノ交送ヲ要求シタレハ埃国政府ハ之ニ對シ事實取調ノ為メ同地ニ官吏ヲ派遣スルコト及同領事ト直接通信ヲ開クコトヲ請求シタルニ塞国政府ハ之ヲ拒ミタルカ為メ埃国ノ人心大ニ激昂シ之レカ為メニ兩國ノ關係再ヒ緊張シ半島ニ於ケル主タル問題ノ解決ニ渺ナカラサル影響ヲ及ボス恐レアリシカ塞国ハ遂ニ埃国ノ請求ヲ容レタルカ為メ大事ニ至ラサリシモ當時若シ塞国カ其回答ヲ遷延スルコト三日ナラシニハ埃国ハ同国ニ對シ最後ノ通牒ヲ發スル覚悟ナリシト云フ

同盟四国カ土耳其ニ提出シタル重ナル休戰条件ハ

タル半島「スラブ」ヲ援助スベシトノ説盛ニシテ政府ハ之カ制御ニ苦ミ万一ノ場合ヲ慮カリテ外務大臣ハ英仏兩國ニ向ヒ埃国カ若シ塞爾比亞ニ對シテ開戦シタル場合ニ於テ兩國ハ如何ナル態度ヲ採ルヘキカトノ質問ヲ發シタルニ英國外務大臣ハ目下ノ形勢ニ於テハ予シメ確答シ難シト答ヘ仏国外務大臣ハ先以テ露国ハ如何ナル態度ニ出ツヘキカラ承知シタシト反問セリ之ニ對シ露国ハ如何ナル回答ヲ為シタルヤ未タ明カナラサレトモ埃露ノ關係再ヒ危機ニ瀕シ兩國ハ盛ニ其軍隊ノ動員ヲ行フトノ風説切リニ行ハレ居ル際英仏ノ態度甚明瞭ナラサルヲ感知シ此際露国独リ強固ナル態度ニ出ツルハ極メテ不得策ナリト認メタルモノ、如ク露国外務大臣ハ稍々其態度ヲ一変シ埃露緊張ノ風説ヲ非認シ半島問題ニ関スル危險未タ全ク去レリト云フヲ得サレトモ特ニ事局ヲ困難ナラシムヘキ新事實發生シタルコトナク埃露間ノ關係ハ極メテ友誼的ニ進行シツ、アリ露国ハ単ニ塞爾比亞ヲシテ商業上ノ自由ヲ得セシムルコトニ尽力中ナルカ其方法ハ戦争終了後列国ヲシテ之ヲ決定セシメタキ考ナリ列国会議ハ多分巴里ニ於テ開カルヘシト思考スレトモ未タ具体的ニ列国間ノ議ニ上ホルニ至ラス但シ独逸国政府ニ於

一、土国ハ領土ノ割讓ヲ承認シテ媾和ノ基礎ヲ確定スルコト

二、軍事上ノ要地ニシテ依然土国軍ノ占拠セル二三ノ地点ヲ同盟軍ニ引渡スコト

三、土国ハ休戰中兵員ヲ増派セサルコト

等ナリシカ土国ハ之ヲ過大ノ要求ナリトシテ拒絶シタルカ為メ右談判ハ十一月廿一日遂ニ不調ニ了ハレリトノ報アリ之ト前後シテ仏国外務大臣ハ独逸兩國ニ對シ北部「アルバニア」ノ土地一部分ヲ孟的涅具路ニ割讓シ之ト接觸シテ鐵道線路ニ必要丈ノ土地ヲ条件トシテ一港ヲ塞爾比亞ニ与フルコトヲ協議シタルニ兩國ハ之ヲ承諾セス而シテ埃国ノ態度カ斯ノ如ク強固ナルハ最近独逸ハ埃国ヲ支持スルノ意頗ル堅ク且ツ同国ハ戦争ヲ避ケントスルノ意事件開始當時ノ如ク切ナラストノ説アリ又伊国モ誠実ニ同盟条約ヲ恪守スルコトニ決シタルモノ、如ク從テ埃国ハ後慮ノ憂減シタルカ故ニ頗ル大胆ナル態度ヲ取ルニ至リ内ハ「ガリシヤ」並ニ南方ニ大兵ヲ送り外ハ露国ニ於ケル波蘭人ヲ煽動スル疑アリ之ニ對シ露国ニ於テモ上ハ皇族及保守派貴族ノ間ニ主戰説行ハレ下ハ一般人民ノ全「スラブ」主義ヲ唱ヘテ其同胞

テモ別ニ之ニ異議ナキカ如シト云ヘリ又埃都駐劄露国大使ハ埃国ニ對スル塞爾比亞ノ態度強固ナルハ其同盟国ノ援助ヲ恃メルカ故ニシテ各同盟国ハ予メ同盟条約ニ於テ分割區域ヲ定メ相助ケテ其目的ヲ達センコトヲ約セリ故ニ若同盟国カ此際塞爾比亞ニ讓歩ヲ勸告セハ塞国ハ其態度ヲ和クヘシト雖モ露国ハ同国ニ對シ単ニ外交上ノ援助ヲ与フルモノタルニ過キサレハ露国ニ對シテ多大ノ希望ヲ抱クヘキ理ナシ但シ埃塞兩國ノ間ニ戦争起リ塞国カ埃国ニ粉碎セラル、カ如キ場合ニ於テハ露国ハ勢之ヲ坐視スルコト能ハサレトモ兩國ノ關係ハ斯カル切迫セルモノニアラスシテ何トカ調和ノ道ナキニアラス彼ノ埃国カ頃日「ガリシヤ」並ニ南部地方ニ兵ヲ送ルハ同地方ニ於ケル「スラブ」人ニ備ヘントスルモノナルカ露国ニ於テモ多少之ニ応對スルト同時ニ波蘭人ニ備フル必要アリ故ニ兩國ノ動員ニ関シ新聞紙ノ伝フル埃露ノ關係ハ稍々誇張ニ失スト云ヘリ

十一月廿二日埃国政府ハ塞国政府ニ對シ塞国カ「アドリアチック」海ニ於テ港灣ヲ取得スルコトハ同意シ難キ旨ヲ声明シタリ塞国政府ハ之ニ答フルニ港灣ニ関スル問題ノ解決ハ戦争終了後譲り度キ旨ヲ以テシタルニ廿五日迄埃国ハ

何等意思ヲ表示セザリシカ故ニ人心不安ノ模様アリシカ驗テ廿六日ニ至リ埃国政府ハ「アルバニア」問題ヲ他ノ諸問題ト共ニ列国會議ニ於テ決定スルコトヲ承諾スヘキ旨ヲ宣言シ之レカ為メニ一般ノ形勢稍々緩和セリトノ報アリタレトモ埃国ハ依然トシテ其高手の態度ヲ改メサルモノ、如シ十一月廿七日土耳其古国ト同盟四国トノ間ニ再ヒ休戦談判ヲ開始セリ是レ昨今土耳其古軍ノ地位稍々優勢トナリタルニ反シ勃牙利軍ニ於テハ多少疲労ノ傾キヲ呈シ形勢変化シタルカ為メニ勃国ニ於テハ此際多少其条件ヲ輕減シテ速カニ休戦ヲ為スヲ得策ト認メタルト極メテ強固ナル態度ヲ維持セシ塞爾比亞モ埃露昨今ノ態度ニ顧ミ稍退嬰的態度ヲ取ルニ至リタルカ為メナリト云フ

十一月廿八日埃国首相ハ各政党ノ首領ヲ招集シ政府ヨリ提出スヘキ馬匹及車輛徵發法案戰時服從法案及動員被招集者ノ困窮家族扶助法案ノ三法案ヲ急速議會ヲ通過セシメンコトヲ協議シタルニ各政党ハ南方「スラブ」派ヲ除クノ外即日之ニ同意シタルカ故ニ右三法案ハ廿九日埃国下院ニ提出セラレタリ洪国政府モ之ト同時ニ同様ノ法案ヲ其下院ニ提出シタレハ時節柄大ニ世上ノ注意ヲ喚起セル際埃国前參謀

ルト同一ノ態度ヲ取り予メ關係諸国間ニ於テ協議ヲ尽クシ大体ノ基礎ヲ決定シタル上會議ニ於テハ單ニ形式上是認セシムルニ止メントノ考案ヲ有シ從テ右ノ時機ニ達スル迄列國會議ノ開催ヲ欲セサルモノ、如シ

十二月二日独逸国宰相「ベットマンホルウエグ」氏ハ議會ニ於テ外交ニ關スル演說ヲ試ミ巴爾幹問題ニ関シテハ独逸ハ三国同盟ニ重キヲ置キ全然埃洪国ノ主張ヲ支持スルモノナル旨ヲ声言セリ

十二月三日希臘ヲ除ケル他ノ同盟三国ト土耳其古国トノ間ニ休戦規約ノ調印ヲ了セリ希臘ノ之ニ加ハラサリシハ同国ハ休戦ノ為メ土国ノ港湾ニ施セル封鎖ヲ解クコトヲ欲セサルト「ジャンナ」ノ取得ヲ切望シ近日同地ニ総攻撃ヲ加ヘントノ希望アルニ依ルト伝ヘラル而シテ休戦規約ノ内容ハ

一、各交戰国軍隊ハ現位置ヲ保持ス

二、包囲中ノ各要塞ハ糧食ノ供給ヲ受ケス

三、勃牙利軍ニ対スル糧食ノ供給ハ黑海及「アドリアチック」海方面ヨリスルモノトス

但休戦規約締結後十日ヲ過キテ之ヲ開始ス

四、媾和談判ハ十二月十三日倫敦ニ於テ之ヲ開始ス

総長「コンラッド」男ハ皇帝ノ親翰ヲ羅馬尼国ニ捧呈ノ為メ「ブカレスト」ニ赴ケリ同男ハ埃国將官中最モ名望アリテ一般ニ敬重セラル、人物ナルカ故ニ此際ニ於ケル同男ノ使命ハ著シク内外ノ耳目ヲ聳動セシメタリ

十一月廿八日塞爾比亞軍ハ「デュラゾー」港ヲ占領ス

十一月廿九日「ヴェロナ」ニ於テ「アルバニア」人ノ國民大会ヲ催シ同地ニ仮政府ヲ設ケテ獨立ヲ宣言シ「イスメールケマルベイ」ヲ其首領ニ推シ同人ノ名ヲ以テ埃伊兩國政府ニ向テ其獨立ノ承認ヲ求メタリトノ報アリ同人ハ「アルバニア」人ニシテ近頃維納ヨリ帰国シタル者ナルカ故ニ其埃国トノ關係ニ付キ頗ル疑義ヲ醸セシモノ、如シ

十二月一日英國政府ハ巴爾幹問題ノ解決ニ関シ意見ヲ交換センカ為メニ列国使臣會議ヲ巴里ニ於テ開カンコトヲ提議シタルニ独逸国政府ハ會議其モノニ對シテハ異存ナキモ會議ノ場所ハ倫敦ニ於テシタシト申込メリ埃国政府ハ右ノ提議ニ對シ未タ何等ノ回答ヲ為サ、レトモ独逸国政府ニ於テハ同国ヲシテ之ニ同意セシムル様折角尽力中ナリトノ報アリ蓋シ埃国外務大臣ハ此種ノ問題ヲ會議ニ依リテ決定スルコトヲ困難ナリト認メ往年「ボ」ヘ」兩州合併問題ニ對ス

等ニシテ希臘ハ右休戦條約ニ調印セザリシモ倫敦ニ於ケル媾和談判ニハ参加スヘシト伝ヘラル而シテ希臘カ此際休戦規約ニ調印セサルコト並ニ「サロニカ」ニ於ケル勃希兩軍ノ軋轢及ヒ同地ヲ陥落セシメタル功ハ兩軍孰レニアリヤトノ爭論ヲ起セシカ如キハ悉ク兩國間ニ潜伏スル軋轢反感ヲ暴露シタルモノニシテ勃牙利ハ渺ナクトモ同港ヲ希臘ノ占有ニ帰セシムルコトヲ欲セス又希臘ハ塞國ノ占領地タル「モナスチール」ニ野心ヲ有シ同盟四國間ノ乖離漸ク其端ヲ開ケリトノ說アリ

英國政府ノ提議ニ係ル列国使臣會議ニ関シテハ埃国政府ハ独伊兩國政府ト協議中ナリト唱ヘテ未タ何等ノ回答ヲ發セサレトモ右會議ハ一種ノ Clearing house ノ如キモノニシテ單ニ意見ヲ交換スルニ止マリ討議決定ノ權能ヲ有セサルモノナル由ニテ埃国ニ於ケル一般ノ意向ハ頗ル之ヲ歡迎シタレトモ政府ニ於テハ「アルバニア」問題ニ関シ塞爾比亞カ結局埃國ノ意見ニ同意セサルトキハ埃國ハ武力ニ訴ヘテ之ヲ貫徹セントノ決意ヲ固メタルモノ、如ク且ツ既ニ南北兩國境ニ大兵ヲ送レルカ為メ其費用甚タ巨額ナルカ上ニ現下ノ形勢不定ナルカ為メ商工業ニ及ホス影響著シク現ニ閉

店破産続出スルカ故ニ最早其方法ノ如何ヲ問ハス出来得ル限リ時局ノ解決ヲ急カントスル意アレハ或ハ平和条約ノ成立ヲ待タスシテ何等カノ行動ヲ取ルヤモ計ル可ラストノ説アリ又十二月二日独相ノ演説ハ直チニ之ヲ以テ戰意ヲ含メリト断スルヲ得サレトモ独逸ニ於テハ塙國カ其要求ヲ縮メテ「アルバニア」問題ノミニ限定スルニ至リタルハ一ニ独逸ノ尽力少ナカラサルニ居ルカ故ニ此上ハ塙國ノ決行ニ任カスノ外ナシトノ意ヲ洩ラシ露國ニ於テハ塙國ノ動員ヲ不穩当ナリトシテ非難ノ声高ク且ツ全「スラブ」主義熾シニシテ此際塙國ニ對スル往年ノ恥辱ヲ雪カスンハ止マストノ激論ヲ唱フルモノ少ナカラサレハ兩國ノ關係ハ未ダ全ク危機ヲ脱シタリト云フ可ラストノ報アリ

十二月七日塙國政府ハ何等ノ變更ナクシテ三国同盟条約更新セラレタル旨ヲ發表セリ右ハ曩キニ塙國外務大臣カ伊國訪問ノ際既ニ其談緒ヲ開キ次テ伊國外務大臣カ独國訪問ノ際独相及塙國大使トノ間ニ商議ヲ重ネ十一月廿六日伊國外務省書記官長伯林ニ赴キ之ヲ確定シタルモノナリト云フ而シテ三国ニ於テハ巴爾幹問題ハ既ニ休戰ノ談判纏マリ且ツ媾和會議モ不日倫敦ニ開カルヘク又列國使臣會議モ之ト前

ヘルニ徴スレハ塙國政府カ其議會ニ戰爭ノ準備ト看做サルヘキ法案ヲ提出シ或ハ外國ニ借款ヲ募リ若シクハ軍府ニ交渉ヲ行フ等ノ措置ハ一ハ媾和談判破裂ノ場合ニ備ヘ一ハ塞國ニ對シ間接ニ威圧ヲ加ヘントスル趣意ナルカ如シ

休戰規約ニ基キ十二月十三日倫敦ニ於テ開クヘキ媾和會議ハ十二月十六日迄延期セリトノ報アリ

十二月十六日塙國政府ハ「ブリズレンド」事件ニ関シ左ノ通報ヲ発セリ

調査ノ結果ニ依レハ「プロチャスカ」領事拘留虐待等ノ事實ハ幸ニシテ存在セス同領事交迭ニ関スル塞國政府ノ要求モ又其根拠ナキコト判明シタルカ「ブリズレンド」ニ於ケル塞國ノ陸軍官憲カ同領事及館員ニ對シ國際法上不法ノ措置アリタルヲ以テ塙國政府ハ之カ満足ナル解決ヲ要求スルト共ニ其事情ヲ塞國政府ニ知照スヘシ同國政府ハ之ヲ拒絕セサルヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ

然ルニ塞國首相ハ十二月廿一日自己ノ發意トシテ塙國公使ヲ訪問シ「ブリズレンド」ニ於ケル塞國陸軍官憲ノ誤解ニ関シ遺憾ノ意ヲ表シテ謝意ヲ述ヘタルヲ以テ本件ハ無事ニ

後シテ同地ニ開催セラレントスルニ當リ三国同盟ノ繼續ヲ發表スルコトヲ得タルハ平和維持ノ為メ極メテ機宜ヲ得タルモノナリトシテ之ヲ賞賛シタレトモ三国以外ノ列強ニ於テハ多ク之ヲ論評シタルモノアルヲ聞カス

十二月九日塙國政府ハ予テ紐育銀行團ト交渉中ナリシ四分利付三ヶ年据置金額二千五百萬「クローネ」ノ借款成立シタル旨ヲ發表セリ同日塙洪國軍務大臣「オーフェンベルグ」大將及參謀總長「シェミューア」中將辭任シ軍務大臣ニ現軍務次官「クロバチン」氏參謀總長ニ前參謀總長「ヘーツェンドルフ」男任命セラレタリ兩後任者ハ其手腕名望卓絶ノ稱アレハ此ノ交迭ハ注目ニ価スルモノアルカ如シ塙國外務大臣カ土國ハ倫動媾和會議ニ於テ其相手國ニ譲与スヘキモノヲ一括シテ引渡シ之レカ分配ハ四國間ニ於テ決定スル順序ナレハ右談判ハ成否孰レニ決スルトモ二週間ヲ出テサルヘシ只「アドリアノーブル」ノ処分ニ関シ或ハ破談ニ終ハルナキカ又露國ノ關係ハ昨今大ニ緩和シタルニ拘ハラス塞國ノ態度頑強ナルハ必スシモ露國ノ後援ヲ恃ムカ故ニアラス同國政府ハ軍人ノ勢力ニ左右セラレ若シ彼等ノ主張ヲ無視スルトキハ國王ト雖モ其地位ヲ保チ難キ狀態ニ在リト云

落着セリ

媾和會議ハ十二月十六日倫敦聖ゼームス宮ニ於テ開ケリ当日ハ英國外相「グレイ」氏出席シテ韓旋ノ勞ヲ取り各國全權委員ハ議事ノ方法ヲ協議シ「グレイ」氏ヲ名譽會長ニ推薦シテ散會セリ翌十七日第二回會議ヲ開キ各全權委員正式ニ其委任狀ヲ交換スルニ當リ土耳其國委員ハ休戰條約ニ調印セサル希臘國委員ト談判スル權能ヲ有セサルコト判明シタレハ之カ決定ノ為メ廿一日迄休會スルコト、ナリ廿一日第三回ノ會議ニ於テ土耳其國委員ハ本國政府ニ請訓ノ結果希臘國委員ト開談スルヲ條件トシテ「アドリアノーブル」ニ糧食ヲ供給センコトヲ要求シタルニ同盟四國ノ委國ハ之ニ對シ糧食供給ニ関スル件ハ既ニ休戰規約ニ依リテ決定セル所ナレハ媾和會議ノ議題外ニ屬ストノ理由ヲ以テ之ヲ拒絕シ土國委員ハ更ニ本國政府ニ請訓ノ必要アリトシテ廿三日迄休會スルコト、ナリシカ廿三日第四回ノ會議ニ於テ土國委員ハ希臘國トノ談判ニ對スル故障ヲ撤回シ且ツ「アドリアノーブル」ニ糧食供給ノ件ヲモ主張セサル旨ヲ声明シタルヲ以テ四國全權委員ハ左ノ媾和條件ヲ提出セリ

一、土耳其國ハ「ロドスト」ノ東方ヨリ黒海ニ至ル線以

西ノ領土全部ヲ四国ニ割譲スルコト

但「ガリポリ」半島ヲ除外ス

二、土耳其国ハ「エジヤン」海ニ於ケル諸島ヲ四国ニ割譲スルコト

三、土耳其国ハ「クリート」島ニ対スル其主權ヲ抛棄スルコト

四、「アルバニア」問題ハ列強ノ措置ニ一任スルコト

右ノ条件ニ対シ土国委員ハ熟考ノ必要アリトシテ猶予ヲ要求シ結局會議ハ廿八日迄休会スルコト、ナレリトノ報アリ列国使臣會議ハ結局埃国モ参加スルコト、ナリ十二月十八日英国外務大臣「グレー」氏及英京駐割各國使臣外務省ニ参集シテ之ヲ開キ翌十九日第二回廿一日第三回ノ會議ヲ重ネ次期ノ會議ハ翌年早々開会スルコト、ナレリ其内容ハ秘密ニ付セラレタレトモ「アルバニア」問題「アドリアチック」港灣問題其他ノ難件ニ関スル列国政府ノ意見交換ハ極メテ円滑ニ行ハレ居ルモノノ如シ

十二月廿一日下院ニ於ケル仏国外相ノ演說中列国使臣會議ニ於ケル各國大使ハ巴爾幹問題ニ関シ列国間ニ不一致ヲ招クヘキ重ナル原因ヲ除却スルコトヲ成功シタルモノト思考

列国使臣會議ノ結果ニ対スル諸國ノ見解ハ概ネ樂觀的ニシテ仏国外相ノ演說中ニモ之ヲ明言シタレトモ媾和會議ニ関シテハ勃國ノ全權委員「ダネフ」氏ハ開会前既ニ「アドリアノーブル」ノ割譲ヲ主張シ若シ同地未ダ陥落セサルカ故ニ其目的ヲ貫徹スルコト能ハスンハ更ニ一戰ヲ辞セスト声言シ希臘ニ於テハ休戰規約ニ調印セサルノミナラス媾和會議ヲ目前ニ控ヘナカラ大挙「ジャニナ」ノ攻撃ニ着手シ又孟の涅具路ニ於テハ這回ノ戰爭ノ為メ士卒ノ戦歿セシ者夥多ナルニ拘ハラス其結果ハ國民ノ予期ニ反シ尤モ熱望スル「スクタリー」ノ占領ヲ遂ケサル内休戰トナリ媾和會議ニ於テ同市ヲ獲得スルノ望ミ甚タ少ナキヲ以テ現王朝反對運動激烈トナリ「ニコラス」王ノ地位危シトノ報アリ然ルニ他方ニ於テハ土耳其国全權委員現駐独土国大使「ニザミバシヤ」ハ媾和會議参列ノ途次伯林ニ立寄り独逸外務当局者ト会見ノ折土耳其国ハ近々更ニ廿万ノ兵ヲ亜細亞ヨリ召集スヘキニ付テハ若シ會議ニ於テ妥協困難ナル場合ニハ再戰ノ覚悟アリト云ヘリトノ報アリ斯ノ如ク媾和ニ対スル交戦國間ノ意向甚タ不定ナルニ当リ會議ノ進捗遅々トシテ進マヌ休会ニ次クニ休会ヲ以テスル有様ナルカ故ニ之レカ成果

セラル各大使ハ「アルバニア」ヲ自主国トスルコト及塞爾比亜ニ対シ「アドリアチック」海ニ於テ通商上ノ吞吐港ヲ確保スルノ提案ヲ採用センコトヲ夫々本國政府ニ稟申中ナルカ各國政府ハ之ヲ承諾セントスルモノ、如シ塞國モ又歐洲列強ノ希望ニ同意スヘシト信スヘキ理由アリ而シテ自主國タル「アルバニア」ハ仏國ヲ包含スル列強ノ監督下ニ置カルヘシ又塞爾比亜ニ確保セラルヘキ吞吐港ハ自由且中立港タルヘキハ勿論ニシテ同港モ又歐洲列強監督ノ下ニ置キ國際的鐵道線ニ依リテ連絡ヲ図リ該鐵道ニ依リテ輸送セララル、一切ノ商品（軍用品ヲ含ム）ハ内地稅免除ノ自由ヲ有スヘク且塞爾比亜國ハ自由通關ノ特典ヲモ享有スヘシ列國ハ右等ノ計畫ヲ確定スルニ當リ塞國ノ存立上欠ク可ラサル必須ノ事項ニ付キ同國ニ保障ヲ与フルコトヲ努力スヘシ蓋媾和會議カ右ノ提案ニ同意スルヤ否ヤハ今尚ホ不明ニシテ容易ニ予察スルコト能ハサルコロナルカ若シ不幸ニシテ談判破裂シ再ヒ戰爭ヲ開始スルニ至ラハ為メニ一般ノ大紛乱ヲ醸モスヘキ恐愈々増加スベキヲ以テ斯カル場合ニ立至ラハ歐洲列強ハ当初ト等シク調和ノ手段ヲ講スヘキハ疑ヲ容レスト云ヘリ

ニ関シ一般ニ悲觀ノ念ヲ抱ケルカ如シ

(四)

(一九二二年二月乃至一九二三年二月)

十二月廿八日土国全權委員「レシッドパシヤ」ヲ議長トシテ第六回媾和會議ヲ開キ土国委員ハ前回（前掲十二月廿三日ノ會議ヲ第四回トセシハ第五回ノ誤）ニ於テ四国全權委員ヨリ提出セシ媾和条件ニ対シ大要左記ノ如キ土国政府ノ對案ヲ提起シ四国委員ハ之ニ対シ互ニ其意見ヲ交換シタルノミニテ何等決定スルコロナクシテ閉会セリ

一、「アドリアノーブル」州ハ完全ナル土国ノ主權及支配ノ下ニ留保スルコト

二、「マセドニア」州ハ土国ノ宗主主權ノ下ニ自治制ヲ設立シ「サロニカ」ヲ以テ其首府トシ巴爾幹同盟國ニ於テ選定シ土国皇帝ノ指名セル成ルベク基督新教ヲ奉スル親王ヲ中立國ヨリ迎フルコト

三、「アルバニア」ハ土国ノ主權下ニ於テ自治ノ一州トナシ獨立ノ議會ヲ開設シ土国ノ皇族中ヨリ其知事ヲ選ヒ五ヶ年ヲ任期トシテ之ヲ支配セシムヘシ但其任期ハ之ヲ延長スルコトヲ得

四、「クリート」島ハ列國ノ保護下ニ在ルカ故ニ之レカ

処分ハ純然タル土国ト關係列国間ノ問題ニ屬シ本會議ニ於テ議スヘキ限リニアラス

五、多島海^{メジャシ}ニ於ケル島嶼ハ小亜細亞ノ行政区劃ニ屬スルヲ以テ土国ニ於テ之ヲ領有スルヲ要ス

此ノ對案ハ領土變更ヲ主眼トスル四國ノ提案ニ反シ全然伯林條約ヲ基礎トスル土領諸州ノ改革ヲ提議スルモノニ過キスシテ現戰爭ノ結果ヲ無視シ且ツ「マセドニア」及「アルバニア」ノ大部分ニ於テ現ニ土国ノ主權ノ完全ニ存在セサル事實ニ言及スル所ナキカ故ニ同盟國委員ハ土國政府ノ態度ヲ倨傲ナリトシテ極メテ不滿ノ意ヲ表シ其對案ヲ四國ノ提案ニ對スル回答トシテ討議スルコトヲ拒絕シタレハ土國委員ハ更ニ其趣ヲ本國政府ニ通達シテ訓令ヲ仰クヘキ旨ヲ提言セリ

十二月三十日第七回會議ヲ開キタルニ土國委員ハ前回ニ於ケル其提言ニ係ル本國政府ノ訓令不充分ニシテ新案全部ヲ開示スル運ヒニ至ラサレトモ一部分丈ハ之ヲ提出スルコトヲ得ル旨ヲ述ヘタルニ同盟國委員ハ對案全議ヲ提出スル迄商議ヲ開クコトヲ拒ミ何等決スルトコロナクシテ閉會セリ一月一日第八回會議ニ於テ土國政府ハ遂ニ從來ノ態度ヲ一

テ之ヲ承認ス又「アルバニア」ニ關シテハ同盟國ハ其原案ヲ主張ス

二、「アドリアノーブル」州ニ關スル土國ノ要求ハ別個ノ約定ヲ包含シ且ツ土地割讓ノ要求ニ応セサルモノナルカ故ニ之ヲ承諾スルコト能ハス

三、多島海島嶼及「クリート」島ニ關スル土國ノ要求ハ之ヲ承諾スルコト能ハス同盟國ハ右島嶼ノ割讓及「クリート」島ニ於ケル凡テノ土國ノ權利ヲ拋棄スヘキ最初ノ主張ヲ維持ス

此會議ニ於テ同盟國ハ其取得セントスル土地ノ分配ニ付キ各所見ヲ異ニスルニ拘ハラス依然トシテ強固ナル一致ノ態度ヲ取り又土耳其側ニ於テモ從來ノ倨傲ニ反シ稍々交讓的態度ヲ示シ會議ノ進捗頗ル好望ナルカ如クナレトモ結局ノ難問ハ「アドリアノーブル」州ノ讓否ニ在リテ存スルカ上ニ領土割讓ノ問題決定スルトキハ同盟國ハ更ニ償金ヲ要求セントスル傾キアレハ是又幾多ノ議論ヲ生スヘシト觀測セラル

一月三日第九回會議ヲ開催シ土國委員ハ前回ニ於ケル同盟國委員抗議ノ次第ヲ本國政府ニ報シテ訓令ヲ求メタル結果

變シ同盟四國戰勝ノ事實ヲ認識スルコト、シ其委員ヲシテ前案ヲ撤回セシメ更ニ左ノ新案ヲ提出セシメタリ

一、「アドリアノーブル」州以西ニ於ケル被占領地ハ凡テ之ヲ讓与スヘシ而シテ其境界ノ決定及「アルバニア」自治制ノ制定ハ列強ノ裁定ニ一任スルコト

二、「アドリアノーブル」州ハ土耳其帝國ノ直轄所領トシテ之ヲ留保シ土國及勃牙利國ハ其必要ト認ムル境界ノ改訂ニ付キ商議ヲ開クベシ

三、土國ハ多島海ニ於ケル何レノ島嶼ヲモ割讓スルコト能ハサレトモ右ニ關スル問題ハ之ヲ列強ト討議スヘシ四、「クリート」島ニ關シテハ土國ハ土國ト關係列國トノ間ニ於テ決定スルトコロニ從フベシ

五、以上ノ諸項ハ不可分ノモノナリ

同盟國委員ハ右ノ新案ニ對シ商議ノ上回答ヲ起草セシカ為メ一時休會ヲ要求シ一時間半ニ亘ル熟議ノ結果希臘國委員「ヴェネゼロス」氏ハ左ノ連合回答ヲ朗読セリ

一、同盟國ニ於テハ「アドリアノーブル」州以西ニ於ケル領土割讓ノ件ハ現ニ占領スル土地ノミナラス未タ完全ニ占領セサル土地ヲモ包含セシムルコトヲ條件トシ

更ニ左ノ申出ヲナセリ

同盟國側ニ於テ商議ノ基礎トナルヘキ境界線ノ開示ヲ要求セラル、カ故ニ土國委員ハ茲ニ新タナル讓与タル「アドリアノーブル」州ニ於ケル境界線ノ改訂ヲ提議ス

新境界ハ旧境界ヨリ起リテ「アーダ」河ノ流域低地ニ達シ河流ヲ沿フテ「スュドル」河ノ河口則チ同河ト「アドラ」河トノ合流点ナル「アダ」ニ至リ「グムルヂナ」ヲ東ニ見テ「クルグル」湖ニ達スヘシ而シテ其細目ニ亘リテハ互ニ軍事委員ヲ選シテ之ヲ協定セシムヘシ

「クリート」島問題ニ關シテハ土國ハ他ノ島嶼ノ割讓ヲ要求セサルコトヲ條件トシテ關係列國ニ向テ其主權ヲ拋棄シ該島ノ支配ヲ列國ニ一任スヘシ

右ニ對シ同盟國委員ハ臨時休會ノ上商議ヲ遂ケ左ノ通り申出テタリ

同盟國委員ハ土國カ戰爭ノ結果ヲ考量セサルヲ甚タ遺憾トス從テ媾和會議ハ之ヲ中止スルノ外ナシ但シ同盟國ハ其交讓ノ精神ヲ明カニスル新証トシテ土國委員ニ對シ来ル月曜日午後四時迄ニ左ノ諸項ニ對スル決答ヲ要求ス一、土國ハ「クリート」島ニ於ケル其主權ヲ拋棄スルコ

ト

二、土国ハ多島海ニ於ケル島嶼ヲ割譲スルコト

三、「アドリアノーブル」州ニ関シテハ土国ハ「アドリアノーブル」市ヲ同盟国ニ譲与スヘシ然ラサレハ會議ハ茲ニ断絶スヘシ

斯クテ媾和會議ノ継続セラル、ヤ否ヤハ一ニ係リテ土国ノ回答如何ニ存スルコト、ナリシカ土国政府ハ頗ル譲歩ニ客ニシテ其措置極メテ曖昧ナルカ故ニ平和ノ希望ハ尚ホ甚タ遼遠ナリトノ感ヲ抱クモノ漸ク多キヲ加フルニ至レリ伝フル所ニヨレハ現ニ土耳其ニ於テハ軍人派非軍人派互ニ意見ヲ異ニシ或ハ主戦説ヲ主張シ或ハ媾和説ヲ支持シ又「アドリアノーブル」市問題ニ関シテモ割譲説非割譲説陷落後割譲説等ノ数説行ハレ政治上非常ノ混乱ニ陥リ何等決定スルコト能ハサル状態ニ在リト云フ

列国使臣會議ハ一月四日外務省ニ於テ開会セリ此會議ニ於テハ専ラ多島海ニ於ケル島嶼割譲ノ問題ヲ議セシニ使臣中ノ多数ハ「ヂオス」島ニ於ケル土国ノ最後ノ衛戍兵敗北セル事実ハ希臘ヲシテ多島海ニ於ケル全島嶼割譲ノ主張ヲ強固ナラシメタルハ明カナレトモ右島嶼ハ「アナトリア」沿

ル理由ハ多々アリト雖モ就中君府及「ダーダネルス」ノ安全ヲ保タントノ見地ニ於テ之カ割譲ヲ不可能トスル次第ナリ我等委員ハ妥当ノ条件ニ基キ交戦国双方ニ有利ナル和親關係及通商上ノ便宜ヲ確保シ以テ永久ニ平和ヲ確立センカ為メニ茲ニ来リ会セリ故ニ今日ト雖モ尚ホ土勃兩國間ノ境界問題ヲ商議スル用意アレトモ此ノ境界ノ決定ニ際シ「アドリアノーブル」ハ依然土国ノ領土トシテ之ヲ留保スルコトヲ要ス土国ハ交譲ノ精神ヲ証センカ為メニ同盟国カ多島海島嶼ノ割譲ヲ要求セサルヲ条件トシテ「クリート」島ニ於ケル其權利ヲ抛棄スルコトニ同意スヘシ

斯ノ如キ多大ノ犠牲ヲ払フニ拘ハラス同盟国ハ交譲ノ順路ニ入ルヘキ凡テノ工夫ヲ却ケテ商議ヲ断絶センコトヲ欲スルニ於テハ之カ結果ニ対スル全責任ハ同盟国ニ歸スヘキモノニシテ斯カル場合ニ立至ラハ土国カ今日迄同盟国ニ対シテ為シタル譲与ハ悉ク無効タルヘキコトヲ宣言ス

之ニ対シ同盟国委員代表者ハ

土国ノ提議ハ前回同盟国委員ヨリ提起セル要求ニ適応セ

岸ニ近接スルカ故ニ之ヲ希臘ニ割譲セシムルトキハ為メニ亜細亞土耳其ニ対スル危害ノ因ヲ作り引テ「アナトリア」ニ於ケル希臘人ニ騷擾ノ念ヲ起サシムル恐アリ亜細亞土耳其ニ紛擾ヲ生スルカ如キハ極力之ヲ避ケサル可ラストノ説重キヲナセシモノ、如シ

一月六日第十回媾和會議ヲ開キ前回則チ第九回ノ會議ニ於テ同盟国委員ヨリ提起セル要求ニ対シ土国委員ハ左ノ通り弁セリ

前回ニ於テ同盟国委員ヨリ手交セル書柬中土国ハ戦争ノ結果ヲ考量セサルモノナリトノ意ヲ表セラレタルカ實際ニ於テハ土国ハ既ニ重要ナル領土ノ割譲ニ同意シ僅カニ二点ヲ除クノ外悉ク同盟国ノ要求ヲ容レタリ同盟国カ「アドリアノーブル」州以西ニ於ケル占領地ノ割譲ヲ承諾シタル土国ノ提言中ニアル占領ナル語ニ代ユルニ存在ナル語ヲ以テセントスル主張ハ明カニ其要求セントスル土地ノ一部ハ實際未タ其手中ニ帰セサルモノナルコトヲ自認スルモノナリ

斯ノ如キ土国ノ譲与ニ対シ同盟国ハ一モ其対償ヲ与フルコトナシ土国カ「アドリアノーブル」ノ割譲ヲ肯ンセサス斯ノ如キ新提議ニ基ク商議ハ決シテ合意ニ達スヘキ性質ノモノニアラサルヲ以テ同盟国ハ止ムヲ得ス會議ノ進行ヲ中止スヘシ

ト述ヘ土国委員ハ其際ノ議長タリシ塞国委員「ノバコウィツチ」氏ニ対シ會議ノ進行中止トハ如何ナル意ナリヤト質シタルニ「ノ」氏ハ只文字通り解スルノ外ナク其以上ノ説明ヲ与ヘ難シト答ヘタルカ其後同盟国委員等カ非公式ニ會議ノ進行中止ト云フテ断絶ト云ハサルハ単ニ列国ノ感触ヲ害セサルンカ為メナリト云ヘルニ徴スレハ右ノ中止ナル語ハ殆ント断絶ト同意義ナルカ如キモ英國新聞紙中ニハ之ヲ以テ一時ノ中止ニ過キスト解スルモノアリ

此日列国使臣會議モ又外務省ニ於テ開会セラレ駐英土国大使「チウフキックパシヤ」及勃国委員「ダネフ」氏ハ開会前ニ外務省ニ各国使臣ヲ訪フテ交戦国最近ノ見解ヲ詳述シテ其参考ニ供シタルカ會議ノ内容ハ例ニ依リテ秘密ニ付セラレ其真相ヲ知ルヲ得サレトモ媾和會議ノ状況前述ノ如ク不穩ニ陥リタルヲ以テ之カ調和ノ方法ニ付キ協議ヲ擬ラシ各其本国政府ニ向ツテ何等カ稟請スル所アリタルモノ、如ク一月七日独逸国外務次官ハ三国同盟側ニ於テハ「アドリ

アノープル」ヲ勃牙利ニ割譲セシメ土耳其ヲシテ多島海島嶼ノ一部ヲ留保セシムルコトヲ条件トシテ平和ニ時局ヲ解決スル様土耳其ニ忠告スルコトニ協議一決シタレトモ三国協調側ハ前段ニ於テハ異議ナキモ島嶼ノ処分ニ関シテハ三国同盟側ト意見ヲ異ニシ居リ且下兩者ノ間ニ交渉中ナルカ結局何等カノ解決方法ヲ発見スルコトヲ得テ半島ニ於テ再ヒ開戦スルカ如キコト断シテ之レナカルヘシト云ヘリ蓋シ独逸ハ内心右ノ忠告ヲ土耳其ニ強制スルヲ欲セス土耳其政府ニ於テ若シ此ノ忠告ニ応セスシテ再ヒ開戦スルカ如キ場合ニ於テ列強ヲシテ依然其厳正中立ヲ守ラシメ其間ニ紛糾ヲ来タササルコトニ考慮ヲ廻ラシ居ルモノ、如シ使臣會議ニ於テハ愈々土耳其政府ニ対シ平和ニ時局ヲ解決センコトヲ勧告スル連合通牒ヲ送ルコトニ決シ一月十三日ノ會議ニ於テ其草案成リタルカ之ニ対シ独逸国政府ヨリ修正ノ申出テアリタルカ為メ多少ノ時日ヲ費ヤシ一月十七日ニ至リ遂ニ左ノ連合通牒ヲ土国政府ニ送致セリ

下名ノ埃洪国大不列顛国仏蘭西国露西亜国伊太利国諸大使ハ各其本国政府ノ訓令ニ依リ土耳其古国皇帝陛下ノ外務大臣閣下ニ対シ茲ニ左ノ通告ヲ為ス

アノープル」市ヲ巴爾幹同盟国ニ譲与シ多島海島嶼問題ノ解決ハ之ヲ列強ニ委ヌルコトニ同意セシムルヲ必要ト信ス

此ノ譲与ニ対シテハ右ノ諸国ハ「アドリアノープル」ニ於ケル「マホメッド」教徒ノ利益ヲ擁護シ及同市内ニ現存スル「マホメッド」教ノ寺院建造物及其他該宗ニ属スル財産ヲ尊重セシムルニカムヘク又多島海問題ニ関シテハ右ノ諸国ノ為スヘキ決定カ土耳其古ノ安全ニ秋毫ノ危険ヲ齎ラスカ如キコトナキコトニ努ムベシ

此ノ通牒ハ独逸ノ修正提議ノ結果原案ニ「列強ノ忠言ニ背クニ於テハ列強ノ好意ヲ失フニ至ルヘシ」トノ文意アリシヲ修正案ニハ「好意カ依然有効ナルヤ否ヤ疑ハル」トノ意味ニ改メ又原案ニ「土耳其ニシテ此ノ忠言ニ従ハスンハ列強ハ其尽力ヲ止ムヘシ」トノ文意ヲ確定案ニハ「此後ノ尽力ノ効果ヲ疑フ」ト改メタルモノナリト云フ独逸ハ今尚ホ土耳其ニ対シテ好意ヲ表シ其歡心ヲ失ハサルヲ專トシ然カモ其間ノ消息ハ既ニ土国政府ニ於テ之ヲ感知シ居タルカ如シ在埃土耳其大使ハ之ヨリ先キ「アドリアノープル」割譲問題ニ関シ土国政府ハ極力之ヲ争フ決心アリ列強ハ其割譲

右ノ諸国ハ戦闘ノ再開ヲ防カンコトヲ冀望スルカ故ニ土耳其古国政府カ諸国ノ忠言ニ背キ平和ヲ克復ヲ妨クル場合ニ於テ同政府ノ負フヘキ重大ナル責任ニ関シ其注意ヲ喚起スルヲ相当ト思考ス若シ夫レ戦争継続ノ為メ君府ノ運命ヲ危フスルニ至リ且戦闘区域ヲ土耳其古帝国亜細亜ニ及ホスニ至ルカ如キコトアラハ之カ結果ニ対シ土耳其古国ハ己レヲ責ムルノ外ナカルヘシ諸国カ既ニ屢々警告ヲ与ヘ今又之ヲ再ヒスルニ拘ラス事若シ茲ニ迫シテハ土耳其古ヲ拯ハントスル諸国ノ尽力必ス成功スヘキモノトハ信スヘカラス

土耳其古国ハ媾和条約締結後戦争ノ創痕ヲ治シ君府ニ於ケル其地歩ヲ強固ニシ並ニ広大ナル亜細亜領ヲ開發シテ之ヲ其将来ニ於ケル勢力ノ基礎トナサンカ為メニハ歐洲諸大国ヨリ有形無形ノ援助ヲ要スヘシ土耳其古国皇帝陛下ノ政府ニシテ右ノ諸国カ歐洲一般ノ利益及土耳其古国ノ利益ニ顧ミテ為シタル忠言ニ従フニアラズンバ同政府ハ此等須要ノ事業ヲ遂行スルニ当リ好意アル諸国ノ有効ナル補助ヲ期待スルコト能ハサルヘシ右ノ事情ニ依リ歐洲諸大国ハ共同シテ再ヒ土耳其古国ニ勧告シ同国ヲシテ「アドリ

ヲ欲スレトモ忠告以上ノ行動ニ出ツヘシトモ思ハレス又露仏埃諸国ハ多島海島嶼問題ニ関シテハ「アドリアノープル」問題ニ関スルヨリハ多少土耳其古ニ取リテ有利ナル考ヘヲ抱ケルカ如シト云ヘルニ徴スレハ其一端ヲ窺フニ足ルヘシ一部論者ノ間ニハ独逸ハ修正案ニ依リテ連合通牒發送シ時期ヲ遅延セシメ其間ニ於テ何等カ劃策ヲ試ミントスル底意ヲ有セリトノ説アリ記シテ以テ疑ヲ存ス

土国政府ニ於テハ右ノ通牒ニ接シ一月二十三日大会議（元老大臣會議ノ如キモノナラン）ヲ開キ首相初メ政府当局者ヨリ時局ニ付説明スル所アリ結局同會議ハ政府ノ見解ヲ是認シ諸大国ノ正義ノ觀念ニ信頼シ其援助ニヨリ大局ヲ処理スルコトヲ政府ニ一任スルコトニ決シ政府ハ直チニ其旨ヲ公表シ翌廿四日大臣會議ニ於テ連合通牒ニ対スル土国ノ回答案ヲ議スルコト、ナリタルカ統一進歩党ニ属スル政治家ハ歐洲列強ノ勧告ニ聴イテ「アドリアノープル」市ヲ棄テントスルハ国家ノ名誉ヲ毀傷スルモノナリトシ戦闘再開ヲ希望スル軍人等ト結托シ当日急ニ起ツテ政府ニ迫マリ陸軍大臣「ナジム、パシャ」ヲ殺シ首相「キャミル、パシャ」ヲ脅カシテ総辭職ヲナサシメ皇帝ノ旨ヲ請フテ「マームー

ド、シエフケット、パシヤ」ヲ首相トスル新内閣ヲ組織セリ

此ノ急突ナル政変ノ為メ連合通牒ニ対スル土国ノ回答ハ發送セラル、ニ至ラス且ツ新内閣ノ態度ハ前内閣ト全然其趣ヲ異ニスル傾キアリシカ故ニ一般極メテ不安ノ念ヲ生セリ右ニ関シ一月二十五日独逸外務次官ハ今回青年土耳其党ノ組織シタル政府ニ於ケル各大臣ハ孰レモ有力ナル人物ニシテ此点ニ付テハ間然スルトコロナキモ列強連合通牒ニ対シ前政府ノ起案セルカ如キ平和維持ニ満足ナル回答ヲ与フルコトハ頗ル疑問ニ属シ「アドリアノーブル」譲与ノ件ハ断然拒絶スルニ至ラン但媾和談判ハ之ヲ継続スヘキ余地アレハ列国政府ハ依然平和維持ニ尽力シ再戦ノ場合ト雖モ其厳正中立ニ何等変化ヲ生スルコトナカルヘキモ露国ハ頃日来頻リニ土耳其古ヲ压迫スル態度ヲ取ルニ顧ミルトキハ今後再戦ノ場合ニ於テ同国ハ果シテ厳正中立ヲ守ルヤ否ヤ甚タ懸念スヘキ点アルニ付キ独逸国政府ハ之レカ為メ紛糾ヲ生シ平和ノ維持ヲ危フスルカ如キコトナカラシメンカ為メ目下交渉中ナリト云ヘリ其所謂露国ノ強圧態度トハ露国ハ土耳其古ノ疲弊ニ乗シ多年垂涎セル「アルメニア」ノ占領ニ関シ

最近密カニ独逸ト内談ヲ試ミタルニ独逸ハ列国協調ヲ破フル恐レアルヲ理由トシテ之ヲ拒ミタリトノ説アリ又「アルバニア」国境問題ニ付露国ハ塞国ノ希望ト一致スヘキ新国境案ヲ以テ塞国ト交渉ヲ試ミ其拒絶スル所トナレリトノ説アリ独逸諸国ニ於テハ露国如上ノ行動ハ列強協調ヲ脱セントスル態度ナリト認メ頗ル危惧シ居ルガ如クナレハ外務次官ノ所言ハ這辺ノ消息ヲ洩ラスモノノ如シ

リ

四国同盟側ハ於テハ土国政府交渉シテ媾和ノ進捗ニ頓挫ヲ来タシタルヲ以テ一月二十九日倫動ニ於ケル其委員ヲシテ土国委員ニ対シ左ノ通り媾和談判断絶ノ通告ヲナサシメタリ

媾和談判中止以来既ニ三週間以上ヲ経ルモ同盟国ハ未タ其最後ノ要求ニ対スル土耳其古ノ回答ニ接スルニ至ラス又君府ニ於テ起リタル事件ハ平和締結ノ望ヲ失ハシムルモノト思考スルニ依リ去ル十二月十六日倫動ニ於テ開始セラレタル談判ハ茲ニ破棄セラル、ニ至リタルモノナルコトヲ宣言スルヲ遺憾トス

右ノ通告ハ同盟国側ノ解スル所ニヨレハ必スシモ戦争ノ再開ヲ意味スルモノニアラスシテ之ヲ以テ土国新政府ニ反省

コト

ヲ提議シ同時ニ六国連合通牒中戦争ノ創痕ヲ治シ土耳其帝國ノ富源ヲ開発センカ為メ六国ニ於テ有形無形ノ援助ヲ与フヘシトノ言アルヲ楯トシ列強ニ対シ

一、関稅改正ノ自由

二、現代法制ノ主義ニ基ク通商条約ノ締結

三、租稅法ノ適用ニ関シ内外臣民均等待遇ノ承認

四、土耳其国内ニ設置セル外国郵便局ノ廃止

五、領事裁判制度ノ廃止

ヲ求メタリ斯ノ如ク土国新政府ハ一般ニ予期セラレタルカ如キ強固ノ態度ニ出テスシテ寧ロ新ニ多少ノ譲歩ヲ申出テタルハ諸国ノ頗ル意外トセシ所ナルカ如シ

先是羅馬尼国政府ハ其代表者ヲ倫動ニ派遣シ同国カ局外中立ノ態度ヲ保チタルニ因リテ受クヘキ報酬ニ関シ勅国委員ト交渉スル所アリ勅国委員ハ黑海海岸ニ於ケル羅勅兩國現今ノ境界点ノ南約五十基米ノ海岸ノ一点ヨリ「シリストリア」市ニ至ル一直線以北ノ土地ヲ羅馬尼ニ割讓シ「シリストリア」市ハ之ヲ割讓セサレトモ勅牙利ニ於テ羅馬尼領「ドブルジャ」ヲ併吞スルノ異國ナキコトヲ保障スル為メ

ヲ促カシ列強ノ勸告ニ対シ交譲ノ態度ヲ以テ速カニ其回答ヲナサシメント企図シタルモノ、如キモ土国新政府ニ於テ之ヲ顧慮スル模様ナシト見テ翌卅日ニ至リ遂ニ休戰条約ノ廢棄ヲ宣言セリ而シテ休戰規約ノ廢棄ハ該規約ノ規定ニ依リ通告後四日ヲ経タル後効力ヲ生スルモノニシテ二月三日午後七時ニ至リ初メテ戦闘ヲ開始スルコトヲ得ルモノナリト云フ

然ルニ右ノ通告ト殆ント同時ニ土耳其国政府ハ列強ノ連合通牒ニ対シテ回答ヲナシ

一、「アドリアノーブル」ニ関シテハ同市内「マリツザ」

河左岸ノ部分ハ「マホメッド」教ノ寺院其他歴史上宗教上ノ遺跡アルヲ以テ之ヲ割讓スルコト能ハサレトモ右岸ノ部分ハ割讓スルコト（勅牙利カ多島海トノ連絡上最モ垂涎スト称セラル、鉄道ハ同河ノ左岸ニアリ）

二、多島海島嶼中ニハ「ダーダネルス」ニ近接シテ君府ノ防備ニ欠ク可ラサルモノアリ又亜細亞領ノ要部ニ当リ小亜細亞ノ安全ニ必要ナルモノアルヲ以テ六国政府ニ於テ此等ノ点ニ考量ヲ加フル限り巴爾幹同盟国ノ占領スル諸島ノ処分ニ付テハ六大強固ノ決定ニ従フヘキ

「シリストリア」附近及兩國々境地方一部ノ城砦ヲ撤スルコトニ異議ナク且ツ将来「マセドニア」地方ニ於テ Kuno Vlasts 人ニ自治制ヲ認容スヘキコトヲ以テ答ヘタルニ羅馬國ハ之ニ満足セス一月末ニ至リ「シリストリア」ノ西約三十哩ニ在ル「チュトラカン」ヨリ「バルチーク」ノ南ニ在ル黒海岸ノ一点ニ至ル直線以北「シリストリア」市及黒海沿岸ノ「カバルナ」及「バルチーク」ノ二港ハ此ノ区域中ニ在リノ割譲ヲ要求シ兩國間ノ交渉ハ容易ニ解決スルコト能ハス羅馬ニ於テハ之ヲ以テ同國ノ威信ニ関スル大問題ナリトシ輿論頗ル高調ヲ呈シ如何ナル事態ヲ顯出スルヤ測ル可ラサルモノアリ同國々王ハ甚シク之ヲ憂憤シ此上時日ヲ遷延セシムルヲ不可ナリトシテ速カニ之ヲ解決セントスル強固ナル決意ヲ表シ形勢甚タ危急ニ瀕セシカ故ニ埃國政府ハ不穩ノ行動ヲ為サ、ル様羅國ニ忠告ヲ与ヘタルカ其効果ノ如何ハ頗ル疑ハシトノ報アリ

交戦國間ニ於テハ二月三日愈々戦闘ヲ再始シ四國連合軍ハ同日夜「アドリアノーブル」ノ攻撃ヲ始メ「スクタリー」其他ノ方面ニ於テモ又開戦ノ報アレトモ兩軍ノ行動ハ当初ノ如ク敏活ナラス何レモ小戦ニ止マリ今日迄ノ処未タ録ス

土耳其ニ対シ休戦規約ノ廃棄ヲ通告シ半島ノ天地再ヒ砲火ノ巷ト化スルニ至レリ然リト雖両交戦國共ニ内ハ漸ク國費ノ窮乏ヲ告ケ外ハ外征ノ士日ニ益々困憊ノ色アリ又列強モ此ノ擾乱カ當ニ歐洲一般財界ノ平調ヲ紊ルノミナラス一旦其ノ軌ヲ愆マラハ惹イテ列強間ノ紛乱ヲ醸ス虞ナシトセサルコトヲ憂慮スルカ故ニ平和ノ締結ニ付テハ頗ル心ヲ用ユル処アリタリ

就中最モ苦境ニアルハ土耳其ナリ内政ノ紊乱ハ既ニ其ノ極ニ達シ土氣又日ニ頽墮シ為ニ「スクタリー」、「アドリアノーブル」其ノ他「マセドニア」ノ一部分ニ点在セル軍隊ハ連絡ナク冀望ナク只僅ニ淹々タル氣息ノ中ニ反抗ノ虚勢ヲ示スノミニシテ平和締結一日遅ルレハ一日ノ窮境ヲ増スノ状態ニ在リ故ニ遂ニ意ヲ決シ三月初旬露仏墺ノ三国ヲ通シテ列強ノ調停ヲ求ムル処アリ列強モ亦四圍ノ形勢ニ鑑ミ其ノ求ヲ容レ媾和条件ニツキ巴爾幹同盟諸國ノ内意ヲ推問セシニ同盟諸國ハ三月十四日左ノ条件ヲ提出シテ列強ノ知照ニ回答セリ

一、土國ニ存留スヘキ「ガリポリ」半島ヲ除キテ「ロドスト」ヨリ「カプマトラ」ニ至ル線ヲ商議ノ基礎トナ

ルニ足ルヘキ戦報ニ接セス

然ルニ既ニ述ヘタルカ如ク最近ニ至リ埃露ノ關係著シク乖離ノ傾向ヲ呈シ為メニ列強協調ノ円滑ヲ欠ク恐れアリシヲ以テ埃國老帝ハ深ク之ヲ憂ヒ此際兩國間ノ意思ヲ疏通セシメ以テ危機ヲ未發ニ防カントノ念慮ニ依リ二月二日親書ヲ齎ラシテ「ホーヘンローヘ」太公ヲ露都ニ遣ハセリ同太公ハ数日ノ間露都ニ在リテ皇室其他重ナル向ト交歓ヲ尽クセリ二月十四日ノ報ニ依レハ其ノ結果トシテ兩皇室間ノ關係大ニ改善セラレタルノミナラズ兩國間政治上ノ間隔最早存在セスト云フレトモ他面ノ報告ニ依レハ現下埃露間ノ争点ハ主トシテ「アルバニア」國境問題就中「スクタリー」ヲ孟の涅具路ニ附スルカ若シクハ「アルバニア」ニ属セシムヘキカノ問題ニ存シ埃露兩國ハ各々其主張ヲ異ニシ露國ノ態度ハ益々頑強トナリ兩國ノ關係ハ寧ロ御親書交換前ヨリモ險惡ナルモノアルハ現ニ埃國ニ於テ毫モ其兵備ヲ緩ムル模様ナキヲ見テ知ルニ足ルヘシト云フ

(五)

(一九一三年二月乃至同年五月)

千九百二十二年末以降翌年二月ニ亘リ倫敦ニ於テ開カレタル巴爾幹媾和會議遂ニ不調ニ帰シ二月三日巴爾幹同盟諸國ハ

シ其西北地方ハ「アドリアノーブル」及「スクタリー」ヲ含ミテ土國ヨリ同盟諸國ニ割譲スルコト

二、「エージアン」諸島ヲ割譲スルコト

三、「クリート」島ヲ拋棄スルコト

四、土國ハ媾和条約締結ノ際其ノ額ヲ確定スヘキ償金ノ支払及戦争前ニ發生シタル損害ニ対スル特別賠償金ノ支払ニ主義上賛成シ同盟國ハ其ノ土耳其在留臣民ノ待遇及商取引並ニ民族問題及希臘教寺院ノ特權並ニ土國臣民ニシテ希臘教徒タルモノノ國法上ノ地位ニ関スル保障ヲ媾和条件中ニ規定スルコトヲ留保ス

五、平和協商中ト雖戦争行為ハ之ヲ繼續スルコト右ハ曩ニ土耳其ノ提出シタル条件ト其ノ間ニ頗ル軒輊アルヲ以テ列強ハ更ニ大使會議ヲ開キ巴爾幹同盟諸國ニ交渉スヘキ提案ヲ協議シ三月十九日遂ニ其ノ決定ヲ了ヘ二十二日之ヲ右同盟諸國ニ提示シ三十日之ヲ土耳其ニ通告セリ其要領次ノ如シ

一、土耳其ノ國境ハ「エノス」市ヨリ「マリツツア」河及「エルケネ」河ニ沿ヒテ黒海沿岸「ミヂア」港ニ至ルモノトシ其ノ以西ノ土地ハ「アルバニア」ヲ除キ全

部同盟諸国ニ割譲スルコト

二、「エーリアン」諸島ノ問題ハ列強ニ於テ之ヲ決定スルコト

三、土耳其ハ「クリート」島ニ関スル権利ノ全部ヲ抛棄スルコト

四、列強ハ償金ニ関スル同盟諸国ノ要求ヲ承認セス只列強ハ同盟国カ土耳其国債及新領土ニ関スル財政上ノ分担額ヲ決定スル為メ巴里ニ於ケル国際委員会ノ協議ニ参加スルコトニ同意ス、土耳其モ亦右委員会ニ参加スヘシ

尚右通告ト同時ニ列強ハ同盟国カ上記条件ヲ承諾スルト同時ニ戦争行為ヲ休止セシコトヲ要求セリ

之ニ対シ勃国ハ大体ニ於テ列強提案ノ趣旨ニ同意ヲ表シ只「アルバニア」ノ国境ヲ予メ確知シタキ旨及償金ヲ主義トシテ認メラレタキ旨ヲ回答セシカ列強ハ「アルバニア」ノ割境ノ通告ニハ同意セシモ償金ヲ主義トシテ認ムヘキ何等ノ理由ナキ事ヲ主張セリ

一方ニ於テ事件ノ進捗斯クノ如キ有様ナルニ依リ他方ニ於テハ列強ハ倫動ニ於テ屢々使臣會議ヲ開キ「アルバニア」

題ニ付テハ甚タ面倒ナル經過ヲ見ルニ至レリ元来「スクタリ」ハ同地方ノ要衝ニシテ黒国カ今次ノ戦争ニ参加シタルハ主トシテ此都市ノ領有ヲ目的トシタルモノナリ又埃太利ハ叙上ノ如ク巴爾幹ニ於ケル自国ノ發展上大「アルバニア」ノ創設ヲ希望シ而シテ「スクタリ」無キ「アルバニア」ハ何等ノ意味ヲ為ササルモノナレハ其ノ所属ニ関シテハ国論頗ル固ク「アルバニア」ノ割境ニ関スル使臣會議ニ於テモ極力之ヲ主張シ遂ニ露国ノ異論ヲ排シテ有利ナル決定ヲ見ルニ至リシナリ從ツテ此ノ間両国ノ不和ヲ見ルハ又已ムヲ得サル勢ナリトス

既ニ使臣會議ノ一致ヲ見タル以上、列強ハ直ニ黒塞聯合軍ノ「スクタリ」攻撃ヲ中止セシメント欲シ聯合艦隊ノ威力ヲ利用シ平時封鎖等ノ強硬手段ニヨツテ其ノ協定ノ貫徹ニ努メシカ黒山国ハ此ノ圧迫ヲ顧ミス盛シニ該市ヲ砲撃シ四月二十二日遂ニ之ヲ陥レタリ蓋シ既成事実(fait accompli)ハ当今外交上ノ駆引ニ有力ナル論拠ヲ為スモノナルニ依リ其ノ実力領有ニ藉口シテ此ノ都市ノ所屬ヲ争ハントスル意向ナリシモノノ如シ然レトモ此ノ場合ニ於テモ列強ハ「スクタリ」陥落前ノ協定ヲ維持シテ渝ラス共同覚書ヲ黒国ニ

ノ処分ニ就テ協議スル処アリ此ノ問題ハ歐洲列強ノ間殊ニ埃露ノ間ニ速ニ解決セラレサルヘカラサルモノトシテ二月中旬以来歐洲外交界ノ注目ヲ惹ケリ

露国ハ全スラヴ主義ノ理想ヲ趁フテ同盟国領ノ増大ヲ欲シ、埃太利ハ巴爾幹ニ於ケル「スラヴ」族ニ対スル牽制上大「アルバニア」説ヲ持シ茲ニ二帝國ノ利害一ナラサル結果使臣會議ニ於ケル「アルバニア」国境劃定問題ハ頗ル行悩ノ姿ナリシカ遂ニ「デヤコヴァ」、「イペック」、「プリズレンド」、「ジブラ」等ニ就キテハ埃ハ露ノ希望ヲ容レテ之ヲ塞比亞又ハ希臘ニ譲リ「スクタリ」ノ所属ニ関シテハ露ハ埃ノ頑強ナル主張ニ制セラレ之ヲ黒国ニ属セシムルコト能ハスシテ「スクタリ」ハ遂ニ「アルバニア」ニ属スルコトト決定セリ而シテ埃露ノ間ハ之ニヨツテ僅ニ協定ヲ見ルニ至リシモ為メニ新タニ埃黒ノ間ニ頗ル危殆ナル關係ヲ生スルニ至レリ

当時埃太利ト黒国トノ間ニハ此ノ外ニ尚「カトリック」僧侶ノ殺害及強制改宗ニ関スル「ジャコヴァ」事件及洪牙利国商船「スコダ」号船員ニ対スル強迫事件ノ突発スルアリ紛争相次テ風雲漸ク穩カナラス就中「スクタリ」ノ所属間

送リテ同市占領ノ撤廃ヲ勧告セントシ殊ニ埃太利ニ於テハ黒国ノ頑強ナルニ対シ激昂甚シク黒国ノ「スクタリ」抛棄ヲ実現セシムル為メ列強カ強硬ナル共同行為ニ出テンコトヲ提議シ若シ使臣會議ニ於テ對黒策ニ付キ埃國ノ満足セシムルニ足ル可キ決定ヲ見サルニ於テハ埃國ハ進シテ単独行動ニ出ツヘキ形勢ヲ示シ之カ為メ使臣會議モ数回開カレタルカ遂ニ何等ノ決定ヲ見ルニ至ラザリシカ結局五月四日黒国ハ主トシテ三国協商側ノ切ナル勧告ニ鑑ミ遂ニ列強ノ協定ニ服シ「スクタリ」ノ将来ヲ列強ノ処分ニ一任スルニ至リタルヲ以テ此ノ問題ハ辛ウシテ茲ニ一段落ヲ告ケ「スクタリ」ハ列強聯合艦隊ノ陸戦隊ニ引渡サルルコトナレリ斯クシテ「スクタリ」問題ノ解決ヲ告ケタル以上巴爾幹ノ平和ヲ阻害スヘキ難關ハ一ト先ツ茲ニ經過シタルヲ以テ列強ハ近東平和ノ一日モ速カナランコトヲ欲シ五月十五日大使會議ニ於テ媾和予備条約ヲ決定シ交戰諸国ノ調印ヲ促シタリ之ニ対シ土耳其及勃牙利ハ直ニ同意ヲ表セシカ他ノ交戰諸国ハ「アルバニア」ノ国境及「エーリアン」諸島ノ所屬ヲ絶対ニ列強ノ処分ニ委スルヲ欲セス、調印ニ対シ遲疑ノ色アリ、然レトモ勃牙利ハ「マセドニア」ノ分割ニ関シ

塞爾比亞トノ間ニ紛争ヲ来スヘキ虞アルヲ予期シ一日モ速カニ和約締結ニ至ランカ為メ若シ他ノ同盟国ニ於テ尚調印ヲ延引スルニ於テハ自ラ進シテ单独調印ニ出テントスル態度ヲ示シタリシカハ遂ニ五月三十日土耳其ト「バルカン」同盟諸国トノ間ニ媾和条約ハ其ノ調印ヲ見ルニ至レリ其条約ノ要点次ノ如シ

- 一、土帝ハ「エノス」ヨリ「ミディア」ニ至ル線以西一切ノ領土（「アルバニア」ヲ除ク）ヲ同盟諸国ニ割譲ス
 - 二、土耳其及同盟諸国君主ハ「アルバニア」ノ境界及「アルバニア」ニ関スル一切ノ問題解決ノ任ハ之ヲ独、埃、仏、英、伊、露ノ元首ニ委託ス
 - 三、土耳其ハ「クリート」島ヲ抛棄ス
 - 四、「エーリアン」諸島並ニ「アズス」半島ノ処分決定ノ任モ亦之ヲ上記列強元首ニ委託ス
 - 五、今次ノ戦争及領土割譲ヨリ生スル財務問題決定ノ任ハ之ヲ巴里ニ開催セラルヘキ財務委員会ニ委託ス
- 右媾和条約ニ依リ歐洲土耳其ハ僅ニ君府ヲ中心トシタル尖角地及自治ノ一州「アルバニア」ヲ歐洲ニ留メ約五世紀ニ

前締結ノ条約ヲ其儘適用スルニ於テハ勃牙利ハ過大ノ勢力トナリ巴爾幹ノ均勢破ルハハ明ナルヲ以テ茲ニ至リテ塞爾比亞ハ土地分割ニ関スル戦前秘密協定ノ条約変更ヲ求メ且又、希臘ニ於テモ戦争前国境ニ関シ充分ナル協定ナキニ乗シ塞爾比亞ト結託シテ勃牙利ニ対シ大胆ナル要求ヲ為スニ至レリ而シテ此等ノ点ニ付キ当事国ノ双方ノ意見ニ甚シキ懸隔アリ勢ノ推移ニ委ス時ハ再ヒ半島ノ擾乱ハ到底免ル可カラサルノ状況ヲ呈セリ茲ニ於テ乎露帝ハ六月八日勃塞兩國君主ニ親電ヲ発シ此際親ヲ仲裁ノ任ニ当ルヘク若シ兄弟相關グノ戦争ヲ開始シタル国ハ「スラヴ」民族主義ノ事実ニ対シ責任ヲ負フヘク露国ハ戦争ノ結果ニ対シ行動ノ自由ヲ留保スヘシト威嚇シ一方ニ於テ列強モ亦危機ノ切迫ヲ防止スル為メ一部撤兵ヲ勧告シタルニ因リ当事国雙方モ直接協議不調ノ場合ニ於テハ該爭議ヲ叙上ノ秘密同盟条約ヲ基礎トスル露国ノ仲裁々判ニ委スルニ決シタリ、然レトモ勃牙利ノ輿論ハ政府ノ斯ル交譲ノ態度ニ慍焉タラザルモノ、如ク批難攻撃頗ル猛烈ナリシカバ六月中旬遂ニ内閣ノ更迭ヲ見ルニ至リ又塞爾比亞政府モ此仲裁々判ニ関シ同盟議會トノ折衝頗ル困難ナリシカ為メ其態度ヲ明ニスル能ハス

亘リテ巴爾幹半島ニ蟠居シ常ニ歐大陸ノ禍機ヲ包蔵セシ老帝国ハ今ヤ全ク瀕死ノ域ニ呻吟セリ、斯クシテ土耳其及同盟諸国トノ媾和条約ハ辛ウシテ茲ニ其ノ調印ヲ了シタルモ「アルバニア」ノ組織ニ関シテハ尚幾多ノ紛議ヲ免レサルヘク且割譲地「マセドニア」ノ分割ニ関シ勃牙利ト塞爾比亞及希臘ノ間ニ複雑ナル葛藤ヲ生スルニ至レリ

(六)

(自一九一三年五月三十日頃至同年九月下旬土勃条約締結)

一千九百十三年五月三十日、倫敦ニ於ケル媾和条約ニ依リ土耳其ト巴爾幹同盟諸国トノ間、辛ウシテ和平ノ局ヲ結ビシト雖、半島ノ暗雲ハシカク簡單ニ消散スヘクモアラス即チ「マセドニア」分割ニ関シ勃牙利ト塞爾比亞、希臘トノ間既ニ葛藤ノ端ヲ生シ、羅馬尼ノ南下ニヨリ時局更ニ紛糾ヲ加ヘ、土耳其ノ亞府回復運動ハ層一層事態ヲ難澁ナラシムルニ至レリ元來「マセドニア」ノ分割ニ関シテハ巴爾幹同盟国対土耳其古戦争開始ノ前ニ當リ予メ勃塞間ノ秘密同盟条約ニヨリ既ニ協定スル処アリシカ該条約ニヨリ勃牙利領タルヘキ地方ハ媾和条約締結當時ニ於テ多ク塞爾比亞ノ占領下ニアリ、而シテ今次戦争ノ予想外ナル好結果ニヨリ「アドリアノーブル」ノ要地サヘ勃牙利ニ帰シ為メニ前記戦争

クシテ往再何等ノ決定ヲ見サルニ當リ塞爾比亞ハ既ニ希臘ト同盟シ「マセドニア」ニ対峙セル勃軍ト塞、希臘合軍トハ六月二十九日遂ニ衝突ヲ始メ爾來戰鬪ハ逐日継続セラレ事態紛糾シテ匡救ノ策ナキニ至ラントセリ加之、羅馬尼ハ勃牙利、塞爾比亞ノ葛藤ヲ見テ奇貨居クヘシトナシ背後ヨリ勃牙利ヲ脅カシテ更ニ新ナル利益ヲ得ント欲シ六月十日列強駐劄同国公使ヲシテ列強ニ通牒ヲ致サシメ同国ハ直接ノ利益保護ノ為メ巴爾幹諸国間ノ衝突ニ就テハ傍觀ノ態度ヲ持スル能ハサル旨ヲ宣言シタリ而シテ七月各紛争国ハ相前後シテ国交ヲ断絶シ半島ハ三度戰雲ノ蔽フ所トナレリ而シテ列強ハ此際時局ノ究極スル所ニ任スヘク寧ロ傍觀ノ態度ヲトラントシ同月七日仏国ハ非干涉ノ義務ヲ守ルヘキコトヲ提議シタリ蓋シ先ニ土耳其対巴爾幹同盟諸国戦争ノ際列強力之ニ干涉ヲ加ヘタルハ主トシテ埃太利ノ单独行動ヲ防止スル為メナリシヲ以テ今ヤ埃太利カ寧ロ巴爾幹ノ内紛ヲ喜フニ當リ列強協調其モノノ為メ取急キ干涉ヲ加フルノ要ヲ見サルモノナリ然レトモ埃太利ハ此ノ仏國ノ提議ニ対シ、主義ニ於テハ同意ナルモ巴爾幹ニ於ケル同国ノ特殊ナル利害關係ニ鑑ミ將來ニ於ケル行動ノ自由ヲ留保スヘキ趣

意ヲ回答セリ

其後、勃牙利ハ「マセドニア」ニ於ケル形勢漸ク非ニシテ然モ背後ヨリスル羅馬尼ノ圧迫益々急ナルヲ見七月九日塞希兩國トノ間ニ休戦規約ヲ締結スルコトニ関シ幹旋ノ勞ヲトランコトヲ露国ニ依頼シタリ而シテ露国モ亦或条件ノ下ニ右依頼ヲ承諾シ先ツ塞希兩國ノ意向ヲ問合セタルニ、兩國ハ休戦規約ノ締結ニヨリ媾和ノ交渉ヲ為スハ却ツテ平和克復ヲ遅延セシムル所以ナリトシ直ニ平和条約ヲ締結スヘキコトヲ主張シ且其交渉ニ就テハ勃牙利国自ラ直接ニ其衝ニ当ルコトヲ要スル旨ヲ回答セリ

茲ニ於テ勃牙利ハ媾和談判ノ為メ全權委員ヲ「ニーシェ」ニ派遣シ七月十七日羅馬尼ニ対シテモ亦和議ヲ申込メリ其後交戦諸国ハ総テ休戦、平和条約ニ関スル談判ヲ羅馬尼ノ首都「ブカレスト」ニ開クコトトシ七月三十日該談判ハ開始セラレ先ツ翌日正午以降五日間ノ休戦ヲ約シ八月一日塞希同盟兩國ハ勃牙利ニ対シ左記ノ媾和条件ヲ提出セリ

一、旧土勃国境ヨリ「ストルマ」河ニ沿ヒテ「デミルヒツサル」ノ北ヨリ突進シ「マクリ」ノ東三基米突ニ至ル線ヲ雙方間ノ新国境線ト為スコト

シタリ

八月三日勃牙利、羅馬尼間ノ問題ハ大体羅馬尼ノ要求通り決定シタルモ勃牙利ト塞爾比亞、希臘トノ間ニ於テハ「カヴァラ」港ノ所属ニ関シ談判頗ル行悩ミノ姿トナリタリ而シテ此際埃洪国ハ八月三日、露国ハ同六日、各々「ブカレスト」条約ノ改訂ヲ要求スル權利ヲ留保スル旨ヲ媾和會議々長ニ通告シタルカ勃牙利ハ暗々裡ニ此等ノ後援アルニ拘ラス遂ニ「カヴァラ」領有ノ希望ヲ抛棄シ新国境ハ「ストウルマ」「ブレガルニッツァ」両河ノ分水界ヨリ「ドイラン」ノ南方ヲ経テ「メツツァ」河ニ終リ「ストウルミツツァ」ハ勃牙利ニ、「カヴァラ」ハ希臘ニ帰属スルコトニ決シ最モ困難ナリシ国境問題ハ此処ニ一応ノ解決ヲ告グルニ至リ引続キ連日他ノ諸問題ニ関シ會議ヲ開キ遂ニ八月十日關係各國間ニ諸条約ノ調印ヲ了ヘタリ「ブカレスト」条約ノ要点次ノ如シ

一、羅馬尼、勃牙利国境ハ「ドナウ」沿岸「チュルタ」河上流ノ地ヨリ黒海沿岸「エクレンク」ノ南方ニ到ルコト

二、勃塞間ノ新国境ハ「パラトリカ」山ニ発シ旧土勃国一六「バルカン」紛争一件 四六六

二、勃牙利ハ「エーリアン」諸島ニ対スル權利ヲ抛棄スルコト

三、被害民ニ賠償金ヲ支払フコト

四、塞爾比亞、勃牙利間ニ存スル從來ノ国境問題ヲ決定スルコト

五、新領土ニ於ケル希臘人ノ学校教会ニ関スル自由ヲ保障スルコト

勃牙利ハ右提案ニ対スル対案トシテ左記ノ提言ヲ為セリ

一、新国境ハ勃塞ノ現国境ヨリ西南ニ進ミ「ムリチヨボ」ヨリ「ドイラン」「セレス」ノ南ヲ経テ「オルフェ」ニ終ルコト

二、塞爾比亞トノ国境問題ハ列強ノ選定スル国際委員会ノ決定ニ委スルコト

三、交戦国ハ何レモ相互主義ニ基キ其領土ニ於ケル各国民ニ対シ学校教会ニ関スル自由ヲ許容スヘキコト

四、「エーリアン」諸島及賠償金ニ関スル要求ヲ拒絶スルコト

羅馬尼モ亦此際相当ノ領土ヲ要求シ尚新国境ニ防禦工事ヲ施サバルコト其他勃牙利領内ノ羅馬尼人ノ特權保護ヲ要求

境及「ヴァルダル」河「ストルマ」河間ノ分水界ニ沿ヒ「ベラシカ」山脉ニ於テ、塞、希ノ新国境ニ合スル線ニヨリ之ヲ劃スルコト

三、塞、勃間ノ旧国境問題ハ兩國間ニ成立シタル取極ニ從ヒテ之ヲ処理スルコト

四、勃、希国ノ国境ハ勃牙利、塞爾比亞新国境ニ發シ「ベラシカ」山脉ノ山頂ニ沿ヒテ「メツツァ」河口ニ終ル線ニヨリ之ヲ劃スルコト又勃牙利ハ「クリート」島ニ對スル各要求ヲ抛棄スルコト

五、以上領土ニ関スル諸規定ノ外、撤兵期ニ関スル規定、俘虜交換並ニ条約ノ批准及批准書交換ニ関スル規定ヲ含ム

叙上ノ条約ニヨリ巴爾幹諸国新領土ノ拡張ハ左ノ如シ

羅馬尼	七、二九七方基
勃牙利	三七、六五五
希臘	四五、三五〇
塞爾比亞	四一、六九七
黑 国	七、〇〇〇

之ヨリ先キ埃露兩國ハ此条約ノ内容ヲ知ルト同時ニ叙上ノ

如ク「ブカレスト」条約訂正ヲ要求スル權利ヲ留保スル旨ノ通告ヲ為セシカ塙國ノ意ノ存スル処ハ今後塞爾比亞ノ勢力急激ニ膨脹スルニ於テハ自國ニトリ直接ノ危険アルニ付キ此際勃牙利ヲ援護シテ以テ塞爾比亞ニ對抗セシメント欲シタルモノ、如ク為ニ「カヴァラ」港ノ所属ニ関シテハ之ヲ勃牙利領タラシムヘント主張セリ

露國ハ初メ羅馬尼カ勃牙利ヲ威迫スルヲ默認セシモ事ノ推移ニ委セハ勃牙利ハ漸ク塙國ニ接近スル傾向アルヲ看取シ寧ロ今ニ於テ勃牙利ヲ援助スルコト他日ノ得策ナルヲ思ヒ之亦「カヴァラ」港ヲ勃牙利ニ帰セシメントセリ、然レトモ塙國ノ最モ頼ミトセル独逸ハ此条約締結ニ関シ暗々裡ニ援助セシモノ、如ク調印終了ト同時ニ羅馬尼王ハ独帝ニ對シ懇懇ナル謝電ヲ發セラレ独帝モ亦直ニ祝電ヲ送ラレタルニ依リ之ヲ知ルベシ

独逸ノ態度右ノ如クナルニ加ヘテ仏國モ亦此際列強ノ之ニ干渉スルハ頗ル不必要且危険ナリトシテ之ニ反對シ英國モ独仏ト同様ノ態度ヲトリ「カヴァラ」港ノ所属ニ関シ塙、露ト意見ヲ異ニスルモノ、如ク八月十二日下院ニ於ケル同國外務大臣ノ演説ニ於テ「ブカレスト」条約カ列強ニ其マ

ノ記載ヲ見サリシハ列強カ一時ノ便宜上勃牙利ノ意ヲ迎ヘタルニ依ルノミ若シ此ノ前述ノ目的ニヨル土耳其軍ノ占領行為ニ對シテ勃牙利カ敵對スル如キコトアラバ之レ勃牙利ノ罪ナリ』ト

七月二十四日羅馬尼王ハ「スルタン」ニ對シ歐洲カ明確ニ決定シタル地方ニ於テ不法ノ軍事行動ヲ為スニ於テハ結局土耳其ノ不利益ニ終ルヘキコトヲ通告シ八月七日列強モ亦土耳其ノ通牒ヲ發シテ倫敦條約ノ主意殊ニ國境ニ関スル規定ヲ尊重スヘキ旨警告スル処アリタリ

然ルニ土耳其ハ之ニ對シ回答シテ右國境線外ニ「モハメツト」教徒ノ殲滅セラル、ヲ防キ且首府及海峡ノ安全ヲ保障スルニ必要ナル旨ヲ以テシ遂ニハ八月十六日以来「マリツァ」河以西ニ進軍スルニ至レリ

勃牙利ハ實力ヲ以テ之ニ抵抗スルノ意氣ナク倫敦條約ノ維持ヲ以テ列強ノ任ナリトシ境界問題ヲ擧ケテ其決定ニ委セントセシモ露國カ勃牙利ヲ援ケテ土耳其ニ對シ「アルメニア」ノ占領又ハ財政上ノボイコットヲ主張セシ外、進ンテ倫敦條約維持ニ関スル從來ノ決意ヲ貫徹セントスルモノナク寧ロ土耳其ノ亞府占領ヲ既成ノ事実トシテ認容スルノ傾

、容認セラレンコトヲ希望スル旨ヲ明言セリ

列強ノ形勢上記ノ如クナルヲ以テ塙露兩國單リ強硬ナル抗議ヲ提出スルコトハ勢ノ容ルサマル所ト為リ其結果「ブカレスト」条約ハ遂ニ何等ノ訂正ヲ見スシテ巴爾幹諸國間平和恢復ノ基礎ヲ為スニ至レリ

巴爾幹同盟諸國間ノ内紛ハ叙上ノ經過ニ依リ漸ク解決セララルニ至リシカ一方土耳其側ヲ顧ルニ青年土耳其黨ノ對外硬的政策ニヨリ導カルル土耳其政府ハ上記勃牙利ノ難境ヲ見テ此際亞府回復ヲ實現セント欲シ七月初旬既ニ其ノ勢ヲ示セルヲ以テ勃牙利ハ特ニ使節ヲ派遣シ交渉スル処アリシカ不調ニ歸シタリ而シテ七月十二、三日頃土耳其ハ遂ニ軍事行動ヲ開始シ同十五日ニハ「エノス」、「ミジア」線ヲ超エ同二十三日ニハ「アドリアノープル」ヲ占領セリ右ニ関シ七月十九日附ヲ以テ土耳其ノ列強ニ致シタル通牒ニヨリ其ノ言フ処ヲ見ルニ左ノ如シ

『勃牙利ノ「トラス」ニ對スル野心ハ危険千万ナリ土耳其ノ首府及「ダルダネル」海峡ノ安全ヲ期スルニハ土勃國境トシテ「アドリアノープル」ニ至ル「マリツァ」ヲ以テセサルヘカラス然ルニ倫敦條約中ニ斯クノ如キ決定

向ヲ示シタリ

茲ニ於テ勃牙利モ遂ニ其主張ヲ枉ケ八月二十九日、土耳其ノ要求通り其直接談判ニ応スルニ決シタリ

兩國全權委員ハ九月八日第一回ノ談判ヲ開キ以後主トシテ非公式會合ニヨリ交渉ヲ進メタルカ同月十七日ノ第四回公式談判ニ於テ全ク本問題ヲ解決セリ

新國境線ハ「マリツァ」河口ニ起リ同河ニ沿フテ北上シ「ムスタファアーパシヤ」ノ東ヨリ「レスウァヤ」(Reswaja)河ニ沿フテ同河口ニ終リ「アドリアノープル」全部ヲ始メ「キルクキリッセ」「デイモチカ」ハ土耳其ニ歸シ「チルノヴォ」「ムスタファアーパシヤ」「オルタカエ」ハ勃牙利ニ歸スルコトナレリ而シテ之ト同時ニ勃牙利領ニ於ケル「マホメット」教徒ノ待遇、俘虜交換及戰地住民ニ對スル損害賠償等ニ関シテモ大体解決ヲ告ゲ九月二十九日ヲ以テ土勃平和條約ハ遂ニ其ノ調印ヲ見ルニ至レリ

斯クシテ巴爾幹事件ハ五月三十日第一回ノ解決ヲ經、八月十日同盟諸國相互間内争ノ決定ヲ見、最後ニ九月二十九日土勃間ノ紛議終結ヲ告ケテ巴爾幹ノ天地風雲一過ノ觀アルニ當リ更ニ「アルパニヤ」ノ動亂ハ既ニ九月下旬ニ其端ヲ

発シ又半島ノ禍乱ヲ惹起スルニ至レリ

(七)

(自一九一三年九月
至一九一四年二月)

一九一三年九月二十九日締結セラレタル土勃条約ニヨリ約一年ニ亘リテ紛糾ヲ極メシ巴爾幹半島諸國間ノ關係ハ茲ニ漸ク平和復歸ノ曙光ヲ認ムルニ至リタル次第ハ前述ノ如シ而シテ唯、今次戦争ノ副産物シテ生シタル新邦即「アルバニア」ノ劃境並其ノ統治組織問題ト「エージアン」諸島ノ所属問題トハ未タ解決セラレサルニアルノミナリ

「アルバニア」ノ統治方法ハ第一次巴爾幹戦争開始以來既ニ列強ノ考慮ニ上リ彼ノ一九一三年五月八日ノ大使會議ニ於テ埃伊兩國ハ同地方ヲ永世中立國トシ列強ノ選定スル君主ノ統治ノ下ニ之ヲ置カシコトヲ提議セシカ露國ハ之ヲ絶對的獨立國タラシムルコトヲ否認シ寧ロ自治州ト為シテ土耳古ノ宗主權ヲ認メントセリ以來數回ノ協議ヲ重ネ七月二十九日左ノ如キ決定ヲ見ルニ至レリ

一、「アルバニア」ヲ獨立公國トナシ六ヶ月以内ニ統治者ヲ選定スベシ

二、公國ハ列強保障ノ下ニ永世中立國トスヘシ

三、統治者選定迄ハ「アルバニア」人及ヒ各列強ノ代表

ラルヘク当初「ヴァロナ」ニ都スルコトナレリ

之ヨリ先キ「アルバニア」ノ統治組織問題及劃境問題ノ未タ実行ノ運ヒニ至ラサル時ニ當リ一九一三年九月下旬「アルバニア」ノ動乱突發シテ一時埃太利、塞爾比亞間ノ危機ヲ伝ヘタリ今茲ニ其ノ次第ヲ記サンニ元來「ヂャコヴァ」

「プリズレンド」「デブラ」等ノ諸市ハ旧クヨリ「アルバニア」種族ト關係頗ル密ナルモノアリタルニ拘ハラス大使會議ニ於テハ塞國ノ意ヲ迎ヘ以上ノ諸市ヲ悉ク塞爾比亞ニ帰屬セシメタルカ為メ頗ル不自然ナル境界ヲ定メタル觀アリ加フルニ同地方多年ノ慣性タル激烈ナル人種の反目アリテ國境地方ノ状況甚タ穩カナラス何時大事ヲ醸スニ至ルヤ計ラレサルモノアリシガ遂ニ塞爾比亞カ國境ノ兵ヲ収メタルニ乘シ九月二十二日「アルバニア」種族ハ所謂武裝的隊團ヲ為シ塞國ノ新領土ニ侵入シテ先ヅ「デブラ」ヲ占領シ以來同様ノ隊團各所ニ蜂起シ「プリズレンド」「ストルガ」及ヒ「オクリダ」等ノ要地ヲ攻撃シタリ而シテ黒國ノ國境地方ニ於テモ「アルバニア」人ノ動乱相次テ生ジ而モ「マセドニア」ノ勃牙利匪團ノ之ニ參加スルアリテ事態漸ク重大ナルニ至レリ此ノ形勢ヲ予見シタル塞爾比亞ハ既ニ九月二

者ヨリ成レル委員會ニ於テ行政機關ヲ組織スヘシ

四、瑞西國武官ノ指揮ノ下ニ憲兵隊ヲ組織シ國內治安ノ任ニ當ラシムヘシ

斯クシテ「アルバニア」ノ仮政府ハ其成立以來主トシテ埃伊兩國ノ庇護ニヨリ辛ウシテ命脈ヲ保チシカ実ハ其ノ所在地「ヴァロナ」地方ニ於テ僅カニ治安ノ任ヲ行フニ過キス、加フルニ其ノ内部ニ於テ既ニ首相「イスマイル、ケマル」ト内相「イサッドパシヤ」ノ軋轢アリ旁々統治者ノ選定ハ一日モ之ヲ緩フスヘカラサルノ状態ナリ故ニ列強ハ前述ノ決定以來夙ニ其ノ人選ニ関シ頻々意見ノ交換ヲ行ヒタルガ候補者中、土耳其貴族ニシテ現埃及「ケヂフ」(Khediv)ノ弟ニ當ル「フアード」公 (Prince Fuad) 及ヒ独逸貴族「ヴィード」公 (Prince Wilhelm Friedrich Heinrich Von Wied) 最モ有力ニシテ二者何レモ關係諸國ヲ通シテ運動頗ル努ムルモノノ如クナリシカ「アルバニア」創設者ノ觀アル埃伊兩國ハ「ヴィード」公ガ三国同盟ノ勢力ヲ代表スルモノトシテ極力其ノ推薦ニ尽力シタルヲ以テ遂ニ列強ハ同公ヲ「アルバニア」君主ニ選定スルコトニ一決シ一九一四年一月十五日新「アルバニア」君主トシテ正式ニ冊立セ

十日列強ニ對シ自國ノ態度ヲ弁明シ現下ノ事態ニ鑑ミ國境ノ安全ヲ期スル必要ヨリ軍略上ノ要地ヲ占領スルコトアル可キヲ通告シタルカ愈々九月二十四日ヲ以テ動員ヲ始メ前後二個師團ノ兵ヲ動カシ約五萬ノ討伐軍ヲ國境ニ向ツテ進發セシメタリ之カ為メ侵入隊團ハ漸次撃退セラレ十月八日迄ニ塞爾比亞領ハ殆ント平定ニ歸セリ

之ヨリ先キ十月二日埃太利政府ハ軍事行動ノ範圍ニ関シ塞爾比亞ノ注意ヲ促シタルニ同政府ハ純然タル防衛手段ニ止マリ毫モ他意ナキ旨ヲ宣言シタルカ其ノ実討伐軍ハ隊團掃蕩後猶ホ「アルバニア」ニ於テ軍略上ノ諸要地ヲ占領シ而シテ同政府ハ其ノ占領ノ持續ヲ命スルノミナラス更ニ國境地方ニ向ツテ軍隊ノ動員ヲ企ツルアリ其態度ハ前ノ宣言ト頗ル相容レサルノ觀アリ、茲ニ於テ独埃伊ノ三国ハ十月十五日塞爾比亞政府ニ向ヒ「アルバニア」國境ニ関スル倫敦大使會議ノ決定ヲ尊重センコトヲ勸告シ同時ニ其ノ「アルバニア」領内ヨリノ撤兵ヲ要求シタルカ塞爾比亞ハ翌十六日列強ニ向ヒ「アルバニア」ニ於ケル秩序維持ノ保障確立シ國境問題等全ク解決セラルルニ至ル迄現ニ占領セル地点ヲ確保スヘキ意思ヲ表明シ容易ニ右ノ勸告要求ニ応スル色

ナキニ依リ埃國ハ更ニ十日十八日、同日ヨリ十日以内ニ撤兵ヲ断行センコトヲ強硬ニ要求シタリ、塞爾比亞ハ此ノ埃太利ノ強硬ナル態度ヲ見テ屈服ノ止ムナキヲ覺リ十月二十日遂ニ埃太利ノ要求ニ従フヘキ旨回答シ同二十五日撤兵ヲ完了シテ「アルバニア」動乱事件ハ茲ニ平穩ノ解決ヲ告クルニ至レリ

斯クテ塞爾比亞對「アルバニア」ノ紛議ハ埃、伊、独三国ノ干涉ニヨリ一先ツ落着シタルモ「アルバニア」南境劃定ニ関シ希臘ノ不服アリテ劃境事業頗ル遷延シ結局後ニ至リテ「エーリアン」群島問題ト併セテ解決ヲ見ルニ至レリ新「アルバニア」南境中「コリツツア」地方以南「コルフ」海道「スチロス」岬ニ到ル一帯ノ地方ハ特ニ組織セラルヘキ國際委員會ニ於テ主トシテ人種上ノ異同ニ基キ實地調査ヲ遂ケタル上劃定スヘキ旨倫敦大使會議（八月十一日ノ會合）ニ於テ決定セラレ同時ニ右調査事業ハ一九一三年十一月末日迄ニ完了スヘク且當時所屬未定地方ヲ占領セル希臘軍隊ハ同十二月末日迄ニ全ク撤退スヘキ旨決定セラレタリ而シテ境界劃定委員ハ十月十四日實地調査ニ着手シタレトモ地方人民ノ反抗ニヨリ事業頗ル困難ヲ極メタルカ埃伊兩

ラレタルヲ見其ノ提案ノ發表後直ニ列強ニ對シ抗議スル処アリ次テ十一月三十日反覆自國ノ意ノアル処ヲ表明セリ以來紛紜ヲ重ネ結局後ニ述フヘキ「エーリアン」群島問題ト連絡セル解決方策ヲ講スルノ已ムヲ得サルニ至レリ

「アルバニア」動乱事件ト前後シテ九月下旬、希、土兩國間ニ再ビ紛争ヲ生シ一時第三次巴爾幹戰爭ノ惹起ヲ危マシメタリ依テ茲ニ其ノ次第ヲ記サンニ希土間ニ於テハ其平和克復後ニ於テ猶ホ公私關係ノ未タ解決セラレサル案件甚ダ多カリシガ土耳其ハ塞爾比亞カ「アルバニア」動乱ノ渦中ニ投ジ希臘ヲ援助スル能ハサルニ乘シ義ニ勃牙利ヲ脅カシテ「アドリアナル」アドリアナル亞府ヲ得タルト同一手段ニヨリ此際希臘カ多島海諸島ニ對スル土耳其ノ要求其他ヲ肯セサル場合ニハ勃牙利ト結托シテ之ニ當ラントスル勢ヲ示シ實際上ニ於テモ土勃兩國ハ一時希臘ニ對シ利害ヲ同ウスル結果互ニ相接近スルノ傾向アリ之カ為當時土勃同盟說迄喧伝セラルルニ至リシカ羅馬尼亞政府等其ノ間ニ斡旋尽力スル処アリ双方交譲ノ結果十一月十三日遂ニ希土條約ノ調印ヲ見ルニ至レリ

一、戰爭前ノ諸條約ハ効力ヲ有スルコト

國ハ之レ偏ニ希臘官憲ノ使喚ニ基クモノトナシ十月三十一日希臘ニ對シ協同ノ警告ヲ發シ大ニ威迫スル処アリタリ英國ハ調査事業ノ遅タトシテ進捗セサルヲ見遂ニ十一月十九日妥協案ヲ提出シ列強間直接交渉ニヨリ確定案ト為サントセリ、其ノ案ニヨレハ南方境界線ハ「オクリダ」湖ノ南岸「ボグレード」ヲ發シ「プレспа」湖ノ西南端ヲ過キテ「コリツツア」地方ノ東境ニ沿ヒ其最南端（以上ハ既ニ大使會議ノ決定ヲ經タルモノ）ヨリ殆ント一直線ヲナシテ「レスコヴィキ」市ニ向ヒ更ニ西南ニ向ケ同シク略一直線ヲ為シテ「コルフ」海道「スチロス」岬ニ達スルモノニシテ繫争地域中「コロニア」(Colonia)「プレメチ」(Premeti)「レスコヴィキ」(Leskovici)ノ諸市ヲ始メ「アルギロカストロ」(Argirocastro)流域即チ同名地方南方ノ一部ヲ除ク外總テ之ヲ「アルバニア」所屬トシ「コニツツア」及ビ「ビンド」地方ノミヲ希臘所屬トセントスルモノナリ

本案ハ既ニ三国協商側ノ賛同ヲ得且ツ主トシテ「アルバニア」側即チ埃伊兩國ノ主張ニモ応シタルモノナルヲ以テ三国同盟側ニ於テモ異議ナキカ如ク結局大体ニ於テ右提案通り決定ヲ見ントセリ然ルニ希臘ハ自國ノ主張カ全部没却セ

二、戰爭又ハ事件ノ關係者ニ恩赦ヲ行フコト

三、割讓地住民ニ三年間ノ國籍選択權ヲ与ヘ其財産ヲ保有セシムルコト而シテ其ノ所有權ハ公共ノ安寧上必要ナル時ハ賠償ヲ与ヘテ之ヲ収用スル場合ノ外確保セラ

ルコト

四、土耳其皇帝及皇族ノ私有財産ハ之ヲ認ムルコト、而シテ國家ノ私有財産ノ帰屬問題ハ海牙仲裁々判ノ裁決ニ任スコト

五、俘虜給養ニ関スル問題ハ海牙仲裁々判ノ裁決ニ附スルコト

六、宣戰前捕獲セラレタル船舶ハ解放セラルヘク其損害賠償ノ要求ハ兩國ノ選定シタル特別仲裁々判ノ裁決ニ附スルコト

七、ムフチ（回々教徒ノ裁判官）及ヒ其ノ法權ノ問題解決ニ関スル規定

八、ヴァクフ（宗教上ノ財産）ハ尊重セラル、コト而シテ其ノ十分一税ハ之ヲ廢スルコト、但シ各種寺院カ自ラ維持スルヲ得サルトキハ希臘政府ハ之ヲ補助スルコト

「エーリアン」群島所屬問題ハ巴爾幹ノ平和恢復ニヨリ早晩解決ヲ要スルモノナルカ前記「アルバニア」南境劃定ノ事業遷延シ其ノ結果希臘カ予テ協定セル撤兵期一九一三年十二月三十一日ニ至ルモ撤兵ヲ実行スルコトナキハ明ナルヲ以テ埃伊兩國ハ若シカ、ル際ニハ希臘ニ迫リ是非共其ノ撤兵ヲ強要セントスル意思ヲ有スルモノ、如ク、為メニ「アルバニア」ノ時局更ニ紛糾ヲ加フヘキコト予測スルニ難カラザルモノアリ此ノ形勢ノ推移ヲ予知シタル英國ハ曩ニ妥協案ヲ提出シテ南境劃定事業ノ進捗ヲ計リシ行掛上此際「アルバニア」南境劃定問題ト「エーリアン」諸島所屬問題トヲ併セテ解決セント欲シ一九一三年十二月十三日、

案ヲ具シテ關係諸國ニ同文通牒ヲ発シタリ其内容次ノ如シ
一、希臘軍隊ノ「アルバニア」撤退期ニ關シテハ國境劃定後尚一ヶ月ノ猶予ヲ与フルコト

二、大使會議ノ際埃伊兩國ノ提議ニ基キ希臘ヲシテ「エピルス」ニ於テ少ナカラサル讓歩ヲ為サシメタル代リ「エーリアン」諸島所屬問題ニ關シテハ同國ニ補償スル処アルヘキ旨協定シタル義ナルヲ以テ此際「エーリアン」諸島中「ダルダネルス」海峡入口ニアル「イム

意セリ茲ニ於テ一九一四年一月二十三日英國ハ更ニ列強ニ對シ問題解決ニ關スル意見ヲ表示シ且列強ノ意思決定セル上ハ之ヲ茲ニ協定シテ希土兩國ニ通告センコトヲ提議シ遂ニ列強ノ同意ヲ得テ二月十三日希臘ニ對シ共同ノ通牒ヲ送レリ其内容次ノ如シ

一、目下希臘ノ占領セル「イムブロス」「テニドス」「カステロリツツォ」ハ土耳其ニ還附セラルヘク其他ハ總テ希臘ノ領有ニ歸スヘキコト

二、希臘ハ其領有諸島ニ防備ヲ施シ又ハ之ヲ軍事上ノ目的ニ使用スルコトナカルヘク且該諸島ト土耳其領土トノ間ニ禁制品ノ出入ヲ防止スヘキ有力ナル措置ヲ執ルカ為メ列強及ヒ土耳其ニ對シ満足ナル保障ヲ供スヘキコト

三、希臘ハ右諸島内ニ於ケル回々教住民ノ保護ニ關シ列強ニ對シ満足ナル保障ヲ供スヘキコト

四、希臘ノ諸島領有ニ關スル決定ハ同國軍隊カ「アルバニア」領土ヨリ全ク撤退シ且同國政府カ列強ノ南「アルバニア」ニ於テ確定セル事態ニ對シ自ラ抵抗セス又他ノ抵抗ヲ援助セサルコトヲ誓約スルヲ待テ初メテ確

ブロス」及「テニドス」ノ二島ヲ除キ目下希臘ノ占領セル諸島嶼ハ全部希臘ヲシテ之ヲ領有セシムルコト、但シ希臘ヲシテ其ノ領有ニ歸シタル諸島嶼ニ砲臺ヲ築キ或ハ海軍根拠地ヲ設ケサルヘキコトヲ約セシメ尚小亜細亞沿岸各地方ト禁制品ノ取引ヲ為サシメサルコト三、「エーリアン」諸島中伊國軍隊ノ占領シ居ルモノハ土耳其ニ於テ「ロザンヌ」條約ノ履行ヲ條件トシ之ヲ土耳其ニ還付スルコトナリ居レル処今ヤ右條件成就セリト認メラルルニ至リタルヲ以テ本件解決ノ期ハ茲ニ到来セルモノト認ム、尤モ右諸島嶼、土耳其ニ還附ノ上ハ同島住民ニ自治ヲ許スコト

此ノ英國ノ提議ニ對シ露仏兩國ハ直ニ同意ヲ表シタルモ三國同盟側ノ回答ハ頗ル遷延シ交渉ノ前途ヲ危マシメタルカ、獨埃伊三国ハ遂ニ十二月三十一日、希臘軍隊ノ撤退期限ヲ一月十八日迄延期スルコトニ同意シ更ニ一月十四日第二回ノ回答ニ於テ希臘カ右新期限内ニ撤兵ヲ完了スルニ於テハ「ダルダネルス」海峡ニ接近セル「イムブロス」「テニドス」及ビ小亞細亞南岸ノ小島「カステロリツツォ」ヲ除ク外「エーリアン」諸島ハ總テ之ヲ希臘ニ屬セシムルニ同

定セラルヘキコト

五、撤兵ハ三月一日「マリツツァ」地方及「サセノ」等ニ始マリ三月三十一日「デルヴィン」地方ニ於テ終ルヘキコト

土耳其ニ對シテハ翌十四日同一ノ形式ヲ以テ前記五項ノ内一、二、三ノ條項ヲ通告セリ

土耳其政府ハ二月十五日之ニ回答シ列強カ今回ノ決定ニ於テ土耳其ノ痛切ナル利害ヲ十分ニ考慮セス且一切ノ重大ナル困難ヲ除クヘキ解決方法ニ依ラサリシヲ遺憾トシ叙上三島ニ關スル列強ノ決定ヲ認諾スルト共ニ自國ノ要求ヲ正当ニ實現センコトヲ努ムヘキ旨ヲ述ヘタルカ希臘政府モ二月二十一日之ニ回答シテ土耳其領有諸島ニ關スル列強ノ決定ニ從フト共ニ右諸島カ他ヨリ攻撃ヲ受ケス且其小亞細亞對岸ニ於テ攻撃の措置ヲ執ラシメサルカ為メ列強ノ保障ヲ要スルコト、土耳其ニ還附スヘキ諸島ニ於ケル希臘人ハ教育上及宗教上ノ自由ヲ確保スルカ為メ土耳其ノ保障ヲ要スルコト「アルバニア」南境ニ關シテハ列強ノ決定ニ從ヒ指定ノ期限内ニ撤兵ヲ実行スヘキト共ニ國境ノ一部ヲ改訂シテ「アルギロカストロ」地方北部ノ數村落ヲ自國領ニ編入シ

之ニ対シ「アルバニア」海岸線ヲ南方「パガニア」迄延長シ且ツ希臘ハ二百五十万法ヲ「アルバニア」ニ仕払フベキコト並ニ「コルフ」海道ヲ特別有力ナル中立タラシメンコトヲ希望スル旨通告セリ

斯ノ如クシテ「アルバニア」劃境問題及「エーリアン」諸島所屬問題ニツキ未タ解決ヲ見サルニ當リ一九一三年十二月、独国「リマン」中將以下多数將校カ土耳其陸軍ニ招聘セラレタル件ニ関シ露仏ノ強硬ナル反抗ヲ招キ殊ニ露国ノ対土独ノ感情頗ル面白カラサルモノアルニ至リ又「アルバニア」内部ニ於テモ既ニ決定セル君主ヲ排斥シテ回々教徒タル「アルバニア」人ヲ擁立セントシ一九一四年一月六日「アルバニア」人中ノ一部有力者ハ「デュラツツォ」ニ会合シテ「イゼット、パシャ」將軍擁立ヲ宣言シタルガ之ト氣脈ヲ通スル土耳其ノ將卒約二百名ノ上陸ヲ阻止シ得タル結果僅カニ一時ノ危急ヲ免レタル如キモ時局ノ赴ク処前途ノ形勢容易ニト知シ難キモノアルカ如シ

巴爾幹事件ニ關聯シテ土領「アルメニア」改革問題ナルモノアリ本問題ハ素ト巴爾幹事件ノ大系ニハ關係スル所尠ナキモ参考ノ為メ茲ニ其ノ大要ヲ述ヘンニ該問題ハ既ニ一九

既成事實 (fait accompli) ノ筆法ヲ用キテ之ヲ覆サントシ十月三十日突然勅令ヲ以テ改革案ヲ發表セリ、此ノ間独逸ハ暗々裡ニ土耳其ヲ庇護シテ露国ヲ控制シ殊ニ旧來終始一貫改革ノ実行ヲ主張シタル英国カ協商国間ノ情誼ニヨリ表面露国ノ行動ニ反対スルコトヲ敢テセサルモ土耳其ニ於ケ

一三年四、五月ノ交ヨリ列強ノ考慮ニ上リ在土京列国大使ハ為ニ屢々會合ヲ開キテ右ニ関スル協議ヲ為シタリ、元來露国ハ本問題ガ伯林條約ニヨリ國際的性質ヲ帶ヒ来リシヨリ常ニ非干渉主義ヲ標榜セリ蓋シ自国領内「アルメニア」族ノ政治上及經濟上ノ發展著シキモノアルニヨリ若シ土耳其領ノ同族ヲ保護センカ惹イテ自国ノ累ヲ為スコトアルヘキヲ慮リテナリ、然ルニ最近自国内「アルメニア」族ノ獨立又ハ革命ノ氣勢殆ント跡ヲ断チシモノアルヲ見、寧ロ土領「アルメニア」族ヲ保護シテ他日ノ發展ニ資セントシ從來ノ守旧的態度ヲ一變シ自ラ改革案ヲ提議スルニ至レリ露国案ノ要点ハ「アルメニア」六州ヲ合併シテ一州トナシ之ヲ齊一的行政ノ下ニ置キ基督教徒タル總督ヲ戴カシメントスルニアリテ英仏ノ贊成ヲ得六月七日ヲ以テ大使會議ニ提出セリ之ニ対シ土耳其ハ七月一日自己ノ改革案ヲ列強大使ニ致シ其ノ承認ヲ求メタリシカ露国ハ土耳其ノ意ヲ容レテ原案ヲ修正シ「アルメニア」諸州ヲ分合シテ二州トナシ各州ニ列強ノ推挙ニ基キ土国政府ノ任命スル欧州人ノ總監督官ヲ置クコト等ニ改メ右修正案ハ十月下旬ヲ以テ成立シ土耳其ノ承認ヲ要求セリ、然ルニ土耳其ハ其慣用手段タル

ル利害背馳ノ結果自ラ其ノ態度ヲ決スルニ遲躊スル所アリテ「アルメニア」改革ノ前途頗ル疑ハシキモノアルニ至レリ